

第5章 遺物

第1節 土器〔図版第七～二十七（1）〕

本遺跡において包含層および堅穴住居跡より多量の遺物を検出した。以下、包含層出土遺物、遺構出土遺物の順に報告する。

本遺跡出土土器は、縄文時代中期前葉から晩期前葉までの時間幅を有する。主体となる時期は中期後葉である。土器のうち器形を復元できたものが62点あり、実測図として表示した。出土土器に対する分類は有文系深鉢形土器を中心に行い、文様要素・文様構成・器形等により1～34群に分類した。内訳は有文系深鉢形土器が1～23群、素文系深鉢形土器（無文土器・縄文土器・櫛描沈線文土器）が25～27群、壺形土器・鉢形土器・浅鉢形土器・椀形土器等の器形が24・28～32群、脚部と底部が33・34群である。

各群の内容は、次の通りである。

- 第1群土器 半隆起線文による、幾何学文を主文様とする土器
- 第2群土器 連続爪形文を施した土器
- 第3群土器 貼り付け隆帯で文様を構成する土器
- 第4群土器 半隆起線文がパターン化し、胴部に渦文・懸垂文をもつ土器
 - 1類 貼付隆帯による基軸を有さないもの
 - 2類 貼付隆帯による基軸を有するもの
- 第5群土器 刺突文列を口縁に並行させる土器および貼り付け隆帯により曲線的な文様を施す土器
- 第6群土器 口縁部に横S字状の隆帯を配す土器
- 第7群土器 キャリバー器形で、幅広の沈線により口縁部に渦巻文や楕円文を描く土器
- 第8群土器 無文地に隆帯で曲線的な文様を構成する土器
- 第9群土器 キャリバー器形で、胴部に縦位に分割した文様区画をもち、区画内に矢羽根状沈線を充填する土器
 - 1類 口縁部に区画隆帯をもち、区画内に刺突文を充填するもの
 - a種 胴部上端に刻み目隆帯を配し胴部沈線区画のもの
 - b種 頸部に刻み目のみを配し胴部沈線区画のもの
 - c種 胴部上端ないし頸部に刻み目を有さず胴部隆帯区画のもの
 - 2類 口縁部に区画隆帯をもち、区画内に矢羽根状沈線を充填するもの
 - a種 胴部上端に刻み目隆帯を配し胴部沈線区画のもの
 - b種 胴部上端に刻み目のみを配し胴部隆帯区画のもの
 - c種 頸部に刻み目のみを配し胴部沈線区画のもの
 - d種 胴部上端ないし頸部に刻み目を有さず胴部隆帯区画のもの
 - e種 胴部上端ないし頸部に刻み目を有さず胴部沈線区画のもの
 - 3類 口縁部文様帯が無文のもの
 - a種 胴部上端に刻み目隆帯を配し胴部沈線区画のもの
 - b種 胴部上端ないし頸部に刻み目を有さず胴部隆帯区画のもの
 - c種 胴部上端ないし頸部に刻み目を有さず胴部沈線区画のもの
 - 4類 口縁部文様帯をもたないもの

- a種 胴部隆帯区画のもの
- b種 胴部沈線区画のもの
- 5類 大波状口縁のもの
 - a種 胴部上端に刻み目隆帯を配し胴部隆帯区画のもの
 - b種 胴部上端に刻み目を有さず胴部隆帯区画のもの
- 6類 把手をもつもの
- 第10群土器 キャリバー器形で、胴部に縦位分割した文様区画、口縁部に区画隆帯をもち、区画内に縄文を充填する土器
- 第11群土器 キャリバー器形で、口縁部に隆帯による文様を配す土器
- 第12群土器 円筒形に近い器形や朝顔形器形を呈し、胴部に垂下する沈線や帯縄文で縦位構成の文様を配置する土器
 - 1類 口縁部に沈線による区画文を配し、区画内に矢羽根状沈線ないし縦位沈線文を充填するもの
 - 2類 口縁部に沈線によるモチーフを配すもの
 - 3類 横走回線により区画した文様帯を配すもの
 - 4類 口縁部文様帯をもたないもの
- 第13群土器 胴部が張った器形を呈し、胴部に縦位に分割した文様区画をもち、区画内に矢羽根状沈線を充填する土器
 - 1類 口縁部文様帯が無文もの
 - 2類 大波状口縁のもの
- 第14群土器 胴上半部に括れをもつ器形で、直立気味に立ち上がる口縁部に集約した文様を配す土器
 - 1類 口縁部文様帯を段もしくは厚みによって頸部以下と区分するもので水平口縁のもの
 - a種 段により頸部以下と区分するもの
 - b種 厚みにより頸部以下と区分するもの
 - 2類 波状口縁で幅広に面をもつ波頂部側部を段により器表面と区分するもの
 - 3類 口縁部文様帯を隆帯によって頸部以下と区分するもの
 - 4類 口縁部文様帯を段や隆帯によって、頸部以下と明瞭に区分しないもの
- 第15群土器 口縁がやや内弯し、胴上半部に括れをもつ器形で、沈線で曲線的なモチーフを描く土器
 - 1類 頸部もしくは胴部に縦位の蛇行沈線を配すもの
 - 2類 口縁部から胴部まで曲線的な連続した文様を配し、縄文の充填を行わないもの
 - 3類 口縁部文様帯に楕円区画文など、胴部に沈線による曲線的なモチーフを配し、縄文を有すもの
 - a種 沈線区画内に縄文を有するもの
 - b種 沈線区画内外に縄文を有するもの
 - c種 沈線区画外に縄文を有するもの
- 第16群土器 明確な口縁部文様帯をもたず、口縁部から胴部まで沈線で曲線的な連続した文様を構成し、磨消区画もしくは縄文充填区画を有する土器

- 1類 水平口縁で口縁を直立させるもの
- 2類 水平口縁で口縁を内弯させるもの
- 3類 水平口縁で口縁を外反させるもの
- 4類 水平口縁で口縁を折り返すもの
- 5類 波状口縁で口縁を直立させるもの
- 6類 波状口縁で口縁を内弯させるもの
- 7類 波状口縁で口縁を折り返すもの
 - 各類a種 沈線区画内に縄文を有するもの
 - 各類b種 沈線区画外に縄文を有するもの
- 第17群土器 頸部に蛇行する横走沈線を配す土器
- 第18群土器 口縁部が直線的に開く器形で、面をもつ口縁端部直下に縄文を充填する三角形のモチーフを配す土器
- 第19群土器 口縁部が直線的に開く器形で、口縁部に横走する隆帯を配し、頸部に2～3条の沈線で文様を描く土器
- 第20群土器 直立する口縁をもち、口唇部に数条の沈線により直線的な文様を配す土器
- 第21群土器 沈線・刺突などにより加飾した、突起ないし把手状の口縁波頂部をもつ土器
- 第22群土器 内弯する口縁に渦巻文を配し、外反する頸部に縦位の向かい合う重弧状沈線を配す土器
- 第23群土器 口縁部が内弯し、頸部で括れ、胴部が張る器形で、口縁部と胴部にやや幅広の文様帯をもつ土器
- 第24群土器 三叉文を特徴とする文様を配す、浅鉢形器形の土器
- 第25群土器 縄文土器
- 第26群土器 櫛描沈線文土器
- 第27群土器 無文土器
- 第28群土器 壺形土器
- 第29群土器 鉢形土器
- 第30群土器 浅鉢形土器
- 第31群土器 碗形土器
- 第32群土器 鍔付土器
- 第33群土器 脚部
- 第34群土器 底部

なお、第9・11～13群土器の頸部破片および胴部破片については、各群および類に分離することが困難であり、一括提示するに留める。ここでは、それらを便宜的に第9群土器2類に含め、頸部の形状の不明なものについてはd種およびe種に割り振った。口縁部破片については、種別にまで分類困難のため類別の段階に留めた。

I 包含層出土遺物

第2群土器 (第45図1～3)

1～3は低い貼り付け隆帯上に爪形および刻みを施すもの。2は円形浮文を配す。

第3群土器 (第45図4～6)

第4群土器 (第45図7～12)

1類 (第45図7～10)

2類 (第45図11・12)

11・12は貼付隆帯上に刻みを有する。直線的なモチーフを有するものと思われる。

第7群土器 (第45図13～16)

13は口縁部に楕円区画文をもつ、強く内弯するキャリバー器形の土器。14は口縁部から縦位に2条の列点を垂下させる土器。15・16は胴部上端に横走する沈線を配す土器。

第9群土器 (第45図17～45、第46図1～50、第47図3～6・8)

1類 (第45図17～19)

18は波状口縁。

2類 (第45図20～45、第46図1～50)

第45図31は本類においては、やや厚手の作りで、波状を呈し、口唇部に刺突を有するもの。

a種 (第45図42・43)

c種 (第45図27・36・44・45)

第45図36はやや緩い波状口縁を呈し、口縁部に微隆帯による区画文を配する。口縁部区画間に刺突を有する。口縁部区画内を充填する文様は不明である。口縁部文様区画に沿うように刺突を頸部に全周させる。

d種 (第46図1～18)

第46図1～10は胴部区画隆帯内側を沈線+刺突でふちどるもの。第46図11～18は胴部区画隆帯内側を沈線でふちどるもの。第46図5は沈線+刺突の区画と沈線のみ区画が同一器面に存在する。

e種 (第46図19～50)

第46図19～31・33・34・36～40は胴部沈線区画内に矢羽根状沈線のみを施すもの。第46図19・20は区画外に蛇行する張り付け隆帯を配す。第46図32・35は胴部区画外に蛇行する沈線を配すもの。第46図41～46は胴部沈線区画内に矢羽根状沈線+蛇行沈線を施すもの。第46図47・48は沈線区画内に蛇行沈線のみを施すもの。第46図49・50は胴部沈線区画内に櫛状工具を用いて矢羽根状沈線を施すもの。

5類 (第47図3・5・6)

3は波頂部側面に刺突を有すもの。

6類 (第47図4・8)

4は把手部に刺突を有すもの。8は横走する文様帯に把手を有すもの。

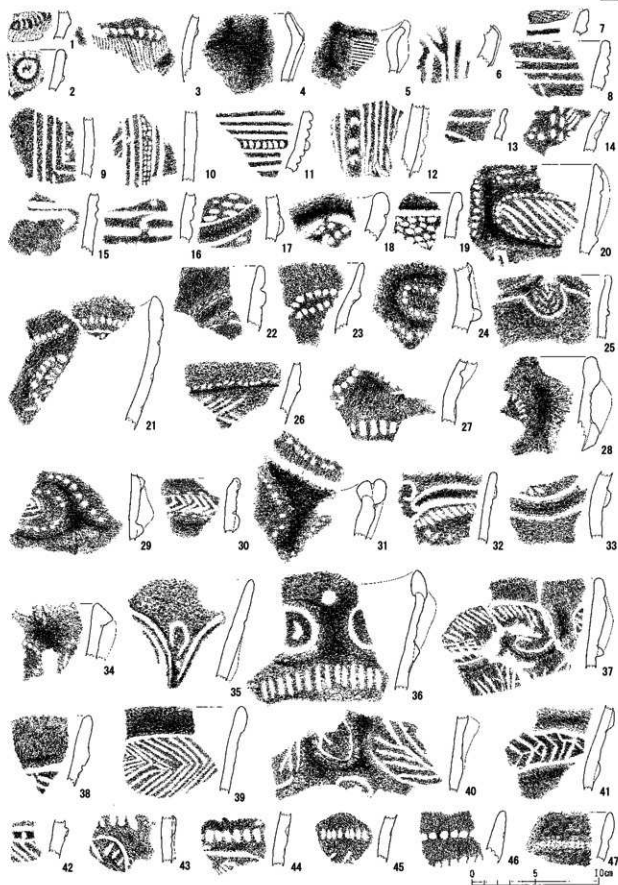
第10群土器 (第47図7・9～17)

本群土器の口縁形態は、平縁・波状縁のほか、突起を施すものもある。

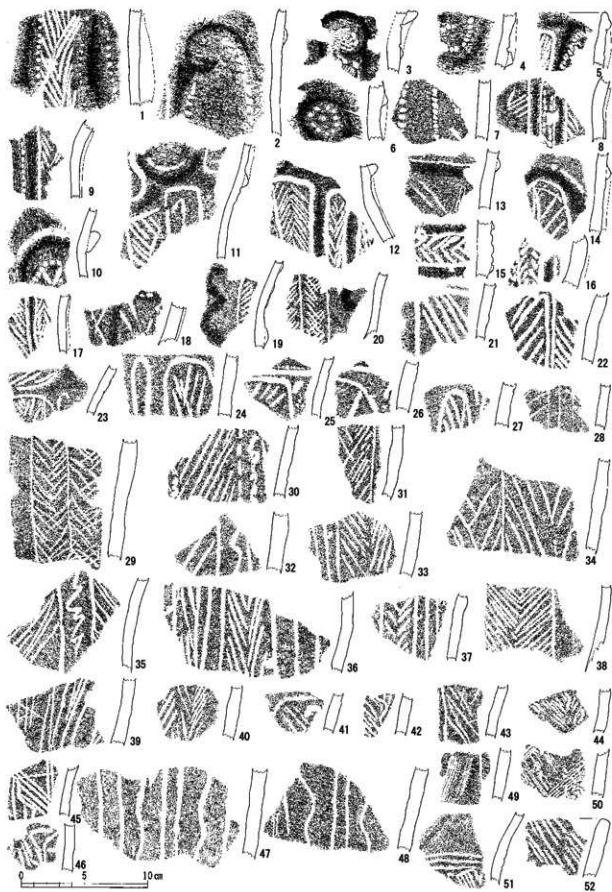
7は水平口縁。9～11は波状口縁ないし突起を有すもの。

12～17は胴部破片。

第12群土器 (第45図46・47、第46図51・52、第47図1・2)



第45圖 包含層出土土器実測圖(1)(縮尺1/3)



第46圖 包含層出土土器実測圖(2)(縮尺1/3)

1類 (第45図46・47)

46・47は口縁部文様帯を構成する沈線内に刺突を施すもの。

3類 (第46図51、第47図1・2)

第47図1は1本の横走回線により口縁部文様帯を作り出すもの。口縁部文様帯内には矢羽根状沈線を充填。横走回線から縦位の沈線を垂下させることにより胴部文様区画を作り出す。胴部文様区画内も矢羽根状沈線の充填。口唇部に刻みを有する。第47図2は数条の横走回線を口縁部に巡らすもの。口唇直下に縄文を有する。

4類 (第46図52)

第14群土器 (第47図18～23)

3類 (第47図18・19)

4類 (第47図20～23)

20は口縁部区画沈線を連続押し引きによって成すもの。23は沈線区画内外に縄文を有するもの。

第15群土器 (第47図24～34)

2類 (第47図24～30)

3類 (第47図31～34)

a種 (第47図31・32)

32は口縁部付近の区画内には単節斜縄文LR、胴部付近の区画内には撚糸。

b種 (第47図34)

c種 (第47図33)

第16群土器 (第47図35～41、第48図1～29)

1類a種 (第47図35～37)

2類 (第47図38～41、第48図1～3)

a種 (第47図39・40・41、第48図1・2)

b種 (第47図38、第48図3)

第48図3は鉢形器形を呈すと考えられる。

3類a種 (第48図4～6)

4類 (第48図7・8)

a種 (第48図7)

b種 (第48図8)

6類a種 (第48図9・10)

7類a種 (第48図11～15)

胴部破片 (第48図16～29)

第17群土器 (第48図33～35)

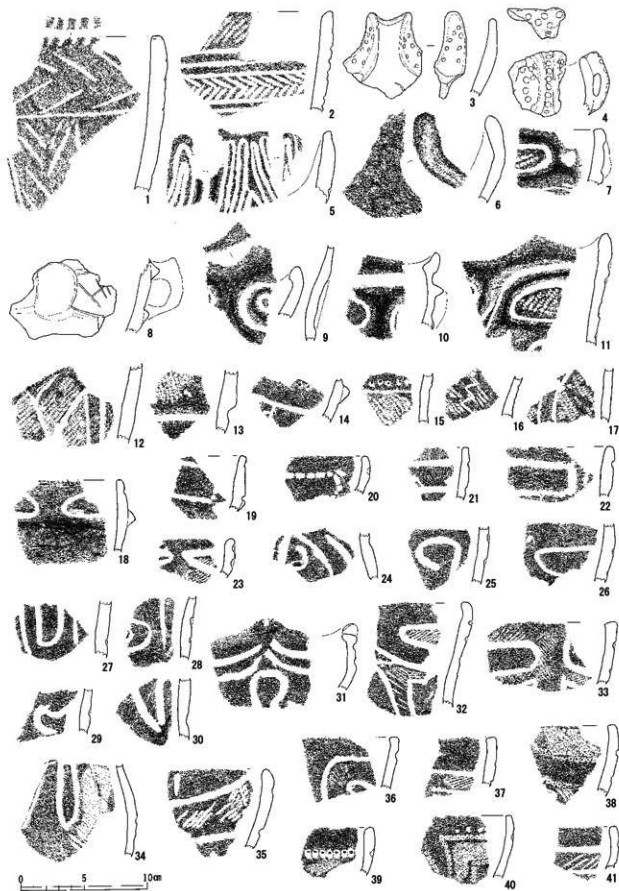
第18群土器 (第48図37・38)

第21群土器 (第48図30～32)

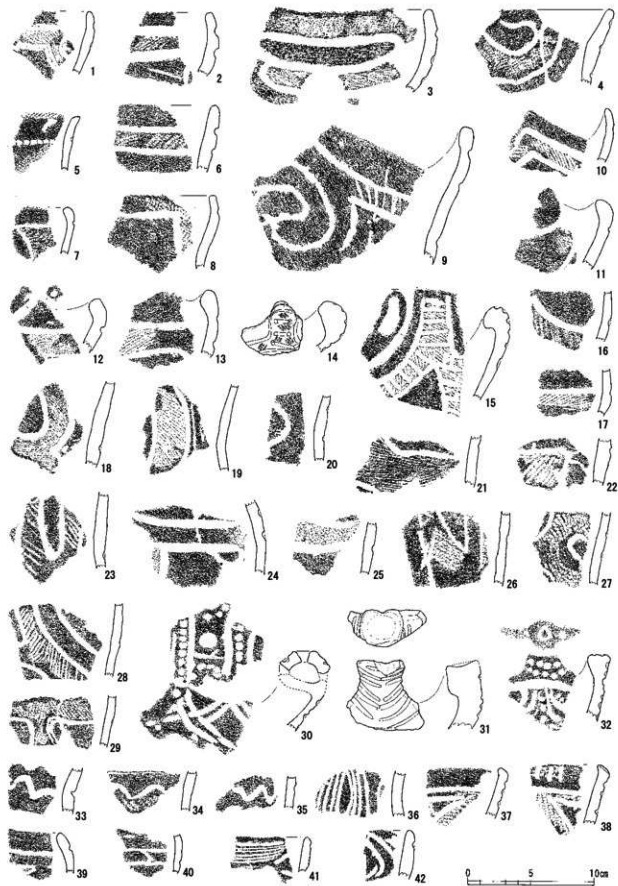
第22群土器 (第48図36)

第23群土器 (第48図39・40)

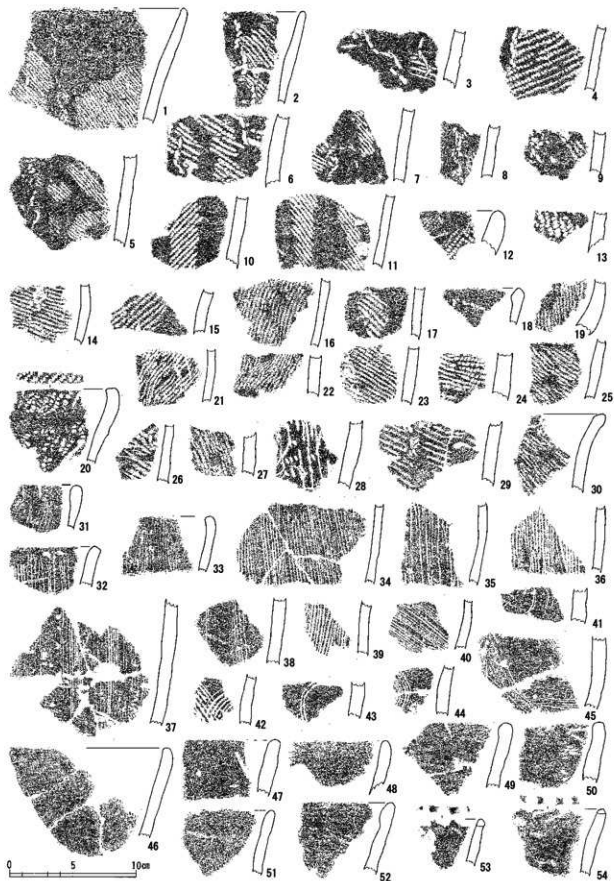
第24群土器 (第48図41・42)



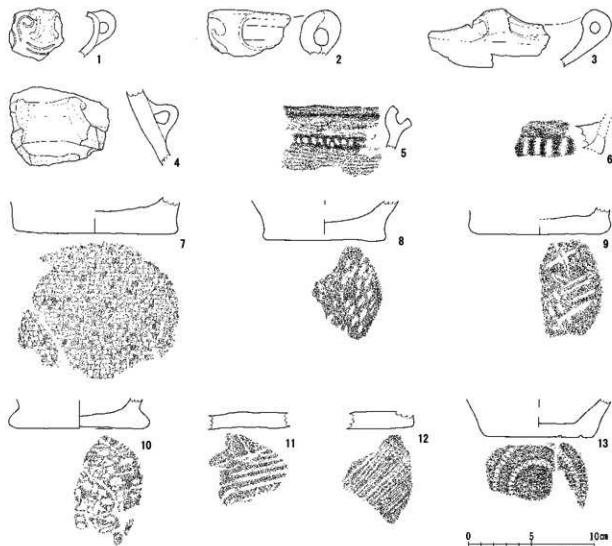
第47圖 包含層出土土器実測圖(3)(縮尺1/3)



第48圖 包含層出土土器実測圖(4)(縮尺1/3)



第49圖 包含層出土土器実測圖(5)(縮尺1/3)



第50図 包含層出土土器実測図(6) (縮尺1/3)

第25群土器 (第49図1~30)

1・2・6・7は結節縄文・帯縄文を併用するもの。3~5・8・9は結節縄文を施すもの。10・11は帯縄文を施すもの。12~17は単節斜縄文R Lを施すもの。18~24は単節斜縄文L Rを施すもの。25~30は無節斜縄文Lを施すもの。

第26群土器 (第49図31~45)

31~37は器面全体に縦位直線文を施すもの。38は縦位直線文を施すもので空白部をもつもの。39・40は不定方向に直線文を施すもの。41~45は曲線文を連続させるもの。

第27群土器 (第49図46~54)

46~52は外反する口縁のもの。53・54は外反する口縁で、口唇部に刻みを有すもの。

第29群土器 (第50図1~4)

第32群土器 (第50図5)

第33群土器 (第50図6)

6は脚部との連結部。

第34群土器 (第50図7~13)

II 遺構出土遺物

遺構出土の遺物を報告するにあたって、遺構ごとに遺物を報告していく。破片資料については注記に従って帰属遺構を判断した。堅穴住居跡出土のもので、復元実測し得たものについては、注記の上で複数住居跡の覆土に存在していた破片が接合したものがあつた。特に、2号住居跡5区・4号住居跡2区・5号住居跡2区で接合する状況が多い。これらの区画は互いに隣接するため、単純に遺構間接合として捉えることはできない。覆土の形成・流入過程、または二次的な攪乱による埋没後の土器移動の可能性も考えられる。堅穴住居跡の切り合いといった事象を考えた場合、一方が完全に埋没した後にもう一方が掘りこまれたと考えるのが妥当であり、土層堆積状況図もそれを示している(第35図)。しかし、遺構密度が高く、遺構の重複が激しかったため、立ち上がりが確実なものとは言い難い部分もある。破片数の多い区画に帰属させる方法もあつたが、区画面積が均一でないといった問題もあり採用しなかつた(第14図)。ここでは恣意的であるが、検出区画が明瞭な土器を基準とし、複数住居跡の覆土に存在していた破片が接合したものについては文様要素・文様構成の上で類似した土器群が出土した区画に振り分ける方法を採用した。このため、復元実測し得た土器のうちには帰属住居が適切なものではない可能性をもつものもある。出土地区については第2表に記した。

1号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第9・12・14～16・19・25・27・31・32・34群土器である(第51～52図)。

第9群土器 (第51図1、第52図1～3)

2類 (第52図1～3)

e種 (第52図2・3)

4類b種 (第51図1)

1は頸部で緩く括れ、外反しつち立ち上がる口縁を呈する器形。8単位の小突起を有する。小突起間には口唇部に3つ一組の刻みを有する。突起部より逆U字状に沈線を垂下させ、その逆U字状に垂下した沈線の右側に逆L字状の沈線をぶつけることにより胴部区画を形成。胴部区画内に矢羽根状沈線を充填する。胴部文様区画は口縁の小突起に対応しており8単位。

第12群土器 (第52図4)

2類 (第52図4)

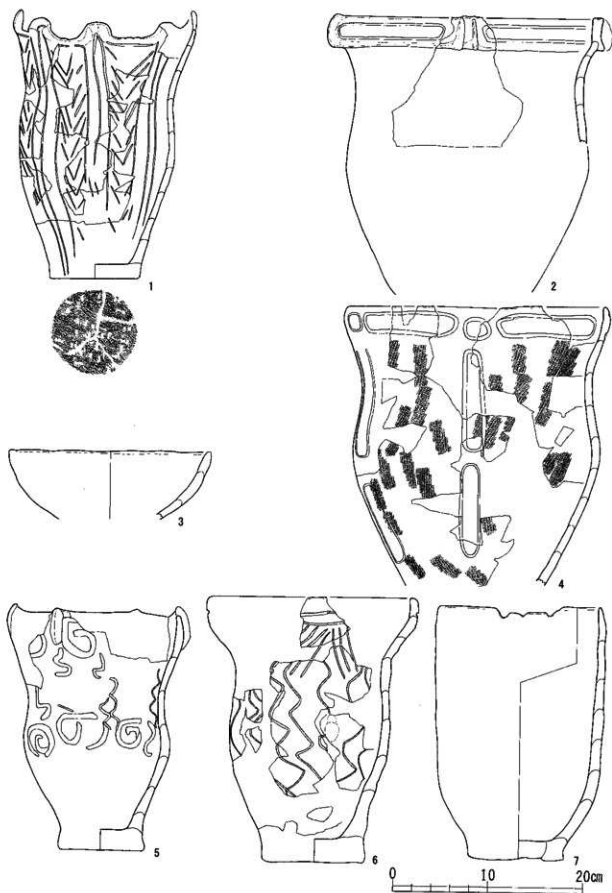
第14群土器 (第51図2・4)

1類a種 (第51図2)

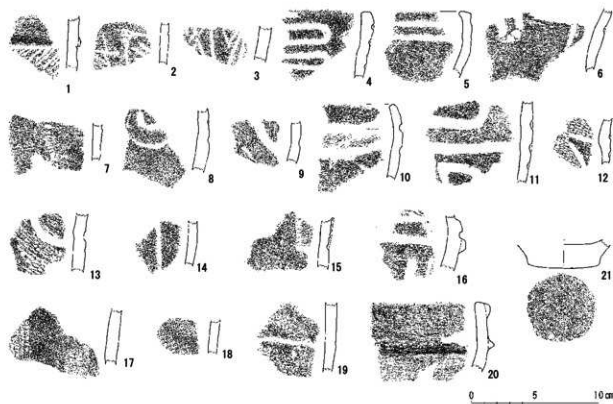
2は胴部がやや膨れ、頸部で緩やかに括れながら立ち上がり、直立する口縁を有する器形。口縁部に4単位の突起を有し、その間に楕円区画を配する。胴部は摩滅が著しく文様の有無は不明。

4類 (第51図4)

4は胴部がやや膨れ、頸部で緩やかに括れながら立ち上がり、やや直立する口縁を有する器形。口縁部の残存率が低いため明らかではないが、口縁部に6単位の沈線による円形の単位文を配し、その間に沈線による楕円区画を施すものと考えられる。単位文想定部位より下方に1～2単位の縦長の楕円区画が展開すると思われるが、正確な文様構成は不明。地文として縦位方向に撚りの堅いRL。



第51图 1号住居跡出土土器実測図(1)(縮尺1/4)



第52図 1号住居跡出土土器実測図(2) (縮尺1/3)

第15群土器 (第51図5・6、第52図5～9)

1類 (第51図5・6)

5はやや張った胴部を有し、胴上部で緩やかに括れ、やや直立する口縁を有する器形。口縁部に6単位の突起を有する。口縁部と胴部に渦文を配す。頸部から胴部に蛇行沈線を配す。埋甕として埋設されていた。6は胴部から緩く立ち上がり、頸部で若干括れ、直立する口縁を有する器形。おそらく水平口縁を呈する。口縁部の文様構成は不明。胴部に蛇行沈線を配す。胴部に指頭圧痕が認められる。

2類 (第52図5～9)

第16群土器 (第52図10～15)

2類a種 (第52図10)

胴部破片 (第52図11～15)

第19群土器 (第52図16)

第25群土器 (第52図17～19)

17は帯縄文を施す。原体は無節斜縄文L。18・19は単節斜縄文LRを施す。

第27群土器 (第51図7)

7は胴部からほぼ直立する器形で口唇部に刻みを有す。

第31群土器 (第51図3)

第32群土器 (第52図20)

第34群土器 (第52図21)

2号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第1・9・10・12～16・19・20・22・25～27・34群土器である（第53～56図）。

第1群土器（第54図1・2）**第9群土器**（第53図1・2・4・5、第54図3～16・20・21・23～31）**1類**（第54図3）**2類**（第53図1・2、第54図4～16・20・21・23～27・30・31）**a種**（第53図1、第54図13）

第53図1は6単位の波状口縁。口縁部文様帯は、渦巻+楕円の隆帯区画文6単位で構成。区画内には矢羽根状沈線を充填。口縁部文様上部に両端を下側におりこむ単沈線を配する。胴部文様帯は沈線による下部を開放した方形区画内に矢羽根状沈線を充填。

c種（第53図2、第54図14・15）

第53図2は6単位の波状口縁を呈する。口縁部文様帯は、渦巻+楕円の隆帯区画文6単位で構成。区画内には矢羽根状沈線を充填。胴部文様帯は沈線による下部を開放した方形区画内に矢羽根状沈線を充填。

d種（第54図20・23）**e種**（第54図21・24～27・30・31）

30は胴部区画外に蕨状文を有する。

3類c種（第53図4）

4は口縁部が強く外反する器形を呈する。胴部文様帯は沈線による逆U字状の区画内に矢羽根状沈線および蛇行沈線を充填。

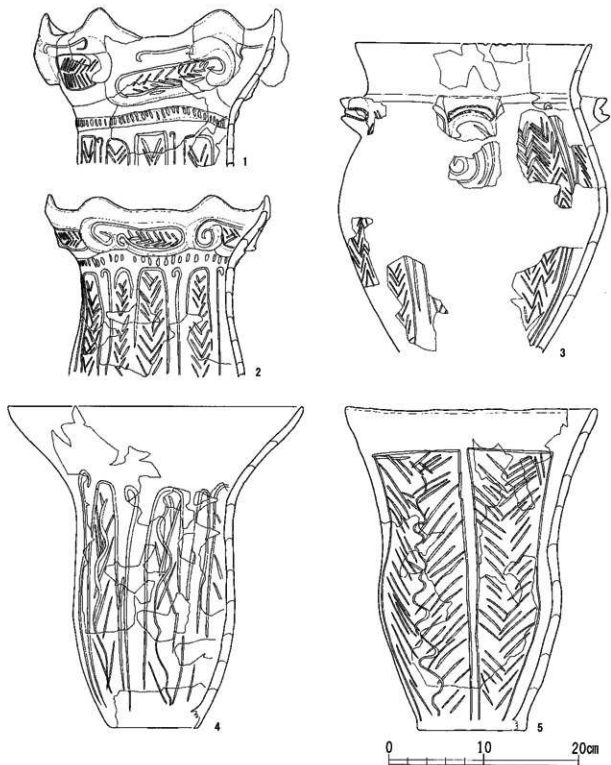
4類b種（第53図5）

5は口縁部がやや外反する器形を呈する。胴部文様帯は沈線による下部を開放した方形区画内に矢羽根状沈線および蛇行沈線を充填。

5類（第54図28）**6類**（第54図29）**第10群土器**（第54図32～37）**第12群土器**（第54図17～19）**1類**（第54図18）**2類**（第54図17・19）**第13群土器**（第53図3、第54図22）**1類**（第53図3）

3は胴部がやや球形に近い形に張るもので、頸部で括れ、口縁が外反しながら立ち上がる器形。口唇部に部分的に刻みを有する。頸部に鏝と4単位の把手を有する。口縁部文様帯は無文。胴部文様帯は、把手の下部に沈線による渦巻状のモチーフを配すが、詳細は不明。沈線による逆U字状区画と蕨状文を配す。

第14群土器（第54図38～43、第55図1・2）**1類b種**（第54図38）



第53図 2号住居跡出土土器実測図(1) (縮尺1/4)

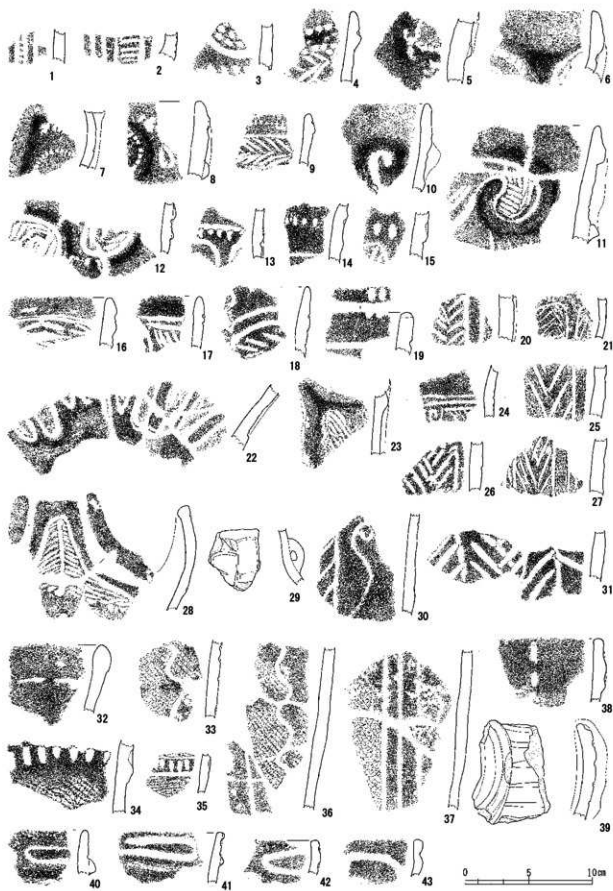
38は胴部に捲糸、肥厚した部分に擬縄文を施す。

2類 (第54図39)

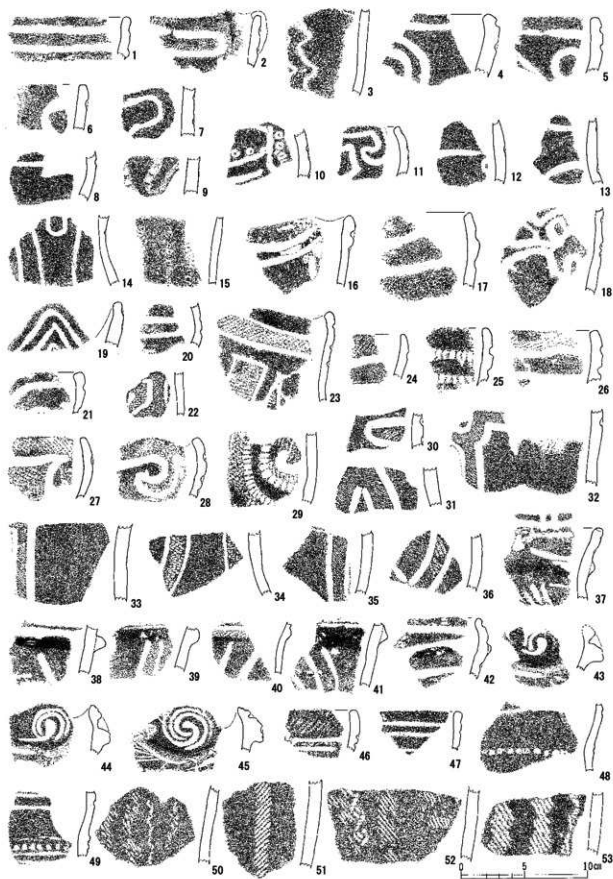
3類 (第54図40・41)

4類 (第54図42・43、第55図1・2)

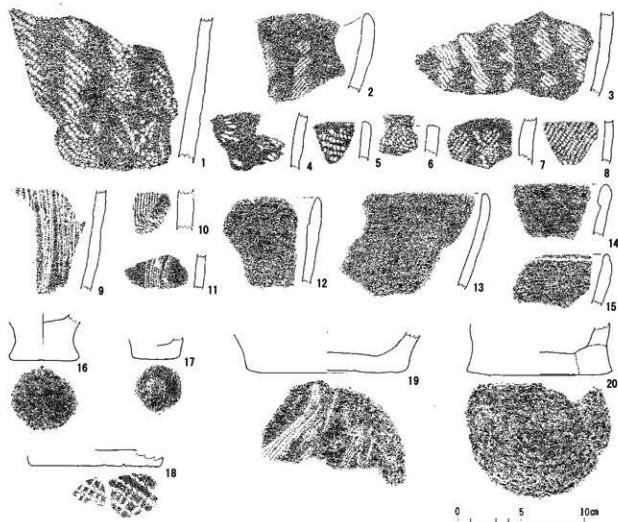
第15群土器 (第55図3～22)



第54图 2号住居跡出土土器実測图(2)(縮尺1/3)



第55圖 2号住居跡出土土器実測圖(3)(縮尺1/3)



第56図 2号住居跡出土土器実測図(4) (縮尺1/3)

1類 (第55図3)

2類 (第55図4~21)

10は竹管状工具による刺突を有する。

3類b種 (第55図22)

第16群土器 (第55図23~36)

1類b種 (第55図24)

2類 (第55図25~27)

a種 (第55図25・27)

b種 (第55図26)

6類 (第55図23・28)

a種 (第55図23)

b種 (第55図28)

胴部破片 (第55図29~36)

第19群土器 (第55図37~42)

第20群土器 (第55図46~49)

48・49は胴部上端に低い隆帯を配し、隆帯上に刺突を施す。

第22群土器 (第55図43～45)

第25群土器 (第55図50～53、第56図1～8)

第55図50・52は結節縄文・帯縄文を併用するもの。50は単節斜縄文LR。52は無節斜縄文L。第55図51・53、第56図1～4は帯縄文を施すもの。第55図53、第56図2は単節斜縄文RL。第56図1は単節斜縄文LR。第55図51、第56図3・4は無節斜縄文L。第56図5・7は単節斜縄文RLを施すもの。第56図6・8は単節斜縄文LRを施すもの。

第26群土器 (第56図9～11)

9は器面全体に縦直線文を施すもの。10・11は曲線文を連続させるもの。

第27群土器 (第56図12～15)

12～15は水平口縁。12・13は直立気味に立ち上がるもの。14は口縁を折り返し肥厚させるもの。15は直立気味に立ち上がるもので、口唇直下に沈線を有する。

第34群土器 (第56図16～20)

3号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第2・3・9・12・19・25～27・30・34群土器である(第57・58図)。

第2群土器 (第58図1)

第3群土器 (第58図2)

2は口唇部の隆帯上に結節刺突文列を施すもの。

第9群土器 (第58図3～9・13～20)

2類 (第58図3～9・13～19)

a種 (第58図8・9)

c種 (第58図6)

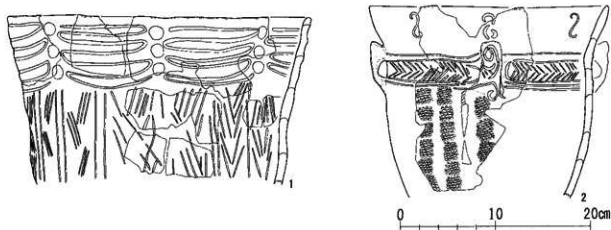
d種 (第58図15・17)

e種 (第58図13・14・18・19)

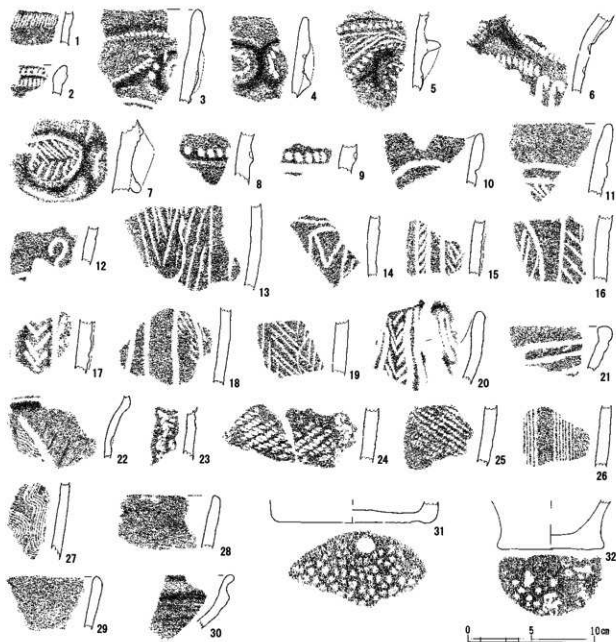
5類 (第58図20)

第12群土器 (第57図1・2、第58図10～12・21)

1類 (第58図10～12・21)



第57図 3号住居跡出土土器実測図(1)(縮尺1/4)



第58図 3号住居跡出土土器実測図(2)(縮尺1/3)

2類 (第57図1)

1は胴部からやや外反しながら立ち上がる、円筒形に近い器形。平縁。口縁部文様帯は浅い刺突を縦位に3つ配した単位文を8単位施し、その間を蛇行沈線でうめる。胴部文様帯は垂下沈線により胴部区画を作り出し、区画内に矢羽根状沈線を充填。

3類 (第57図2)

2は緩く張る胴部で、頸部で弱く括れ、口縁が外反しながら立ち上がる器形。口縁部に幅狭の無文帯を有し、8単位の逆S字状沈線を単位文として配す。頸部には4単位の把手を配し、その間に沈線区画による文様帯を有す。区画内には矢羽根状沈線を充填。胴部文様は縦位帯縄文LR。

第19群土器 (第58図22)

第25群土器 (第58図23~25)

23は結節縄文を施すもの。原体は不明。24は単節斜縄文RLを施すもの。25は単節斜縄文LRを施すもの。

第26群土器 (第58図26・27)

26は縦位直線文を施すもので空白部をもつもの。27は曲線文を連続させるもの。

第27群土器 (第58図28・29)

28・29は外反する口縁のもの。

第30群土器 (第58図30)

第34群土器 (第58図31・32)

4号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第2・5・7・9・10・13・15・16・25～28・32～34群土器である(第59～64図)。

第2群土器 (第62図1)

1は口唇部および口唇部内面に爪形を有する。

第5群土器 (第62図2～4)

2・3は口唇部下に刺突列を巡らすもの。2は水平口縁、3は波状口縁。4は波状口縁の波頂部付近で、貼り付け隆帯により曲線的なモチーフを描くもの。蛇行する貼り付け隆帯を波頂部側縁に配す。

第7群土器 (第59図1)

1はキャリパー形を呈す。4単位の筒状の波頂部をもつ。口唇部に沿わせて3条の沈線を巡らし、うち1本を波頂部付近で側面にまわす。波頂部下には、沈線による渦巻に近い逆S字状の単位文と縄文LRを充填した楕円区画を配す。頸部には3本一単位の連弧文を配す。胴部文様帯は3本一単位の垂下沈線により縦位区画を成す。沈線間には縦位縄文LRを施す。

第9群土器 (第59図2～10、第62図5～26、第63図1～3・5～18)

1類 (第59図2・3・5、第62図5～13)

a種 (第59図2・3)

第59図2は口唇部を若干外反させるキャリパー器形。平縁。口唇部に幅狭の無文帯をもつ。口縁部文様帯は、渦巻+楕円の隆帯区画文7単位で構成。隆帯内側に沈線を巡らせ、区画内に刺突文を充填する。胴部上端に刻み目を有する隆帯を1条巡らす。口縁部区画隆帯と胴部上端刻み目隆帯の間に無文部を有する。胴部文様構成は不明であるが、沈線による描出が行われるものと考えられる。第59図3は4単位の突起を有する。口縁部文様帯は、突起下に沈線による渦巻を配すもので、沈線は渦巻の末端から左方にのぼし、立ち上げながら折り返し楕円区画を作出する。楕円区画内には刺突を充填。区画沈線内側に充填した刺突は矢羽根を意識した配置と考えられる。胴部上端に刻み目を有する隆帯を1条巡らす。胴部文様帯は沈線による下部を開放した方形区画。方形区画上部は、胴部上端刻み目隆帯に沿う。区画内は矢羽根状沈線および蛇行沈線。

b種 (第62図6・7)

c種 (第59図5)

第59図5はキャリパー形の器形を呈す。4単位の円孔を有する波頂部とその間に配す小波状で口縁を形成する。口縁部文様区画は波頂部に連動した形の不定形な区画を呈する。口縁部区画隆帯内側には刺突を有する沈線を沿わす。区画内には刺突を充填。胴部文様帯は微隆帯内側に沈線を沿わしたもので、

下部を開放した隅丸方形区画。区画内には矢羽根状沈線を充填。

2類 (第59図4・8、第62図14～26、第63図1～3・5～15)

a種 (第62図22～25)

b種 (第63図5)

c種 (第62図21)

d種 (第62図26、第63図1・2・9・10)

e種 (第59図4・8、第63図3・6～8・11～15)

第59図4は4単位の緩やかな波状口縁。渦巻+楕円の隆帯区画文4単位の構成。区画内には矢羽根状沈線を充填。胴部文様帯は、矢羽根状沈線を描いた後、蕨状文の蛇行部分を矢羽根状沈線の中央部に施したものと幅狭の下部を開放した方形区画が一組となり、5単位配す。第63図12・13は区画外に蛇行沈線を配する。

3類 (第59図6・7・9、第63図16)

a種 (第59図6)

6は胴部上端に刻み目を施した隆帯を横走させ、その横走隆帯から縦位に沈線を垂下させることにより胴部文様区画を作り出すもの。胴部文様は8単位で、内5区画には矢羽根状沈線および蛇行沈線、3区画には矢羽根状沈線のみを施す。

b種 (第59図7)

7はキャリパー形の器形を呈す。口唇部を内面に折り返し肥厚させる。胴部文様帯は隆帯による胴部上端で連結する逆U字状の縦位区画文11単位で構成。胴部区画隆帯の内側に沈線でふちどり、矢羽根状沈線を充填。

c種 (第59図9、第63図16)

第59図9は胴部で緩く括れる器形で、逆U字状の沈線および縦位の沈線により器面を分割し、その間に矢羽根状沈線および斜行沈線を配するもの。

5類 (第59図10、第63図17)

第63図17は波頂部をU字状に落ち込ませるもので、肥厚させた波頂部側縁に沈線を施す。

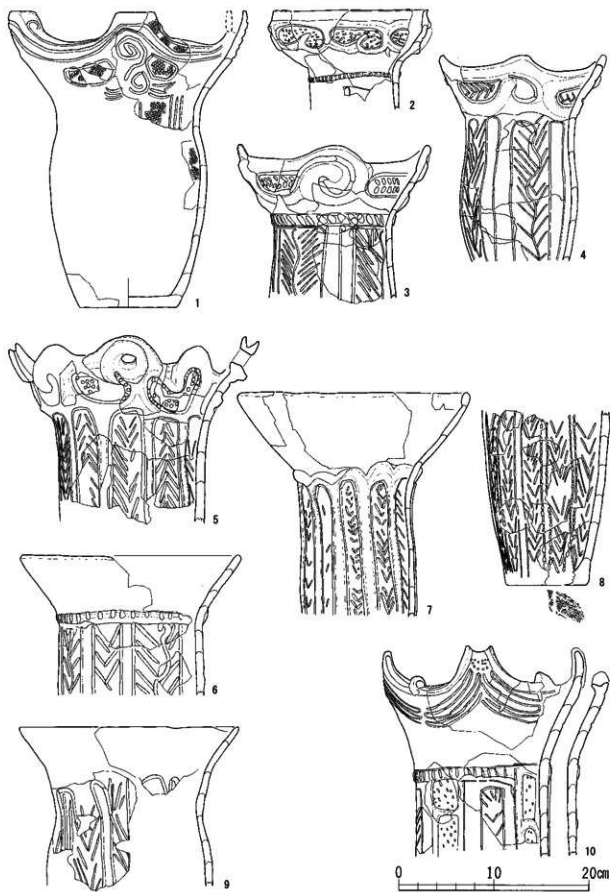
a種 (第59図10)

10はほぼ直立する胴部を有し、頸部から口縁部にかけて緩く外反しながら立ち上がる器形。4単位の波頂部はやや内弯しながら立ち上がるもので、波頂部はU字状に落ち込む。側面はややくぼみを有する。波底部には小突起を配する。波頂部下には列点を配す。波頂部から波底部にかけての幅を1単位として、口唇部の形状に沿わせ8単位の蛇行沈線を配す。胴部上端に刻みを有する隆帯を1条配す。胴部文様帯は、胴部上端刻み目隆帯から垂下する隆帯により成される。隆帯区画内側には沈線を沿わす。方形区画1とH字状区画1で一組を成し4単位配す。方形区画内には矢羽根状沈線、H字状区画内には刺突をそれぞれ充填する。

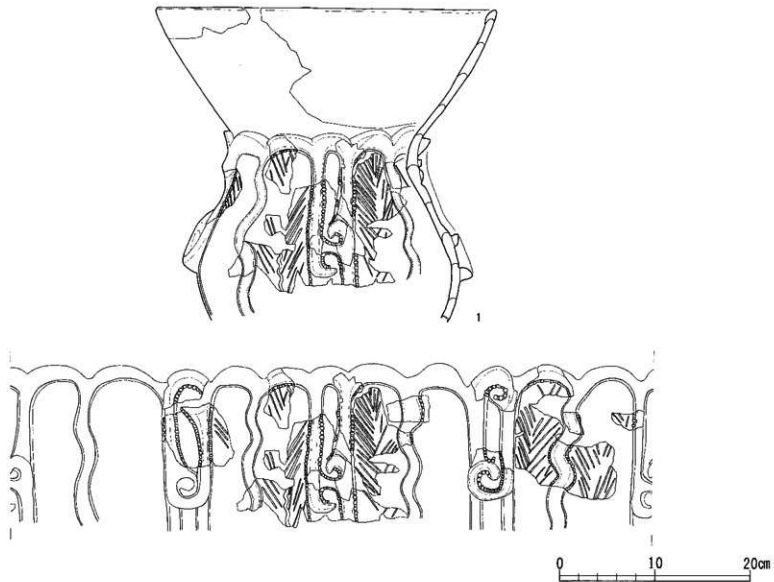
6類 (第63図18)

18は隆帯貼り付けによる把手状の装飾を有すもので、把手状の装飾は沈線内に刺突を有する。胴部は垂下沈線による区画内に矢羽根状沈線を充填するものであろう。

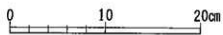
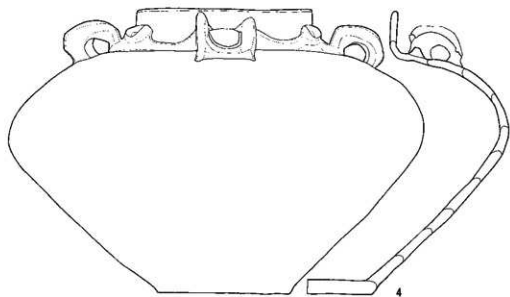
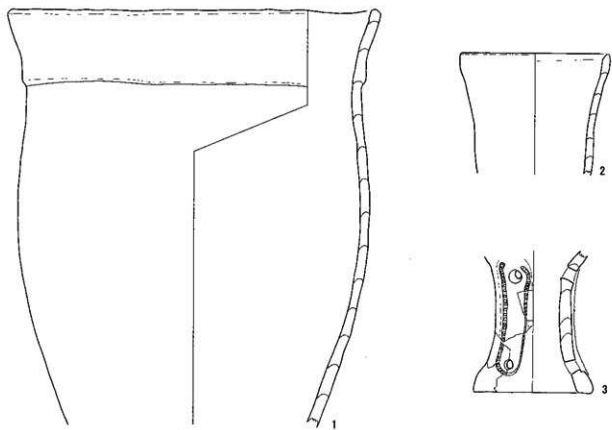
第10群土器 (第63図19～27)



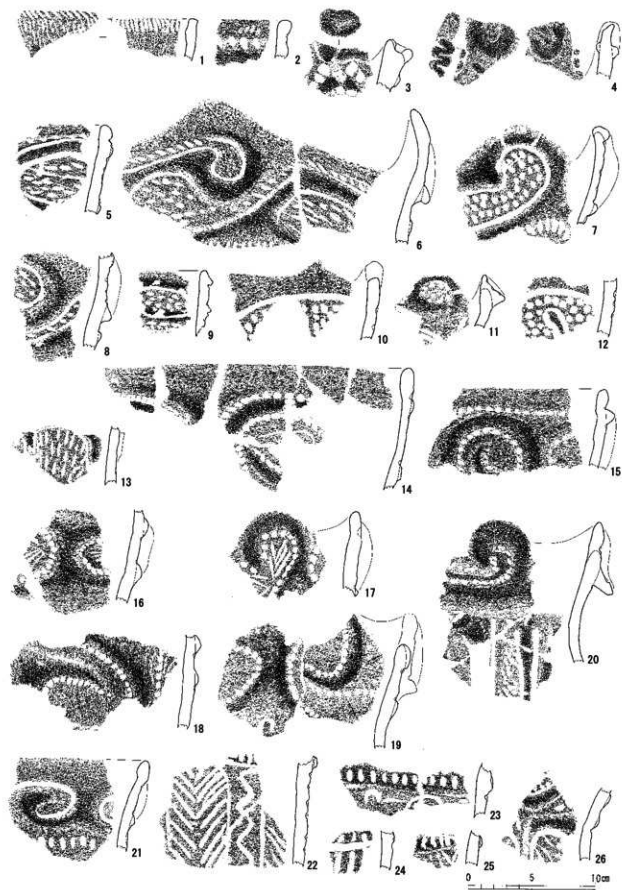
第59图 4号住居跡出土土器実測图(1)(縮尺1/4)



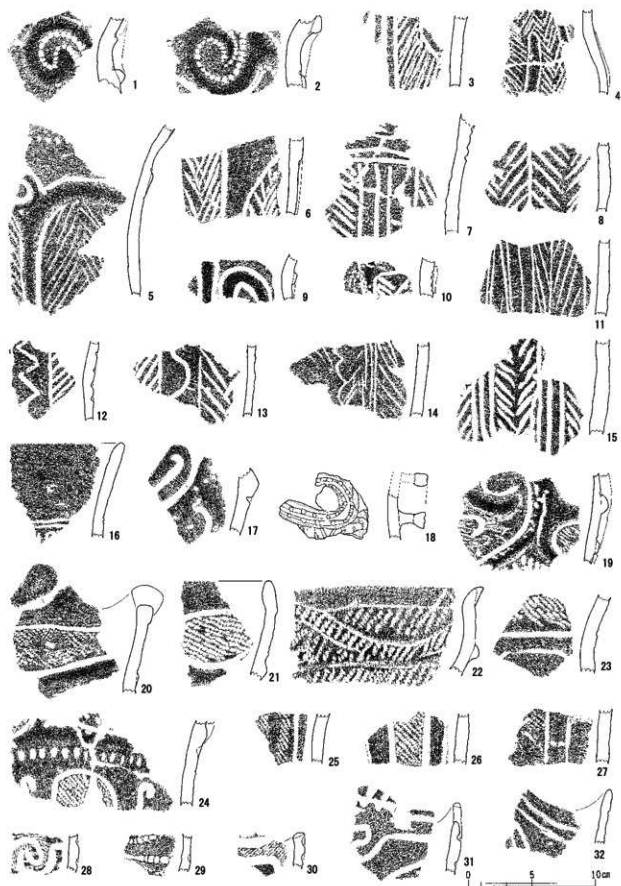
第60图 4号住居跡出土土器実測図(2)(縮尺1/4)



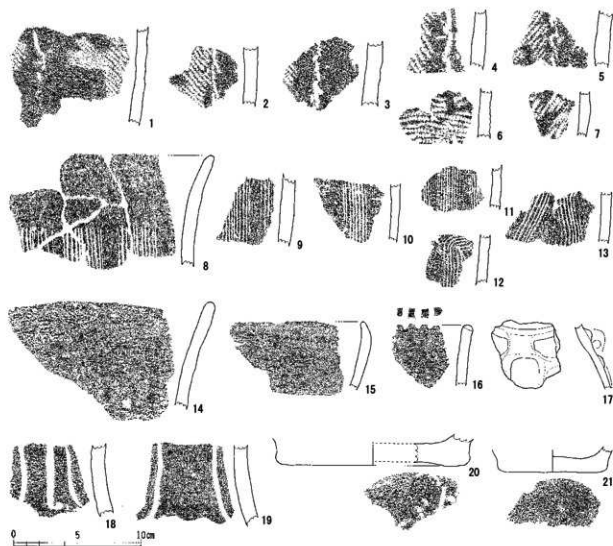
第61圖 4号住居跡出土土器実測図(3)(縮尺1/4)



第62图 4号住居跡出土土器実測图(4)(縮尺1/3)



第63圖 4号住居跡出土土器実測圖(5)(縮尺1/3)



第64図 4号住居跡出土土器実測図(6) (縮尺1/3)

22はやや外反する口縁を呈し、口縁部文様帯内に横位に蛇行する隆帯を貼り付け、文様を構成するもの。

24は胴部上端に刻みを全周させるもので、胴部文様帯は、沈線による逆U字状の区画内に縄文を充填する。

第13群土器 (第60図1、第63図4)

1類 (第60図1)

1は球形に近い胴部を有し、胴部上端で強くしまり、緩く内弯しつつ開き口縁部に至る器形。口唇部内面はやや肥厚。胴部文様帯は隆帯による胴部上端で連結する逆U字状の縦位区画文で構成。渦巻を有するH字状区画1と蛇行隆帯により二分し矢羽根状沈線を充填する区画2が一組となり4単位配す。

第15群土器 (第63図28・31・32)

2類 (第63図31・32)

31は口唇部に突起を有するもので、突起部に刻みを施す。

3類b種 (第63図28)

第16群土器 (第63図29・30)

5類b種 (第63図30)

胴部破片 (第63図29)

第25群土器 (第64図1～7)

1～5は結節縄文・帯縄文を併用するもの。1～4はL R。5はR L。6・7は単節斜縄文R Lを施すもの。

第26群土器 (第64図8～13)

11は器面全体に縦位直線文を施すもの。8～10は縦位直線文を施すもので空白部をもつもの。12・13は曲線文を連続させるもの。

第27群土器 (第61図1・2、第64図14～16)

第61図1・2、第64図14は外反する口縁のもの。第61図1はやや張りのある胴部で、頸部で段をもち、緩く外反する口縁を有する器形。第64図15は内弯する口縁のもの。第64図16は口唇部に刻みを有すもの。

第28群土器 (第61図4)

4は壺に類似した器形をもつ土器。肩部に鈎を巡らせ、4単位の把手および4単位の小突起を配す。

第32群土器 (第64図17)

第33群土器 (第61図3、第64図18・19)

第34群土器 (第64図20・21)

5号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第9～13・15・16・25～28・30・32群土器である(第65図～第71図)。

第9群土器 (第65・66図、第67図2・3・6・7、第70図1～7・9～23、第71図1・2)

1類 (第65図1、第70図1～4)

a種 (第65図1)

1は胴部上端から外反するキャリバー器形。5単位の波状口縁。波底部を中心とする口縁部文様を5単位配す。口縁部文様は渦巻+楕円の陸帯区画文であるが、楕円上部は口唇部で開放する。口縁部文様の内4つには矢羽根状沈線を充填。1つは刺突を充填する。胴部上端には刻みを有する陸帯を横走させる。胴部文様は沈線による下部を開放した方形区画内に矢羽根状沈線を充填。

b種 (第70図1)

2類 (第65図2、第66図1～3、第67図6・7、第70図5～7・9～13・16～23)

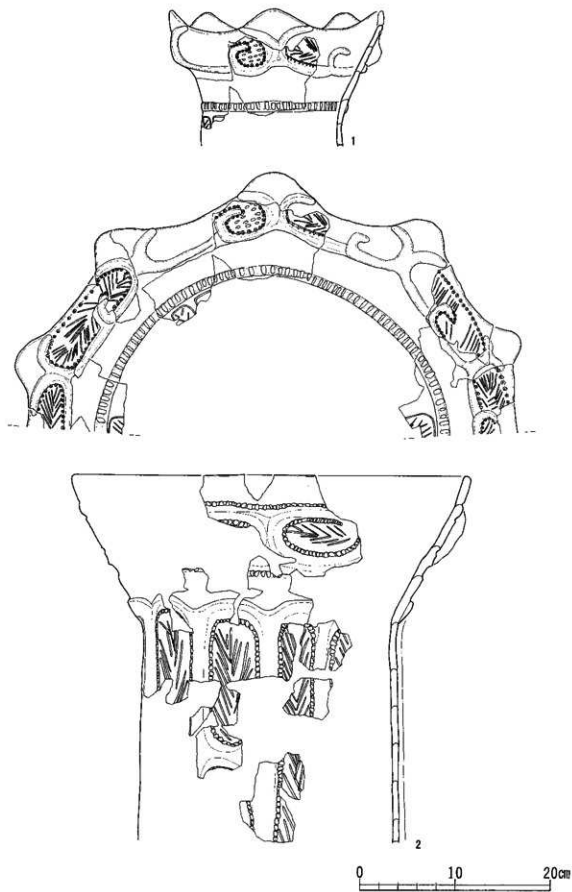
a種 (第66図2)

2はキャリバー形の器形を呈す。平縁。口縁部文様帯は全体的に微隆帯的な厚みを有し、沈線による渦巻+刺突と沈線による楕円区画内に矢羽根状沈線を充填したものの4単位で構成。胴部上端に刻みを有する横走陸帯を1条配す。胴部文様帯は沈線による逆U字状区画に矢羽根状沈線を充填したものと蕨状文を交互に配す。

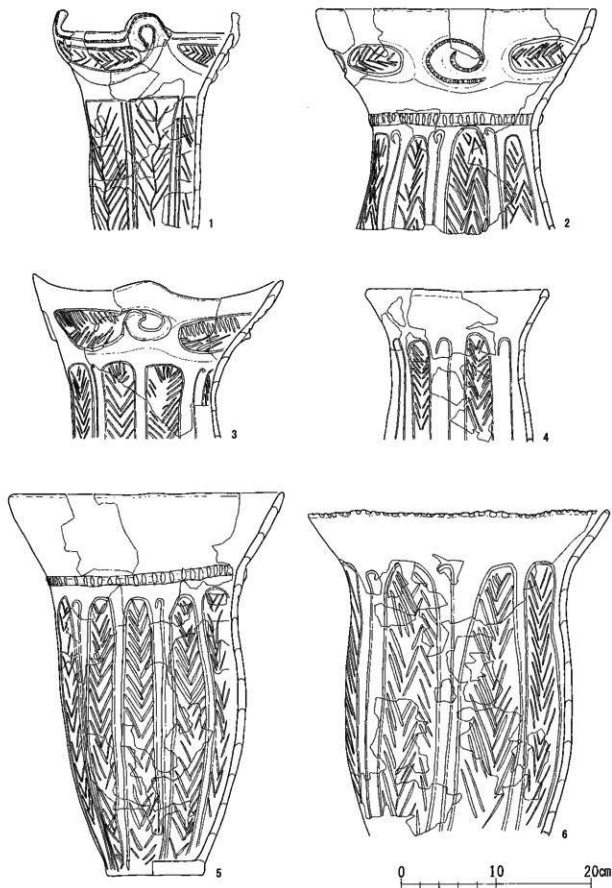
c種 (第70図9・12・13)

d種 (第65図2、第67図7、第70図16)。

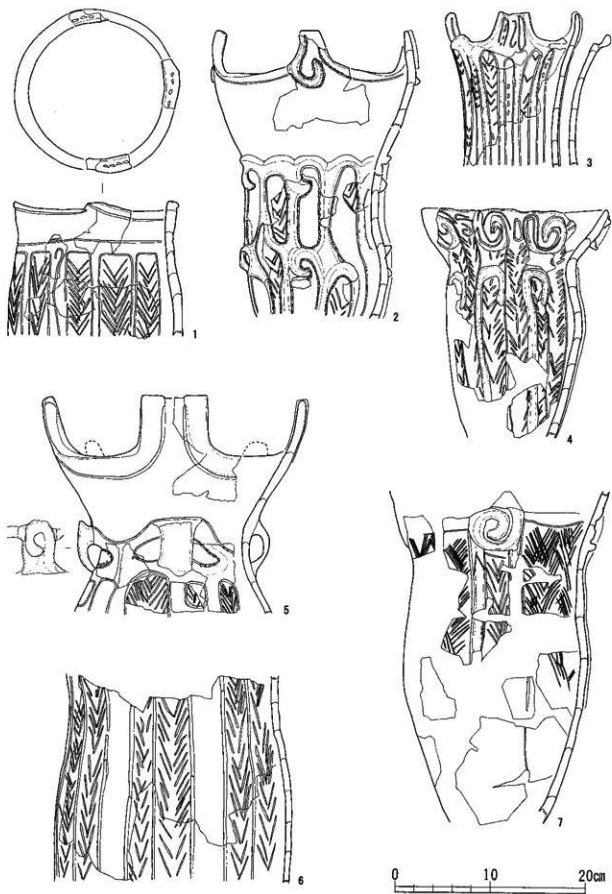
第65図2はキャリバー形の器形を呈す。口縁部文様帯は、楕円の陸帯区画文であるが残存状況が悪く詳細は不明。口縁部区画陸帯両側を沈線+刺突でふちどる。区画内には矢羽根状沈線を充填。胴部文様帯は陸帯による胴部上端で連結する逆U字状の縦位区画文とH字状区画で構成。胴部区画陸帯の内側を沈線+刺突でふちどり、矢羽根状沈線を充填する。



第65图 5号住居跡出土土器実測図(1)(縮尺1/4)



第66图 5号住居跡出土土器实测图(2)(縮尺1/4)



第67图 5号住居跡出土土器実測図(3)(縮尺1/4)

e種 (第66図1・3、第67図6、第70図17~23)

第66図1はキャリバー形の器形を呈す。4単位の突起を有する。口縁部文様帯は、逆位の渦巻+楕円隆帯区画文4単位で構成。区画隆帯内側および隆帯上側を沈線+刺突でふちどる。区画内には矢羽根状沈線を充填。胴部文様帯は沈線による下部を開放した方形区画で構成。胴部区画内は矢羽根状沈線+蛇行沈線を充填。第66図3はキャリバー形の器形を呈す。4単位の波状口縁。口縁部文様帯は全体的に微隆帯的な厚みを有し、隆帯内側を沈線でふちどった渦巻+楕円区画文に、矢羽根状沈線を充填したものの4単位で構成。胴部文様帯は沈線による逆U字状区画に矢羽根状沈線を充填したものと蕨状文1が一組となり、4単位。第70図17は沈線区画内に刺突を有す。同図23は沈線による下部を開放した方形区画と蕨状文を交互に配すもの。

3類 (第66図4~6)

a種 (第66図5)

5はキャリバー形の器形を呈す。平縁。胴部上端に刻みを有する横走隆帯を1条配す。胴部文様帯は沈線による逆U字状区画に矢羽根状沈線を充填したものと蕨状文で構成される。

c種 (第66図4・6)

4は胴部上端でやや緩く括れる器形を呈す。平縁。口唇部を内面に折り返し肥厚させる。胴部文様帯は沈線による逆U字状区画に矢羽根状沈線を充填したものと蕨状文が一組となり7単位配す。6はキャリバー形の器形を呈す。平縁。口唇部に刻みを全周させる。胴部文様帯は沈線による逆U字状区画に矢羽根状沈線を充填したものと蕨状文。

4類a種 (第67図3)

3は胴部で若干括れるものの緩やかに外反しつつ立ち上がる器形。4単位の大波状口縁で波底部に小突起を配する。波頂部はU字状に落ち込む。波頂部側縁は面状で、沈線を配す。波頂部下には、沈線による逆S字状および楕円区画内に刺突を充填したモチーフを配す。胴部文様帯は全体的に隆帯で厚みを有する。隆帯内側を沈線でふちどり、区画内に矢羽根状沈線または刺突を充填。

5類 (第67図2、第71図1・2)

第71図2は波状部側面に沈線および刺突を有する。

b種 (第67図2)

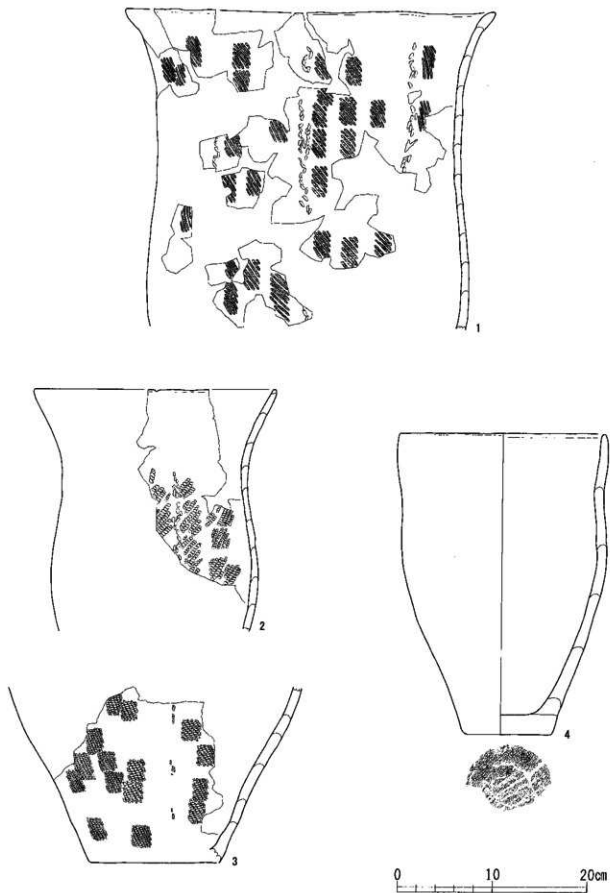
2はキャリバー形の器形を呈す。4単位の大波状を呈す。口唇部直下は、口縁の波形に沿わせ隆帯が巡り、隆帯下部に刺突を有する沈線を沿わす。波頂部下のみ隆帯による渦巻を配し、これにも刺突を有する沈線を沿わす。胴部文様帯は隆帯による胴部上端で連結する逆U字状の縦区画文と渦巻文を併せもつH字状区画で構成。胴部区画隆帯の内側を沈線+刺突でふちどり、矢羽根状沈線を充填する区画と充填文の成されない区画を併せもつ。

第10群土器 (第71図3~11)

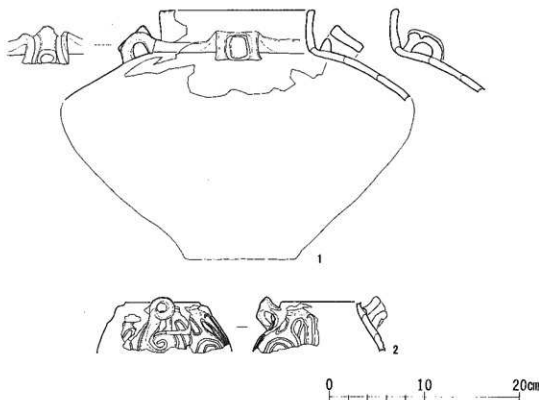
3は胴部に結節縄文と単節斜縄文LRによる帯縄文を併用。5は区画内に単節斜縄文RLを充填。6は区画内に無節斜縄文Lを充填。8・11は区画内に単節斜縄文RL充填後、蛇行沈線を施す。9は縄文および矢羽根状沈線が同一器面に存在する。原体は単節斜縄文LR。10は単節斜縄文LRを充填。

第11群土器 (第67図4)

4はキャリバー形の器形を呈す。平縁。口縁部文様帯は、貼り付け隆帯による渦巻文を9単位配し、隆帯両側に沈線を沿わす。隆帯による渦巻文の間に、沈線による楕円区画や渦巻文を描く。胴部文様帯



第68图 5号住居跡出土土器実測図(4)(縮尺1/4)



第69図 5号住居跡出土土器実測図(5) (縮尺1/4)

は、逆“し”字状の隆帯を9単位配す。区画内外に矢羽根状沈線を描く。

第12群土器 (第67図1、第70図8)

3類 (第67図1)

1は円筒形を呈す。4単位の突起を有す。口唇部は平たく面をもち、刺突を有する。口唇部直下に、口縁形態に沿わせ沈線を1条配し、頸部に1条沈線を配す。2条の沈線により口縁部に幅狭の無文帯を作り出す。胴部文様帯は沈線による下部を開放した方形区画内に矢羽根状沈線を充填したものと蕨状文。単位は不明。

4類 (第70図8)

8は沈線による逆U字状区画内に蕨状沈線を充填。

第13群土器 (第67図5、第70図14・15)

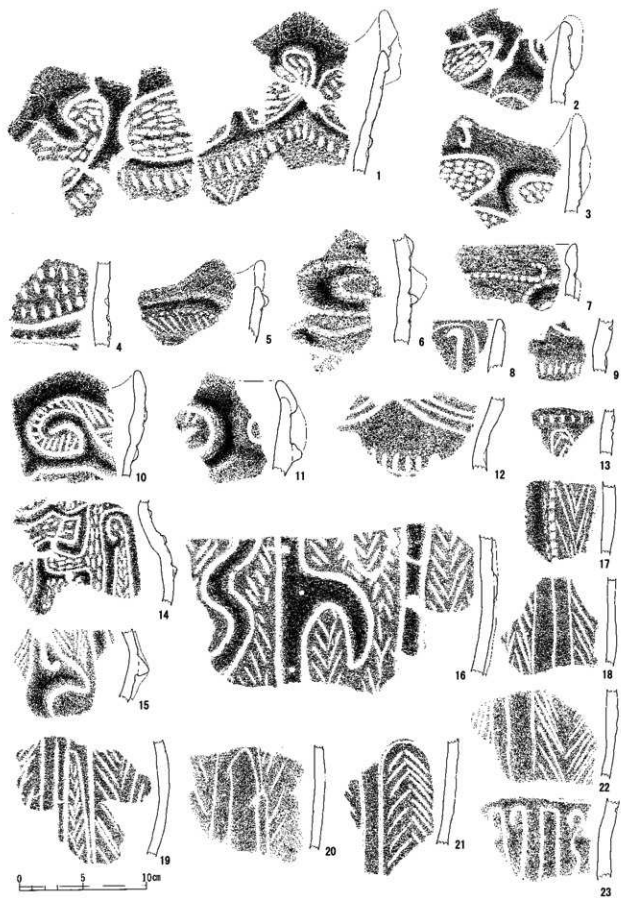
第70図14は胴部隆帯区画内に刺突を充填するもの。

2類 (第67図5)

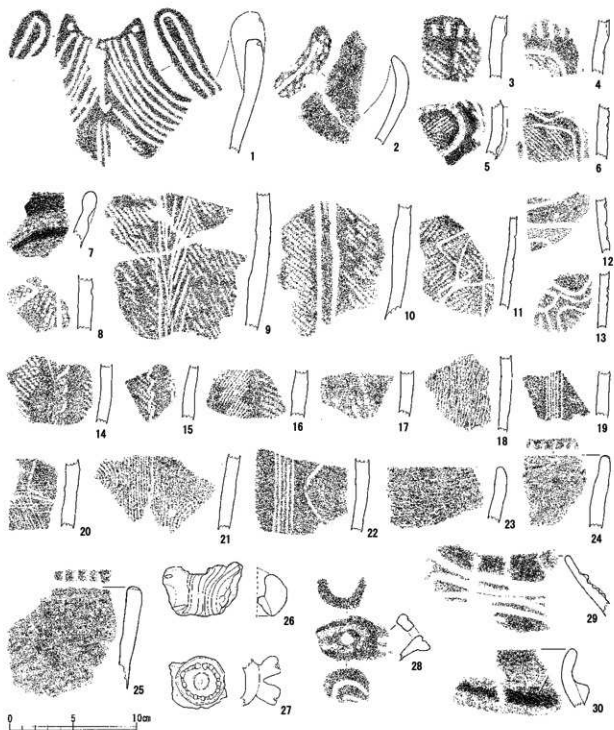
5は球形に近い胴部を有し、胴上部で強くしまり、緩く内弯しつつ開き口縁部に至る器形。4単位の大波状口縁で、波底部に小突起を配すると考えられる。口唇部は内外をやや肥厚させ、肥厚部下部に回周しない1条の沈線を配する。頸部には波頂部に対応する位置に、刺突を有する沈線で略楕円を配す。その略楕円にかかるように、無文の把手2と渦巻状のモチーフを有する把手2の計4つを配す。頸部の括れと把手上部に沿わせ1条の沈線を配す。胴部文様帯は全体的に微隆帯的な厚みを有し、沈線による逆U字状区画および方形区画を配し、矢羽根状沈線を充填。

第15群土器 (第71図13)

2類 (第71図13)



第70图 5号住居跡出土土器実測图(6)(縮尺1/3)



第71図 5号住居跡出土土器実測図(7)(縮尺1/3)

第16群土器 (第71図12)

胴部破片 (第71図12)

第25群土器 (第68図1～3、第71図14～17)

第68図1～3、第71図14・15は結節縄文・帯縄文を併用するもの。第68図1はやや張り出した胴部を有し、頸部で弱く括れ、口縁は外反しながら立ち上がる器形。平縁。無節斜縄文L。第68図2はやや張り出した胴部を有し、頸部で弱く括れ、口縁は外反しながら立ち上がる器形。口唇部に部分的に刻みを

有する。単節斜縄文L R。第68図3は、底部から胴部にかけて、やや直線的に立ち上がる器形。縦方向の単節斜縄文L R。第71図14・15は単節斜縄文L R。同図16は帯縄文を施すもので、単節斜縄文L Rと無節斜縄文Rが同一器面に存在する。同図17は帯縄文を施すもの。

第26群土器 (第71図18～22)

18は縦位直線文を施すもので器面全体に直線文を施すもの。19は縦位直線文を施すもので空白部をもつもの。20は不定方向に直線文を施すもの。21・22は縦位直線文と曲線文を併用するもの。

第27群土器 (第68図4、第71図23～25)

第68図4、第71図23はやや直立気味に立ち上がる口縁のもの。第68図4は底部から胴部にかけて緩やかに外反し、頸部でやや緩く括れ、弱く外反しながら立ち上がる口縁を呈する。第71図24・25は直立気味に立ち上がる口縁で、口唇部に刻みを有すもの。

第28群土器 (第69図1・2)

1は壺に類似した器形をもつ土器。肩部に鈎を巡らせ、4単位の把手を配す。2は壺に類似した器形をもつ土器。肩部に鈎を巡らせ、2単位の把手を配す。沈線による楕円文、渦巻文および蕨状文を配す。

第30群土器 (第71図26～29)

27はいわゆる双耳壺の可能性もある。

第32群土器 (第71図30)

6号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第9・10・12・15・16・25～27・29・34群土器である(第72～73図)。

第9群土器 (第72図1、第73図1～7・11～16)

2類 (第72図1、第73図1～7・11～16)

第72図1は、4単位の口縁部文様区画を兼ね備えた突起を有すもので、区画外側沈線内にはのみ刺突を施す。口縁部文様区画上部に隆帯を有さず、区画上部端は口唇部で開放する。

d種 (第73図11～13)

e種 (第73図14・15)

6類 (第73図16)

16はキャリパー形の深鉢の口縁部。口唇部に幅狭の無文帯を有し、無文帯の下に橋状把手とおそらく楕円の口縁部文様区画を配するもの。

第10群土器 (第73図17～19)

第12群土器 (第73図8～10)

1類 (第73図8)

2類 (第73図9)

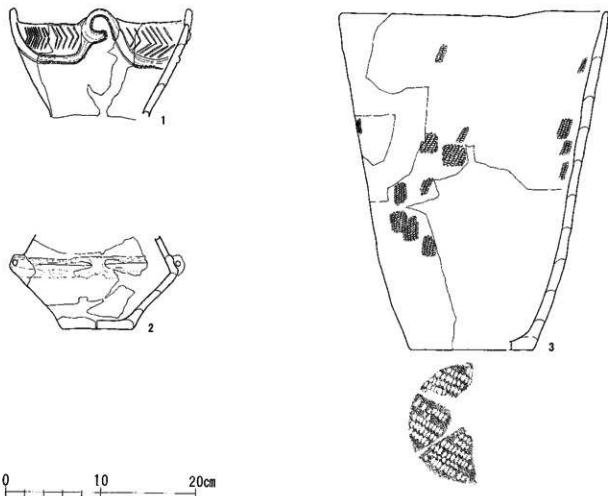
3類 (第73図10)

10は口唇部に刺突を有するもの。

第15群土器 (第73図20・21)

2類 (第73図20・21)

第16群土器 (第73図22)



第72図 6号住居跡出土土器実測図(1) (縮尺1/4)

胴部破片 (第73図22)

22は突起を有するもの。

第25群土器 (第72図3、第73図23~28)

第73図24~26は結節縄文と無節斜縄文Lの帯縄文を併用するもの。同図27・28は帯縄文を施すもの。27は単節斜縄文R L。28は無節斜縄文L。第72図3、第73図23は単節斜縄文R Lを施すもの。第72図3は底部から口縁部にかけて緩やかに外反しつつ立ち上がる器形を呈す。底部には斜縄文L Rを施文。

第26群土器 (第73図29)

29は器面全体に縦位直線文を施すもの。

第27群土器 (第73図30・31)

第29群土器 (第72図2)

第34群土器 (第73図32)

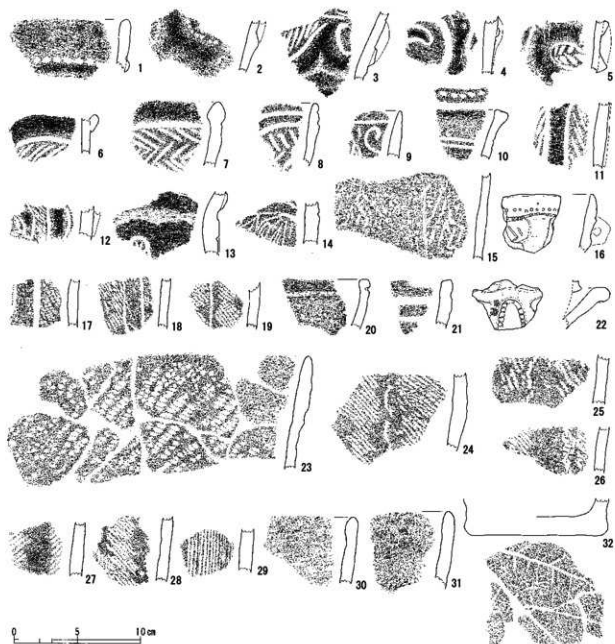
7号住居跡

本住居跡より検出した土器は、第9・12・15・16・25~30・34群土器である(第74~75図)。

第9群土器 (第75図1~8)

2類 (第75図1~8)

5はやや小さめの波状を呈する。



第73図 6号住居跡出土土器実測図(2)(縮尺1/3)

c種 (第75図6)

e種 (第75図7・8)

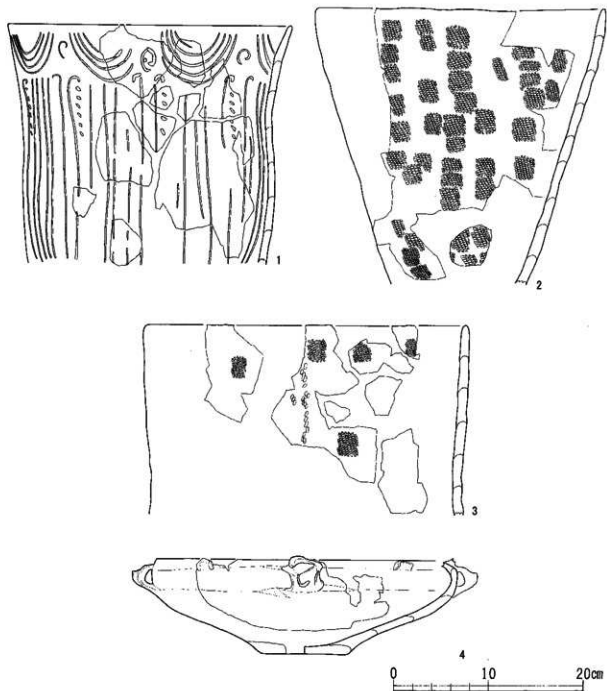
第12群土器 (第74図1、第75図11)

1類 (第75図11)

11はほぼ円筒形を呈する器形。口縁部文様帯内に斜位の沈線を充填する。口縁部文様帯直下から縦位に垂下する沈線によって胴部区画を作り出し、胴部文様帯内に矢羽根状沈線および蛇行沈線を充填。

2類 (第74図1)

1は胴部で緩く括れ、口縁は若干外反する器形。口縁部文様帯は4～5本で構成される弧状の沈線を配す。単位は不明だがおそらく8～9単位になると思われる。弧状の沈線の間には逆“o”字状の単位文を配す。頸部から胴部にかけては沈線を垂下。部分的に蕨状文と縦位刺突列を施す。



第74図 7号住居跡出土土器実測図(1) (縮尺1/4)

第15群土器 (第75図10・12)

2類 (第75図12)

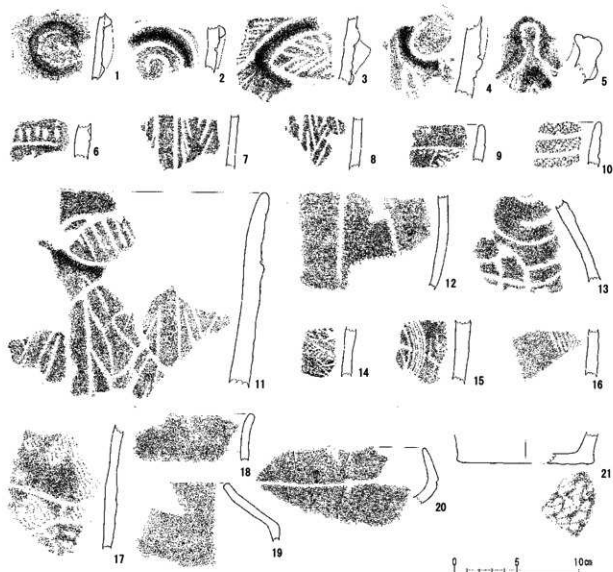
3類b種 (第75図10)

第16群土器 (第75図9)

1類a種 (第75図9)

第25群土器 (第74図2・3、第75図17)

第74図3は円筒器形で、結節縄文を施すもの。単節斜縄文LRを施す。同図2、第75図17は帯縄文を施すもの。



第75図 7号住居跡出土土器実測図(2)(縮尺1/3)

第26群土器 (第75図14~16)

14は不定方向に直線文を施すもの。15・16は曲線文を連続させるもの。

第27群土器 (第75図18)

18は外反する口縁のもの。

第28群土器 (第75図13)

第29群土器 (第75図19・20)

第30群土器 (第74図4)

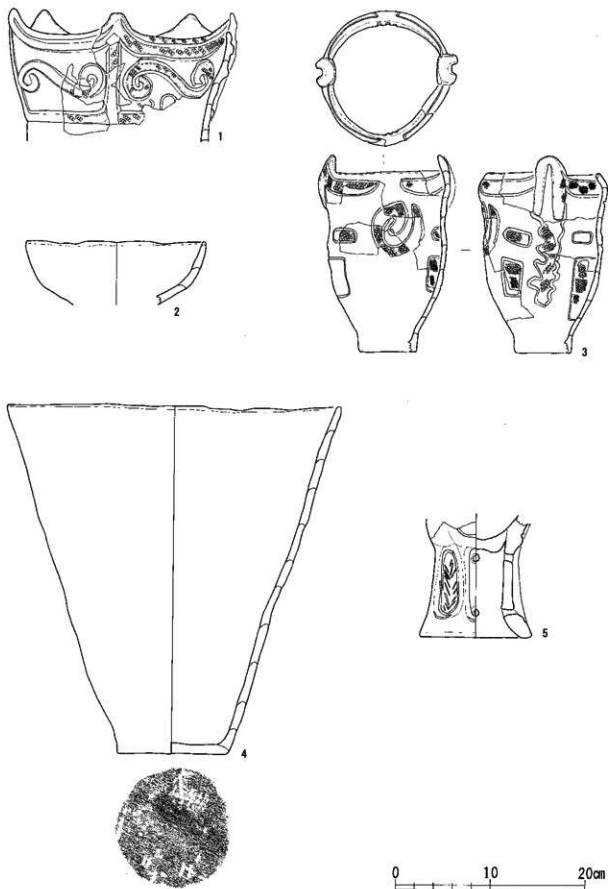
第34群土器 (第75図21)

柱列ピット1

本ピットより検出した土器は、第9・11・16群土器である(第77図1~9)。

第9群土器 (第77図1~6)

2類 (第77図1~6)



第76図 柱列・埋甕・ピット出土土器実測図（縮尺1/4）

e種 (第77図6)

第11群土器 (第77図9)

9は底部付近の破片。貼り付け隆帯を縦位に垂下させるもの。

第16群土器 (第77図7・8)

7類a種 (第77図7)

胸部破片 (第77図8)

柱列ビット2

本ビットより検出した土器は、第3・9・12・14・16・25・31・34群土器である(第76図2、第77図10～21)。

第3群土器 (第77図10)

10は隆帯上に結節刺突文列を施すもの。

第9群土器 (第77図11～13)

2類 (第77図11～13)

e種 (第77図12・13)

第12群土器 (第77図14)

4類 (第77図14)

14は2本一単位の縦位の蛇行沈線を口縁部から垂下させるもので、地文に矢羽根状沈線を有する。

第14群土器 (第77図15)

1類a種 (第77図15)

15は段状に肥厚させた口縁部に横位の沈線を巡らすもの。

第16群土器 (第77図16～18)

5類b種 (第77図16)

胸部破片 (第77図17・18)

第25群土器 (第77図19・20)

19は結節縄文を施すもの。20は単節斜縄文RLを施すもの。

第31群土器 (第76図2)

第34群土器 (第77図21)

柱列ビット3

本ビットより検出した土器は、第8・9・11・12・25群土器である(第77図22～25・28・30)。

第8群土器 (第77図22)

第9群土器 (第77図23・24)

2類 (第77図23・24)

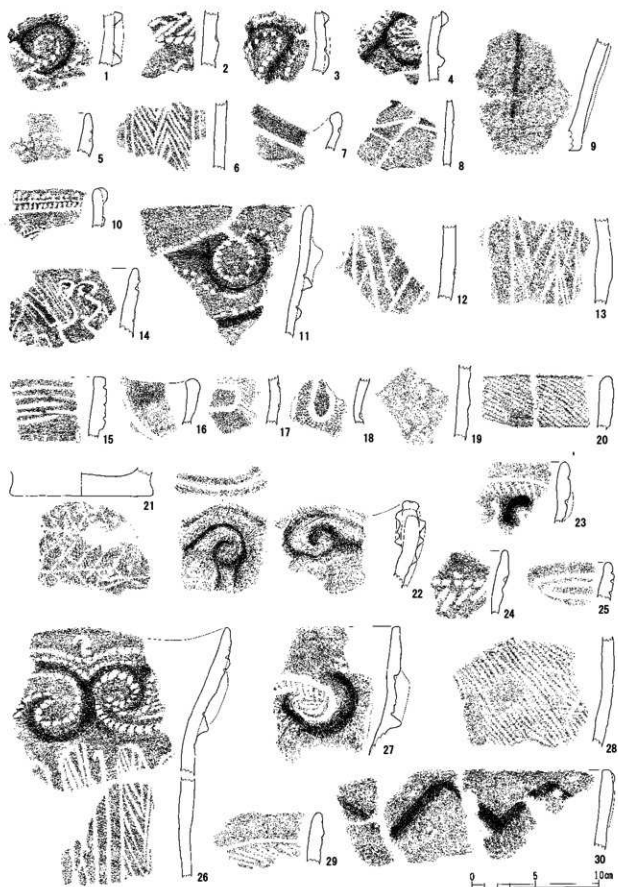
第11群土器 (第77図30)

第12群土器 (第77図25)

2類 (第77図25)

第25群土器 (第77図28)

28は単節斜縄文RLを施すもの。



第77圖 柱列出土土器実測図（縮尺1/3）

柱列ビット4

本ビットより検出した土器は、第9群土器である（第77図26・27・29）。

第9群土器（第77図26・27・29）

2類（第77図26・27・29）

e種（第77図26）

柱列ビット5

本ビットより検出した土器は、第9・10群土器である（第78図1・2）。

第9群土器（第78図1）

2類（第78図1）

第10群土器（第78図2）

2は縦方向の単節斜縄文LRを施すもの。

柱列ビット7

本ビットより検出した土器は、第7・9・10群土器である（第78図3～10）。

第7群土器（第78図3）

第9群土器（第78図4・5）

1類（第78図4）

2類c種（第78図5）

第10群土器（第78図6～10）

7はキャリパー形の器形を呈すと考えられる。頸部に刻みが回周する。口縁部文様帯は陸帯の貼り付けにより構成。口縁部文様区画外には横方向の単節斜縄文LR。6・8は縦方向の単節斜縄文LRを地文とする。10は縦方向の単節斜縄文RLを地文とする。9は地文不明。浅い円形の刺突を有する。

柱列ビット8

本ビットより検出した土器は、第9群土器である（第78図11～15）。

第9群土器（第78図11～15）

2類（第78図11～14）

14は陸帯側部に沈線を有さず、矢羽根状沈線の上を陸帯上にかかるように描く。

a種（第78図11）

5類（第78図15）

配石1

本配石より検出した土器は、第10・13群土器である（第78図16・17）。

第10群土器（第78図16）

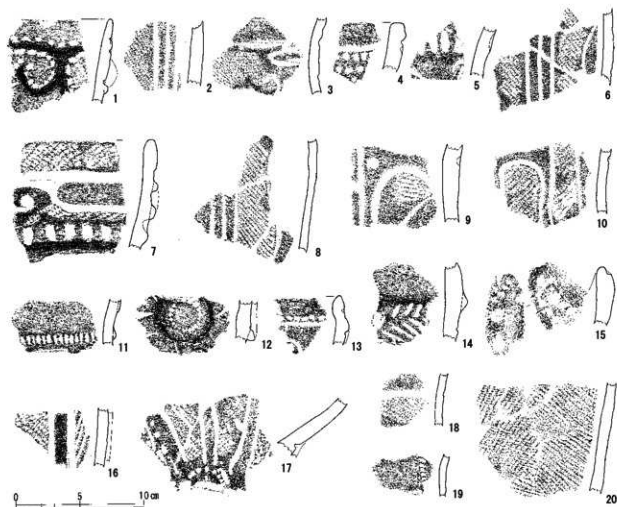
16は半裁竹管状工具により、胴部区画陸帯を描くもの。単節斜縄文LRを充填する区画と矢羽根状沈線を充填する区画を併せもつ。

第13群土器（第78図17）

17は脚部を有する深鉢の底部付近。単節斜縄文LR施文後、区画沈線および区画内の蛇行沈線を描出。区画沈線には部分的に刺突を施す。

配石2

本配石より検出した土器は、第10・16・25群土器である（第78図18～20）。



第78図 柱列・配石出土土器実測図（縮尺1/3）

第10群土器（第78図18）

18は単節斜縄文R L。

第16群土器（第78図19）

胴部破片（第78図19）

第25群土器（第78図20）

20は単節斜縄文R Lを不定方向に施す。

埋壺3

第27群土器（第76図4）

4はほぼ直線的に外反して開く器形のもの。

土坑15

本土坑より検出した土器は、第27群土器である（第79図1）。

第27群土器（第79図1）

1はやや外反する器形のもの。

土坑16

本土坑より検出した土器は、第9群土器である（第79図2）。

第9群土器（第79図2）

2類 (第79図2)

2はやや外反しつち立ち上がる器形。口縁部区画隆帯間に沈線による逆S字状の単位文を配す。

土坑19

本土坑より検出した土器は、第10群土器である(第79図3)。

第10群土器 (第79図3)

逆U字状に胴部区画を形成。区画内には縦位方向の無節斜縄文L。

土坑64

本土坑より検出した土器は、第9・27群土器である(第79図4・5)。

第9群土器 (第79図4)

2類d種 (第79図4)

第27群土器 (第79図5)

5は外反しながら立ち上がる直立する口縁のもの。

土坑80

本土坑より検出した土器は、第9・16群土器である(第79図6～8)。

第9群土器 (第79図8)

2類e種 (第79図8)

第16群土器 (第79図6・7)

1類a種 (第79図6)

胴部破片 (第79図7)

土坑81

本土坑より検出した土器は、第9群土器である(第79図9)。

第9群土器

5類 (第79図9)

土坑82

本土坑より検出した土器は、第9・15・16・25・26群土器である(第80図1～17)。

第9群土器 (第80図1・2)

2類 (第80図1・2)

a種 (第80図1)

第15群土器 (第80図3～5)

3類a種 (第80図3～5)

3～5は同一個体である。胴部下半でやや膨れ、胴部から頸部にかけて外反しつち立ち上がり、口縁部で若干内弯する器形。おそらく4単位の波状口縁。波頂部下にはスベード状のモチーフおよび沈線による三角形の区画を配す。頸部はJ字文およびスベード状のモチーフを配す。

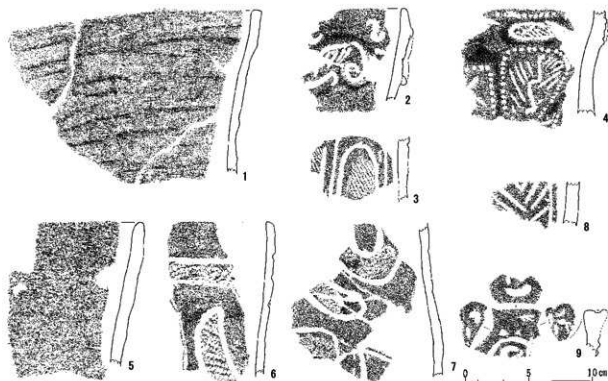
第16群土器 (第80図6～12)

2類a種 (第80図6)

7類 (第80図9・12)

a種 (第80図9)

b種 (第80図12)



第79図 土坑出土土器実測図(1)(縮尺1/3)

胸部破片 (第80図10・11)

第25群土器 (第80図13・14)

13・14は単節斜縄文LRを施すもの。

第26群土器 (第80図15~17)

15・16は不定方向に直線文を施すもの。17は直・曲線を併用するもの。

土坑83

本土坑より検出した土器は、第16群土器である(第80図18)。

第16群土器 (第80図18)

1類b種 (第80図18)

土坑86

本土坑より検出した土器は、第4・9・10・15・16・18群土器である(第80図19~24)。

第4群土器 (第80図19)

1類 (第80図19)

19は横位方向の単節斜縄文LR。

第9群土器 (第80図20)

2類 (第80図20)

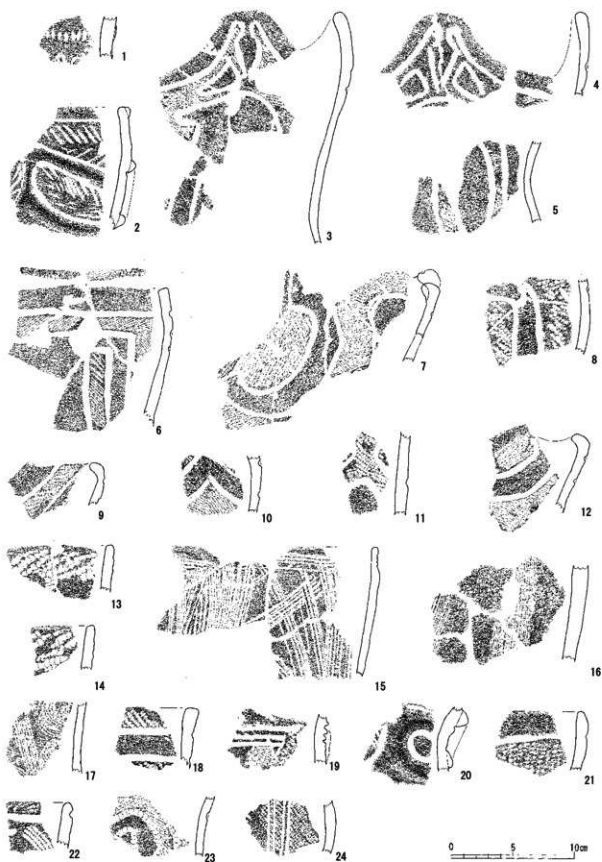
第10群土器 (第80図21)

第15群土器 (第80図22)

3類b種 (第80図22)

第16群土器 (第80図23)

胸部破片 (第80図23)



第80圖 土坑出土土器実測圖(2)(縮尺1/3)

第18群土器 (第80図24)

24は沈線の内外に縄文を施すもの。縦位方向のLR。

ビット77

本ビットより検出した土器は、第15群土器である(第81図1)。

第15群土器

2類 (第81図1)

ビット87

本ビットより検出した土器は、第7・9・10・15・25・33群土器である(第81図2・3・5～8・11・13)。

第7群土器 (第81図3)

3は横位方向に単節斜縄文LR。

第9群土器 (第81図5・6)

5類 (第81図5・6)

第10群土器 (第81図7)

7は微隆帯で口縁部文様区画を形成するもの。区画内は縦位方向に単節斜縄文LRを充填。胴部は結節縄文を伴う縦位帯縄文LRを施す。

第15群土器 (第81図2・8)

3類b種 (第81図2・8)

2・8は縦位方向の単節斜縄文LR。

第25群土器 (第81図11)

11は結節縄文を伴う縦位帯縄文LR。

第33群土器 (第81図13)

ビット89

本ビットより検出した土器は、第9群土器である(第81図4)。

第9群土器 (第81図4)

1類b種 (第81図4)

4は波状口縁を呈すもので、頸部に刺突文列を巡らす。

ビット92

本ビットより検出した土器は、第9・16群土器である(第81図9・10・12)。

第9群土器 (第81図9・10)

2類 (第81図9・10)

d種 (第81図9)

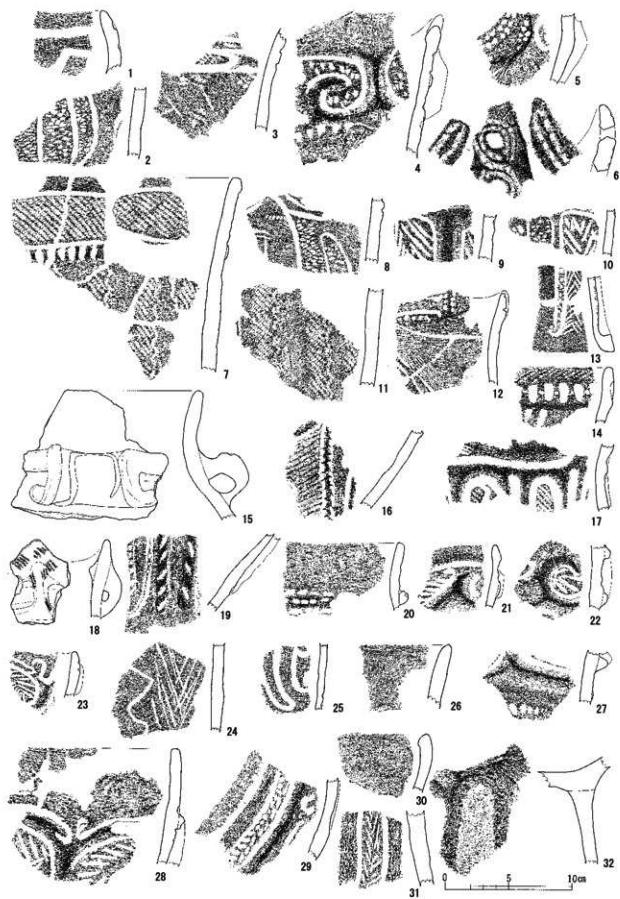
9は微隆帯。

e種 (第81図10)

第16群土器 (第81図12)

3類a種 (第81図12)

12は口縁部に低い隆帯による単位文を配し、隆帯上に刺突を施す。頸胴部に2本の沈線により、曲線的なモチーフを描く。胴部は撫糸1。



第81図 ビット出土土器実測図(1)(縮尺1/3)

ビット96

本ビットより検出した土器は、第5群土器である（第81図14）。

第5群土器（第81図14）

14は口唇直下に横位方向の単節斜縄文LRを有する。

ビット98

本ビットより検出した土器は、第28群土器である（第81図15）。

第28群土器（第81図15）

15は壺に類似した器形をもつ土器。

ビット106

本ビットより検出した土器は、第33群土器である（第76図5）。

第33群土器（第76図5）

5は矢羽根状沈線を充填した楕円区画1と円形の透かしを有する楕円区画1が一組となり、4単位。

ビット122

本ビットより検出した土器は、第4群土器である（第81図16）。

第4群土器（第81図16）

16は縦位方向の単節斜縄文RL。

ビット127

本ビットより検出した土器は、第6・9・10群土器である（第76図1、第81図17・18）。

第6群土器（第76図1）

1は胴部上端から緩やかに外反しつつ立ち上がる器形を呈すもので、5単位の波状口縁。口縁に沿わせ微隆帯状に肥厚させる。波頂部から胴部上端に回周する隆帯までの間に縦位の隆帯を垂下させ、口縁部文様区画を作出。区画内に横S字状の隆帯を配す。文様区画のための隆帯および横S字状の隆帯は共に隆帯上に縄文を押圧し、隆帯側縁に沈線を沿わす。

第9群土器（第81図18）

6類（第81図18）

18はキャリパー形を呈する器形。波状口縁。単節斜縄文RLを施す。

第10群土器（第81図17）

17は区画内に縦位方向の単節斜縄文LRを充填。

ビット128

本ビットより検出した土器は、第4群土器である（第81図19）。

第4群土器（第81図19）

2類（第81図19）

19は基軸となる隆帯に刻みを施す。台付鉢の底部付近と思われる。

ビット131

本ビットより検出した土器は、第9・15・27群土器である（第76図3、第81図20～26）。

第9群土器（第81図20～24）

2類（第81図20～24）

e種（第81図24）

第15群土器 (第76図3、第81図25)**2類** (第81図25)**3類a種** (第76図3)

3は底部から緩やかに立ち上がり、胴部から頸部にかけて緩く括れ、内湾する口縁を呈する器形。口縁部に2単位の突起を有す。口唇部の内側に3つ一組の刻みを二ヶ所配す。口唇部下に沈線による方形状のモチーフを配すが、一方の端部は突起にぶつけることにより区画を閉じる。頸部から胴部上半にはJ字状のモチーフを配す。J字状のモチーフの下部以降は破損により不明。胴部最大径の部分に横長の楕円区画、胴部下半に縦長の楕円区画を配す。突起から胴部下半にかけて2本一組の蛇行沈線を配す。蛇行沈線は末端部で閉じ区画を形成する。口唇部下の区画内には、横位方向に撚りの堅いLRと横位方向のRLの併用。頸部から胴部下半にかけての区画内には不定方向に撚りの堅いLRを充填。

第27群土器 (第81図26)

26は直立する口縁のもの。

ビット139

本ビットより検出した土器は、第9群土器である(第81図27・28)。

第9群土器 (第81図27・28)**2類** (第81図27・28)**c種** (第81図27)**ビット154**

本ビットより検出した土器は、第9・27・33群土器である(第81図29・30・32)。

第9群土器 (第81図29)**5類** (第81図29)**第27群土器** (第81図30)

30は内湾する口縁のもの。

第33群土器 (第81図32)**ビット158**

本ビットより検出した土器は、第33群土器である(第81図31)。

第33群土器 (第81図31)**ビット242**

本ビットより検出した土器は、第16群土器である(第82図1)。

第16群土器 (第82図1)**4類a種** (第82図1)

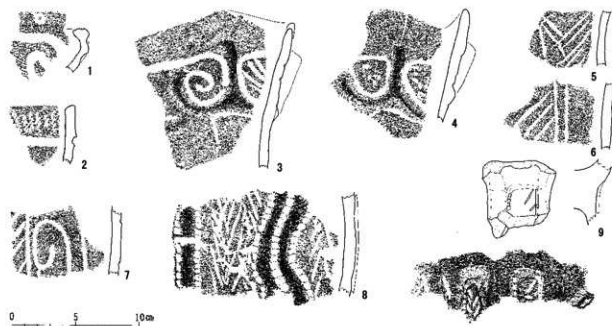
1は口縁端部に竹管状工具による円形刺突を施す。横位方向のLR。

ビット243

本ビットより検出した土器は、第16群土器である(第82図2)。

第16群土器 (第82図2)**1類b種** (第82図2)

2は横位方向に撚りの堅いRL。



第82図 ビット出土土器実測図(2) (縮尺1/3)

ビット299

本ビットより検出した土器は、第9群土器である(第82図3~6)。

第9群土器 (第82図3~6)

2類e種 (第82図3~6)

3・4とも波状口縁を呈する。4は器面の摩滅が著しいため口縁部区画内の充填文は不明。

ビット302

本ビットより検出した土器は、第9群土器である(第82図7)。

第9群土器 (第82図7)

2類e種 (第82図7)

ビット307

本ビットより検出した土器は、第9群土器である(第82図8)。

第9群土器 (第82図8)

2類d種 (第82図8)

8は隆帯両側に沈線+刺突。

ビット338

本ビットより検出した土器は、第33群土器である(第82図9)。

第33群土器 (第82図9)

第2表 掲載土器出土区一覧表

押図No.	出土区	押図No.	出土区
第45図1	A12表土	第46図15	B8包
2	B14包	16	B7包
3	B14包	17	D13包
4	A15表土	18	A13包
5	A15包	19	A21包
6	D7包	20	B19包
7	B12表土	21	B16包
8	B12包	22	B15包
9	B12集穢下	23	A13包
10	B8包	24	B14包, B14包集穢下
11	B8包	25	A15包
12	D3包	26	B12表土
13	B18包	27	A12包
14	D7包	28	B15包
15	D12包	29	B13包, G6試験
16	B10包	30	A16包
17	B8包	31	A13包
18	A14包	32	B15包
19	A13包	33	A14包
20	B14包集穢下	34	A13包
21	A13包	35	A16包
22	B18包	36	B9包
23	B13包	37	A8包
24	A18包	38	B17包
25	A13表土	39	D7散面
26	A13包	40	A13包
27	A14包集穢下	41	A15包
28	A12包	42	B13包
29	A12表土	43	D7包
30	B14包集穢下	44	A13包
31	A11包	45	A13包
32	A10包	46	A12包
33	B9包	47	B15包
34	A19包	48	B15包
35	B15包	49	A12表土
36	B13包	50	B9包
37	B10包	51	B13包
38	B13包	52	A19包
39	B14表土	第47図1	B14包集穢下, B14表土
40	B18包	2	B14表土, C14表土
41	B13包	3	B13包
42	B10包	4	B10包
43	B13包	5	B10包
44	D3包	6	B15包
45	B3包	7	A10包
46	A14包集穢下	8	B13包
47	B15包	9	A14包集穢下
第46図1	A13包	10	G4試験
2	B15包	11	B9包
3	A15包	12	A8包
4	B18包	13	B10包
5	B12包	14	A19包
6	B9包	15	A13包
7	B13包	16	B9包
8	A15包	17	B8包
9	B13包	18	A10包
10	B14包集穢下	19	B13包
11	A13包	20	D7包
12	A15包	21	B10包
13	B9包	22	B13包
14	A15包	23	A12包

第1節 土器

棟号No.	出土区	棟号No.	出土区
第47図24	A16包	第49図3	B9包
25	B13包	4	A13包
26	A10包	5	B15包
27	B9包	6	B15包
28	B13包	7	B13包
29	B15表土	8	B9包
30	A16包	9	B13表土
31	B15包	10	B15包
32	B10包	11	B9包
33	A15包	12	D3包
34	B16包	13	B9包
35	B10包	14	A17包
36	B10包	15	D7包
37	A10包	16	A10包
38	B16包	17	A13包
39	B13包	18	B12包
40	B15表土	19	D4包
41	A10包	20	A9包
第48図1	B13表土	21	A9包
2	B13包	22	B8包
3	B22包	23	B8包
4	B10包	24	A15包
5	B10包	25	A13包
6	B10包	26	A13壁面
7	B12包	27	B13包
8	B12包	28	B13包
9	B22包	29	A13壁面、A14壁面
10	A14包	30	A16包
11	B10包	31	B13包
12	B10包	32	A13包
13	B12包	33	B13包
14	B3包	34	B12包、B13包
15	B13包	35	B13包
16	B9包	36	B12包
17	B13包	37	B5包
18	B12包	38	A19包
19	D7包	39	B12包
20	B9包	40	B5包
21	A10包	41	A16包
22	D4包	42	B15包
23	A6包	43	A12包
24	A14包、A14表土	44	B15包
25	B13包	45	B13包
26	B7包	46	B18包
27	B12包	47	A10包
28	A9包	48	A12包
29	B14包	49	A15包
30	B10包	50	B13包
31	A15包	51	B15包
32	A21包	52	A15包
33	B11包	53	A13表土
34	B9包	54	A9包
35	B9包	第50図1	A12包
36	B14表土	2	D3包
37	B12表土	3	A10包、A13表土
38	A12包	4	A13包
39	B9包	5	A9包、D3表土
40	A28包	6	D3包
41	B19包	7	B13包
42	B10包	8	B10包
第49図1	A14包集積下	9	B2包
2	B15包	10	B12包

第5章 遺物

棟号No.	出土区	棟号No.	出土区
第50図11	A13包	第54図18	2住5区下部
12	B15包	19	2住5区上部
13	B9包、B10包	20	2住4区上・中部
第51図1	1住3区、B15 ビット261、A・B15包、G7鉄器	21	2住4区壊土上部
2	1住3区、A15包	22	2住5区、4住3区上部、5住2区上部
3	1住3区	23	2住3区上部
4	1住3区、B15包	24	2住5区上部
5	1住埋壁1、1住炉、A15包	25	2住5区下部
6	1住3区、B15包	26	2住5区上部
7	1住3区、1住、A13・16包	27	2住5区中部
第52図1	1住3区	28	2住ビット6、2住1区上部、2住2区上部
2	1住2区	29	2住2区上部
3	1住3区	30	2住3区中部
4	1住3区	31	2住3区中部
5	1住	32	2住5区
6	1住2区	33	2住1区上部
7	1住1区床面	34	2住5区中部
8	1住炉	35	2住3区上部
9	1住1区床面	36	2住1区上部
10	1住2区	37	2住1区上部
11	1住炉	38	2住4区上・中部
12	1住1区床面	39	2住3区上部
13	1住2区	40	2住2区上部
14	1住2区	41	2住4区上部
15	1住3区	42	2住3区上部
16	1住	43	2住1区上部
17	1住	第55図1	2住5区レンヂ
18	1住3区	2	2住4区上部
19	1住1区床、1住	3	2住4区上部
20	1住1区床、1住2区	4	2住5区上部
21	1住	5	2住5区上部
第53図1	2住ビット4、2住5区中部、4住壁溝、4住ビット4、4住上・下部	6	2住5区下部
2	2住5区、4住2区上・下部、5住2区上・下部、B13包	7	2住2区中部
3	2住ビット4、2住下部、2住中部、2住5区、4住2区床土、4住壁溝、4住ビット4、4住ビット5、4住上・下部、5住3区、B3 ビット2、B13包、表探	8	2住5区上部
4	2住5区下部、2住5区中部、2住5区、4住ビット5、4住2区下部、4住2区上部、4住2区レンヂ、4住3区下部、4・5住レンヂ、A13包、B13包	9	2住4区上・中部
5	2住5区、4住ビット4、4住2区下部、4住2区上部	10	2住5区中部
第54図1	2住5区上部	11	2住5区レンヂ
2	2住5区壊土中	12	2住4区上部
3	2住5区	13	2住4区中部
4	2住1区中部	14	2住1区上部
5	2住4区上部	15	2住5区レンヂ
6	2住ビット2	16	2住1区上部
7	2住5区上部	17	2住5区上部
8	2住1区上部	18	2住5区中部
9	2住5区上部	19	2住1区上部
10	2住3区中部	20	2住4区上・中部
11	2住1区下部、2住1区中部	21	2住5区中部
12	2住5区上部、4住4区上部、B19表土	22	2住4区上部
13	2住4区上部	23	2住1区レンヂ
14	2住5区中部	24	2住5区上部
15	2住5区上部	25	2住3区上部
16	2住5区中部	26	2住5区上部
17	2住4区上部	27	2住2区中部
		28	2住4区上部
		29	2住5区中部
		30	2住5区レンヂ
		31	2住3区床
		32	2住1区下部、2住1区上部
		33	2住3区上部
		34	2住4区中部
		35	2住1区下部
		36	2住5区上部

第1節 土器

押図№	出土区	押図№	出土区		
第55図37	2住4区上部	第58図23	3住1区下部		
38	2住ビット1	24	3住1区上部		
39	2住3区中部	25	3住1区上部		
40	2住3区中部	26	3住1区上部		
41	2住2区中部	27	3住3区下部		
42	2住3区上部	28	3住1区トレンチ		
43	2住2区上部	29	3住1区上部		
44	2住2区中部	30	3住1区下部		
45	2住2区上部	31	3住2区上部		
46	2住5区中部	32	3住1区上部		
47	2住3区中部	第59図1	4住3区下部、4住3区上部、4住3区上・下部、4住、4・5住、5住3区下部集積		
48	2住5区中部		2	4住2区下部、4住2区上部	
49	2住5区上部		3	4住1区下部、4住2区上部、2住1区、2住4区上部、2住5区下部、2住5区中部、B13表土	
50	2住5区中部、4住2区上部		4	4住1区下部、4住2区下部、4住3区下部、4住3区上部、4住3区上・下部	
51	2住ビット11		5	4住2区壁溝、4住ビット4、4住2区下部、4住2区上部、2住5区中部	
52	2住5区中部、2住5区上部		6	4住1区上部、4住2区下部、4住2区上部、4住3区下部、4住5区上部、2住1区上部	
53	2住5区上部		7	4住2区下部、5住ビット6、5住4区壁面	
第56図1	2住5区床、4住ビット4		8	4住2区下部	
2	2住4区上・中部		9	4住2区下部、4住2区上部、2住5区中部・2住5区、B13包	
3	2住1区上部		10	4住2区壁溝、4住3区、5住2区下部	
4	2住5区	第60図1	4住2区下部、4住上部、4住上・下部、5住1区上部、5住2区下部・5住2区上部		
5	2住4区上・中部		第61図1	4住ビット4、4住1区下部、4住2区下部、4住2区上部、4住2区、4住3区上部、4住5区中部、2住5区下部、A14表土	
6	2住1区上部			2	4住ビット5、4住1区下部
7	2住4区上・中部			3	4住2区上部、5住1区上部、A14包、G6試掘
8	2住4区上部			4	4住ビット5
9	2住2区トレンチ			第62図1	4住3区壁溝
10	2住3区下部			2	4住2区上部
11	2住3区上部			3	4住ビット5
12	2住5区中部			第57図1	4住壁溝
13	2住5区				5
14	2住5区	6			4住2区下部
15	2住5区	7	4住2区下部		
16	2住4区上・中部	第58図1	8	4住	
17	2住5区上部		9	4住3区上・下部	
18	2住5区中部		10	4住2区下部、A14包集積下	
19	2住1区上部		11	4住3区上・下部	
20	2住3区中部		12	4住2区下部	
第57図1	3住1区ビット4、3住1区下部、3住1区トレンチ、3住2区下部、3住上部、A12包		4	4住壁溝	
			5	4住2区下部	
2	3住1区上部、A12壁面		6	4住2区下部	
2	3住1区下部		7	4住2区下部	
2	3住3区上部		8	4住	
3	3住4区下部		9	4住3区上・下部	
4	3住2区上部		10	4住2区下部、A14包集積下	
5	3住1区下部		11	4住3区上・下部	
6	3住		12	4住2区下部	
7	3住3区下部		13	4住3区下部	
8	3住2区上部		14	4住2区上・下部、5住2区下部、5住2区上部	
9	3住3区上部		15	4住壁溝	
10	3住2区上部		16	4住1区、2住5区上部	
11	3住1区上部		17	4住2区上部	
12	3住2区上部		18	4住ビット5	
13	3住1区上部		19	4住ビット5	
14	3住2区下部		20	4住2区下部、4住2区上部	
15	3住3区上部	21	4住2区上部		
16	3住2区下部	22	4住2区上部		
17	3住	23	4住2区壁溝、2住4区上部		
18	3住1区	24	4住2区上部		
19	3住2区上部	25	4住3区上部		
20	3住2区上部	26	4住2区下部		
21	3住1区上部	第63図1	4住2区上部		
22	3住2区上部	2	4住		

第5章 遺物

押図№	出土区	押図№	出土区
第63図3	4住ビット1	第66図4	5住ビット7、5住1区下部、5住2区壁溝、5住2区下部、A11 土坑25
4	4住1区下部	5	5住ビット6、5住4区下部、4住2区下部
5	4住1区壁溝	6	5住3区
6	4住ビット4	第67図1	5住1区上部、5住2区上部、5住3区上部、4住2区下部、A13 土坑29上部、A13壁面
7	4住2区上・下部	2	5住2区上部、5住2区トレンチ上部、5住3区上部、2住5区、A13 土坑29上部、A13包、A14包集積下、B14包集積下
8	4住2区上部	3	5住1区下部、5住4区上部、B13 土坑30
9	4住ビット5	4	5住ビット6、5住3区下部 A13壁面
10	4住2区上部	5	5住ビット1、5住ビット9、5住1区下部、5住2区トレンチ上部、2住5区、2住1区中部、2住5区中部、2住5区上部、4住2区下部、4住2区上部、A13包、G6試験
11	4住2区上部	6	5住2区下部、5住2区上部、A13 土坑29上部
12	4住2区上部	7	5住2区上部、4住2区下部
13	4住3区下部	第68図1	5住3区、2住5区中部、2住5区上部、2住5区、4住2区下部、4住2区上部
14	4住3区下部	2	5住2区上部、5住4区上部、4住2区上部、A13 土坑29上部、B14包集積下
15	4住2区上部	3	5住1区下部、5住1区上部、5住4区上部
16	4住ビット4	4	5住3区
17	4住2区上部	第69図1	5住1区下部、5住3区上部、4住2区上部、A13 土坑29下部、A13 土坑29上部
18	4住3区下部	2	5住1区下部
19	4住ビット5	第70図1	5住1・4区、5住2区、5住3・4区、4住2区下部、4住2区上・下部、A19包
20	4住2区上部	2	5住ビット6、5住3区
21	4住2区下部	3	5住4区上部
22	4住ビット4	4	5住2区上部、5住3区上部
23	4住2区壁溝	5	5住2区上部、5住3区上部
24	4住ビット5、2住4区上部	6	5住3・4区
25	4住2区上・下部	7	5住2区下部
26	4住2区上部	8	5住2区上部
27	4住2区上部	9	5住3区
28	4住1区下部	10	5住ビット7、5住3区下部
29	4住2区上部	11	5住3区
30	4住2区下部	12	5住3区下部
31	4住4区上部	13	5住1区、土坑30
32	4住1区下部	14	5住1区上部、B13包、A19包
第64図1	4住2区壁溝	15	5住1区上部
2	4住2区壁溝	16	5住3区上部
3	4住3区上・下部	17	5住
4	4住2区上部	18	5住ビット6、5住3区
5	4住3区上部	19	5住1区下部
6	4住1区下部、4住3区上部	20	5住3区下部
7	4住2区上・下部	21	5住ビット9
8	4住2区上部、4住3区上部	22	5住3区
9	4住3区上部	23	5住
10	4住1区下部	第71図1	5住2区上部
11	4住3区上・下部	2	5住2区上・下部
12	4住2区下部	3	5住2区上部
13	4住2区下部	4	5住3区
14	4住2区下部	5	5住4区上部
15	4住2区下部	6	5住1区上・下部
16	4住2区壁溝	7	5住4区上部
17	4住2区下部	8	5住2区下部
18	4住3区下部	9	5住ビット7、5住3区下部
19	4住2区上部	10	5住2区
20	4住2区上部	11	4・5住3・4区、4住2区下部
21	4住3区上部	12	5住
第65図1	5住4区下部、A13壁面		
2	5住2区上部、4住2区下部、4住2区上部、4住2区上・下部、A13包、G6試験		
第66図1	5住1区上部、5住1区上・下部、5住4区上部、2住5区上部、4住2区下部、A13 土坑29、A13包、A15壁面		
2	5住2区壁溝、5住2区下部、A13 土坑29下部、A13 土坑29上部、A13壁面		
3	5住2区下部、5住2区上部、5住3区下部、5住3区上部		

第1節 土器

押図№	出土区	押図№	出土区
第71図13	5住2区下部	第75図4	7住下部
14	5住4区下部	5	7住炉内
15	5住2区下部	6	7住下部
16	4・5住トレンチ	7	7住
17	5住2区下部	8	7住下部
18	5住4区上部	9	7住下部
19	5住4区上部	10	7住下部
20	5住3区上部	11	7住下部
21	5住2区上部	12	7住下部
22	5住2区下部	13	7住下部
23	5住4区下部	14	7住下部
24	5住3区下部集積	15	7住下部
25	5住3区下部集積	16	7住下部
26	5住2区トレンチ上部	17	7住床
27	5住3区下部集積	18	7住床、7住下部
28	5住3区下部集積	19	7住下部
29	5住3区上部	20	7住床
30	5住2区上部	21	7住下部
第72図1	6住炉内	第76図1	B9 ビット127、A9 土坑16、B9 柱列ビット5、B9 ビット128、G4鉄筋
2	6住炉周辺		
3	6住ビット2、6住ビット12、A16包、B16包	2	A9 柱列ビット2、A10包
第73図1	6住2区下部	3	A9 ビット131、B8 ビット121
2	6住炉内		
3	6住下部	4	B15 塊礫3、B15包、B15表土、A15包、A15表土
4	6住ビット1	5	A9 ビット106
5	6住炉周辺	第77図1	A10 柱列ビット1
6	6住下部	2	A10 柱列ビット1
7	6住床	3	A10 柱列ビット1
8	6住床	4	A10 柱列ビット1
9	6住床	5	A10 柱列ビット1
10	6住ビット1	6	A10 柱列ビット1
11	6住下部	7	A10 柱列ビット1
12	6住床	8	A10 柱列ビット1、A9包
13	6住床	9	A10 柱列ビット1
14	6住床	10	A9 柱列ビット2
15	6住炉内	11	A9 柱列ビット2
16	6住ビット1	12	A9 柱列ビット2
17	6住下部	13	A9 柱列ビット2
18	6住ビット1	14	A9 柱列ビット2
19	6住下部	15	A9 柱列ビット2
20	6住炉周辺	16	A9 柱列ビット2
21	6住炉	17	A9 柱列ビット2
22	6住下部	18	A9 柱列ビット2
23	6住	19	A9 柱列ビット2
24	6住下部	20	A9 柱列ビット2、A9包
25	6住床	21	A9 柱列ビット2
26	6住床	22	B9 柱列ビット3
27	6住床	23	B9 柱列ビット3
28	6住床	24	B9 柱列ビット3
29	6住床	25	B9 柱列ビット3
30	6住床、1住	26	B9 柱列ビット4
31	6住ビット1	27	B9 柱列ビット4
32	6住上部	28	B9 柱列ビット3
第74図1	7住3区床、7住3区下部、7住下部	29	B9 柱列ビット4
2	7住炉、7住4区床、7住4区下部、7住下部、B19包	30	B9 柱列ビット3、B9 柱列ビット4、A8 柱列ビット7、B9 ビット151
3	7住3区下部、7住下部	第78図1	B9 柱列ビット5
4	7住3区床、7住3区下部、7住4区床、7住4区下部、7住下部、B19包	2	B9 柱列ビット5
		3	A8 柱列ビット7
第75図1	7住下部	4	A8 柱列ビット7
2	7住下部	5	A8 柱列ビット7
3	7住下部	6	A8 柱列ビット7、B10包

第5章 遺物

棟号No.	出土区	棟号No.	出土区
第78図7	A8 柱列ビット7	第80図22	B9 土坑86
8	A8 柱列ビット7	23	B9 土坑86
9	A8 柱列ビット7	24	B9 土坑86
10	A8 柱列ビット7	第81図1	A8 ビット77
11	B8 柱列ビット8	2	B8 ビット87
12	B8 柱列ビット8	3	B8 ビット87
13	B8 柱列ビット8	4	B8 ビット89
14	B8 柱列ビット8	5	B8 ビット87
15	B8 柱列ビット8	6	B8 ビット87
16	B6 配石1	7	B8 ビット87、B8 ビット85
17	B6 配石1	8	B8 ビット87
18	B8 配石2	9	B8 ビット92
19	B8 配石2	10	B8 ビット92
20	B8 配石2	11	B8 ビット87、B8 ビット85
第79図1	B8 土坑15	12	B8 ビット92
2	A9 土坑16	13	B8 ビット87、B8 ビット89
3	A13 土坑19上部	14	A8 ビット96
4	A19 土坑64	15	A8 ビット98
5	A19 土坑64	16	B9 ビット122
6	D7 土坑80、D7 土坑82	17	B9 ビット127、B9 ビット112
7	D7 土坑80	18	B9 ビット127
8	D7 土坑80	19	B9 ビット128
9	C7 土坑81	20	A9 ビット131
第80図1	D7 土坑82	21	A9 ビット131
2	D7 土坑82、D7包	22	A9 ビット131
3	D7 土坑82、D7 ビット359	23	A9 ビット131
4	D7 土坑82、D7 ビット359	24	A9 ビット131
5	D7 土坑82、D7 ビット359	25	A9 ビット131
6	D7 土坑82	26	A9 ビット131
7	D7 土坑82	27	B9 ビット139
8	D7 土坑82、D7 ビット359	28	B9 ビット139
9	D7 土坑82	29	A10 ビット154
10	D7 土坑82	30	A10 ビット154
11	D7 土坑82	31	A10 ビット158
12	D7 土坑82	32	A10 ビット154
13	D7 土坑82、C7 ビット362	第82図1	A14 ビット242
14	D7 土坑82	2	A14 ビット243
15	D7 土坑82、D7 ビット359	3	B18 ビット299
16	D7 土坑82	4	B18 ビット299
17	D7 土坑82	5	B18 ビット299
18	D7 土坑83	6	B18 ビット299
19	B9 土坑86	7	A18 ビット302
20	B9 土坑86	8	B18 ビット307
21	B9 土坑86	9	D4 ビット338

第2節 石器・石製品 [図版第二十八～三十二]

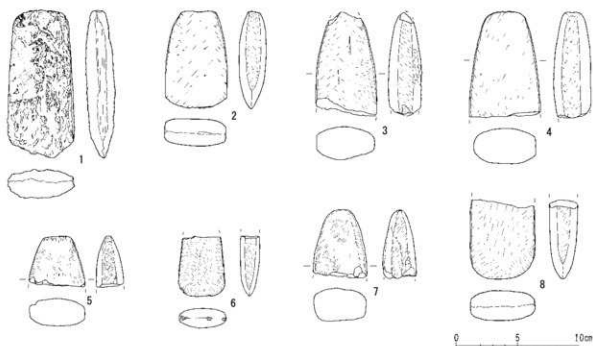
本遺跡の調査で出土した石器・石製品の総数は437点で、石製品1点を含む。

石器の器種には磨製石斧、打製石斧、磨石類、石皿類、石錘、石鏃などがある。これらの石器は、おむね土器と同様に、中期後葉～後期初頭の時間幅を有するものと思えるが、個々の時期比定はほぼ不可能であり、よって器種別に考察を加えていくこととする。

I 磨製石斧 (第83図、磨製石斧観察一覧表)

磨製石斧は総数で9点出土したが、1点は発掘調査中に盗難に遭ったため、現存するのは8点である。内訳は、住居跡出土が2点、包含層出土(表採など含む)が6点で、いずれも側面が明瞭な稜線によって画された、いわゆる定角式石斧である。刃部を残すものは4点(1・2・6・8)で、全て両刃である。

住居跡出土の2点(1・2)は完形品で、特に1は表面に自然面を多く残しているが、所々に磨いた跡が観察出来るため、磨製石斧と判断した。図示した側面の磨痕が特に顕著である以外は、全体に研磨調整が粗く、刃部も打製石斧のそれようである。あるいは磨製石斧の未製品かも知れない。



第83図 磨製石斧実測図(縮尺1/3)

第3表 磨製石斧観察一覧表

No.	出土区	出土遺構	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	石材	重量 (g)	状態	備考	押印No.
1		6住床	120.00	54.00	23.20	片岩	238.2	完形		第83図1
2		7住	79.55	50.80	22.00	安山岩	135.4	完形		第83図2
3	A10	包含層	(48.75)	37.65	15.65	砂岩	43.6	破損	刃部	第83図6
4	A14	包含層	(84.70)	(50.40)	26.40	安山岩	159.3	破損	刃部欠	第83図3
5	B14	包含層	(55.00)	(43.90)	28.60	安山岩	77.0	破損		第83図7
6	B19	包含層	(65.35)	53.10	24.30	安山岩	138.3	破損	刃部	第83図8
7	A21	包含層	(89.00)	(53.40)	30.30	安山岩	242.1	破損	刃部欠	第83図4
8	B12	表土	(41.40)	(45.35)	24.35	砂岩	61.0	破損	頭部	第83図5

II 打製石斧（第84～85図、打製石斧観察一覧表）

打製石斧は総数で27点出土した。内訳は遺構出土が15点、包含層出土（表採など含む）が12点である。さらに、遺構出土のうち13点までが住居跡出土であり、総数のほぼ半分を占める。

打製石斧は全体の形状および刃部の形状から分類した。各類の詳細は以下のようになる。

- I a 類：両側辺がほぼ平行し、直線的な刃部を有するもの
- b 類：両側辺がほぼ平行し、外弯する刃部を有するもの
- II a 類：両側辺が基部に向かってやや狭まり、直線的な刃部を有するもの
- b 類：両側辺が基部に向かってやや狭まり、外弯する刃部を有するもの
- III a 類：両側辺がやや外弯し、直線的な刃部を有するもの
- b 類：両側辺がやや外弯し、外弯する刃部を有するもの
- IV a 類：片側辺がやや外弯し、直線的な刃部を有するもの
- b 類：片側辺がやや外弯し、外弯する刃部を有するもの
- V a 類：両側辺が基部に向かって狭まり、直線的な刃部を有するもの
- b 類：両側辺が基部に向かって狭まり、外弯する刃部を有するもの
- c 類：両側辺が基部に向かって狭まり、直線的な刃部が片側に張り出すもの
- d 類：両側辺がやや内弯しながら基部に向かって狭まり、外弯する刃部を有するもの
- VI a 類：基部側の両側辺に抉りが入り、直線的な刃部を有するもの
- b 類：基部側の両側辺に抉りが入り、外弯する刃部を有するもの

打製石斧27点のうち、分類可能であったのは25点であった。以下、各類について記述する。

I 類（第84図1～5）

いわゆる短冊形と呼称されるものの典型で、小型のものが多く、総数で5点出土し、完形品は3点（3～5）、破損品2点（1・2）はいずれも刃部を欠損している。3は片刃で刃部調整が施されず、剥離時に得られたと思われる刃部をそのまま利用している。一方、4や5は両刃で、刃部調整が比較的緻密に施されている。

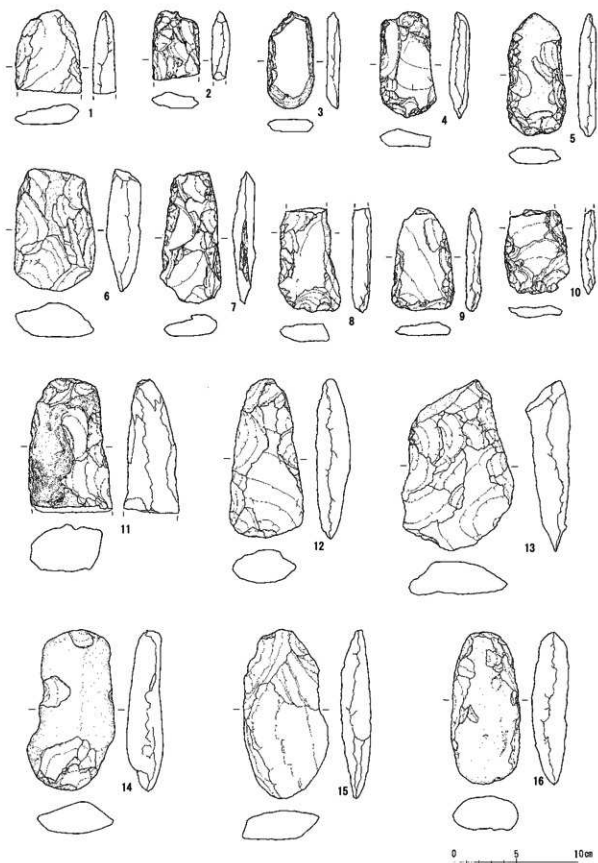
II 類（第84図6～13）

広義では短冊形に含まれるが、刃部がやや広がり、楡形との中間形態を取るものである。総数で8点と、出土数では最も多い。完形品は5点（6・7・9・12・13）で、破損品3点（8・10・11）のうち8・10は刃部を残す。刃部の形状はいずれも両刃であるが、特に9は調整痕が潰れるほどに刃部が摩耗している。11は大型品で、刃部を欠損しているものと思えるが、角柱状で形状調整も粗いため、あるいは敲石の類である可能性も考えられる。13も大型の完形品で、頭頂部に自然面を残す。刃部調整はほとんど施されていない。

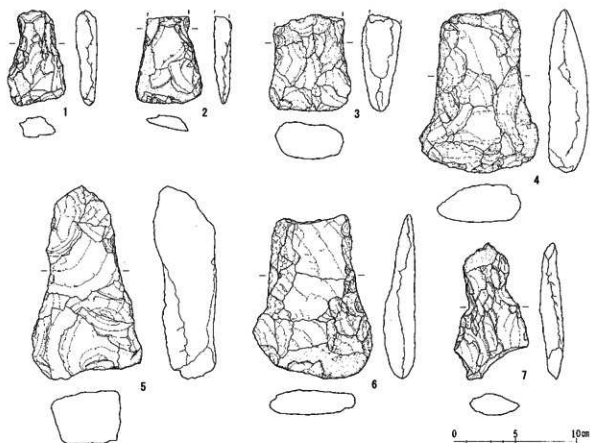
III 類（第84図14～16）

総数で3点を確認したが、この類の典型と呼べるのは16のみで、14・15については不定形と呼んだ方が的確であるとも思える。いずれにせよ、数量的には僅少な一群である。

14は適当な形状の自然礫の一端に若干の刃部調整を加えただけの、いわゆる礫斧と呼称されるもので、形状調整はほぼ全く施されていない。15はこれも適当な形状の剥片に若干の形状調整を加えたもので、刃部調整は全く施されていない。16は一見粗雑な磨製石斧のようにも見えるが、表面には自然面を多く残し、裏面はほぼ単一の剥離面である。形状調整は側縁と基部に粗く施されるのみで、刃部調整はほと



第84圖 打製石斧実測圖(1)(縮尺1/3)



第85図 打製石斧実測図(2) (縮尺1/3)

んど施されない。つまり、これら3点は適当な形状の自然石もしくは剥片を素材とし、若干の調整を加えて、打製石斧としたものと推察される。

IV類

半月形を呈する一群だが、本遺跡では出土しなかった。

V類 (第85図1～6)

いわゆる楕形と呼称される一群である。総数で6点出土し、完形品は4点(1・4～6)で、破損品2点(2・3)はいずれも刃部を残す。1～3の調整は全体に緻密で、2は刃部が特に摩耗し、調整痕が潰れている。4の裏面への調整は比較的緻密で、周縁には潰れが多いが、表面はほぼ一面に自然面を残す。5はほぼ全面に形状調整が粗く施されるが、刃部が作出されていない。その大きさや形状など、前出の第84図11と類似する点もあり、あるいは敲石とも思えるが、両端部に敲打痕も無いため、打製石斧の未製品と判断した。6は、4と大きさ・形状・調整の具合など非常に酷似しており、やはり周囲は潰れが多い。

VI類 (第85図7)

いわゆる分銅形と呼称される一群で、図示した第85図7が1点のみ出土したにとまる。

形状調整は比較的緻密に施されるが、刃部が作出されていない。刃部調整の痕跡もほとんど観察出来ないで、調整前に破損したのか、単なる未製品なのかは判然としなない。

第4表 打製石斧観察一覧表

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	石材	重量 (g)	状態	備考	押図No.
1		1住	IIb	130.10	71.10	29.50	砂岩	297.8	完形	ほぼ自然産	第84図14
2		1住	IIa	83.70	51.10	12.10	安山岩?	61.4	完形		第84図9
3		2住4区上部	I	(68.75)	54.60	18.20	安山岩	82.6	破損	刃部欠	第84図1
4		2住4区上部	Va	(79.00)	70.00	29.30	流紋岩	191.2	破損	刃部のみ	第85図3
5		3住1区床	IIIb	136.80	68.10	24.10	砂岩	235.5	完形		第84図15
6		3住2区上部	Ib	78.00	37.60	10.10	黒色片岩	45.1	完形		第84図3
7		3住2区下部	IIIb	122.60	55.25	27.60	凝灰岩	194.4	完形		第84図16
8		3住3区下部	Ib	85.40	45.10	14.60	片岩	77.3	完形		第84図4
9		4住3区上部	IIb	108.00	48.70	17.00	頁岩	100.2	完形		第84図7
10		4住3区上部	IIa	(68.55)	50.80	10.10	頁岩	49.1	破損	刃部のみ	第84図10
11		5住1区	Vc	77.45	46.30	17.40	頁岩	66.6	完形		第85図1
12		5住2区上部	Ib	99.00	49.80	14.50	片岩	100.6	完形		第84図5
13		7住	VI	110.15	63.10	18.40	片岩	111.0	破損	刃部欠か	第85図7
14	B8	P 8 3	Vc	(84.50)	50.45	15.00	砂岩	87.6	完形		第84図8
15	B9	柱列P 3	Va	(72.00)	54.65	12.55	片岩	58.6	破損	頭部欠	第85図2
16	B9	包含層	IIb	129.35	60.10	27.20	安山岩	232.3	完形		第84図12
17	B10	包含層	I	(56.00)	39.50	14.50	頁岩	37.4	破損	刃部欠	第84図2
18	B11	包含層	Vd	133.65	97.30	32.40	安山岩	460.0	完形		第85図4
19	A13	包含層	II	(108.30)	66.85	44.75	砂岩	370.0	破損	刃部欠	第84図11
20	A13	包含層	Vd	139.90	95.85	26.20	安山岩	370.0	完形		第85図6
21	A14	包含層	IIb	99.40	64.45	27.85	砂岩	204.8	完形		第84図6
22	B14	集石	IIb	(83.10)	63.85	25.30	砂岩	171.4	破損	頭部欠	
23	B15	包含層	Va	159.00	92.70	49.65	安山岩	670.0	完形	未製品か	第85図5
24	A22	包含層	II?	(100.35)	67.50	45.55	閃緑岩	430.0	破損	未製品か	
25	A14	表土	不明	(45.30)	80.80	16.10	砂岩	76.1	破損	刃部のみ	
26	B14	表土	Vb	140.55	92.70	35.40	凝灰質砂岩	360.0	完形		第84図13
27	A15	表土	不明	(88.00)	91.70	27.50	砂岩	216.3	破損	刃部のみ	

III 磨石類 (第86~89図、磨石類観察一覧表)

磨石類は総数で349点出土した。内訳は住居跡出土が165点、それ以外の遺構出土が71点、包含層出土が113点である。なお、この類の石器は、一般に磨石・凹石・凹石など細別されるが、その機能・用途はしばしば重複することが多いため、ここでは上記の石器全てを一括して扱っている。

磨石類はその使用痕から分類した。観察した使用痕とその詳細は以下のようになる。

A 表面・裏面の敲打痕(凹穴を含む)の有無

観察可能なもの332点のうち、表裏両面に敲打痕のあるもの(◎)は95点、片面だけに敲打痕のあるもの(○)は72点、敲打痕の無いもの(×)は165点であった。敲打痕のあるものの割合は全体の約50%になる。

B 周縁の敲打痕の有無

観察可能なもの308点のうち、周縁全体に敲打痕のあるもの(◎)は47点、両端だけに敲打痕のあるもの(○)は35点、ほとんど敲打痕の無いもの(×)は226点であった。周縁への敲打痕を持つものの割合は全体の約27%と少ない。

C 表面・裏面の磨痕の有無

観察可能なもの345点のうち、表裏両面に磨痕を残すもの(◎)は184点、片面だけに磨痕を残すもの(○)は121点、磨痕を残さないもの(×)は40点であった。ほとんどの磨石類が片面ないし両面に磨痕を残しており、その割合は全体の約89%に及ぶ。

D 側面の面取りしたような顕著な磨痕の有無

観察可能なもの305点のうち、顕著な磨痕を残す側面が二面以上あるもの(◎)は15点、顕著な磨痕を残す側面が一面のみあるもの(○)は40点、顕著な磨痕を残す側面の無いもの(×)は252点であった。側面に顕著な磨痕を残すものの割合は全体の約18%と少ない。

以上、四種の使用痕の観察に基づき、次のように分類基準を設定した(括弧内は総数)。

I類 器面に磨痕を残すもの

- I a 表裏両面または片面に磨痕を残すもの(257点)
- I b 側面にのみ面取りしたような顕著な磨痕を残すもの(6点)
- I c 両者をあわせ持つもの(48点)

II類 器面に磨痕を残さないもの

- II a 表面・裏面の敲打痕だけを残すもの(31点)
- II b 周縁部の敲打痕だけを残すもの(2点)
- II c 両者をあわせ持つもの(4点)

磨石類349点のうち、分類可能なものは348点であった。以下、各類について記述する。

I類(第86～88図)

総数で311点を数える。器面に磨痕を残すものなので、いわゆる狭義の「磨石」である。その形状は扁平な円形・楕円形もしくは球形が大半を占める。当然ながら敲石・凹石との重複もあり得るので、以下、各級の敲打痕観察の詳細についても若干付記しておく。

(1) I a類

総数で257点を数える。数量では最も多く、I類の約83%、磨石類全体の約74%をそれぞれ占める。敲打痕については、観察可能なもの243点のうち、表面・裏面だけに敲打痕を残すものは69点、周縁部だけに敲打痕を残すものは31点、両者をあわせ持つものは29点、敲打痕を残さないものは114点であった。

(2) I b類

総数僅かに6点を数えるのみである。敲打痕については、観察可能なもの6点のうち、表面・裏面だけに敲打痕を残すものは1点、周縁部だけに敲打痕を残すものは無く、両者をあわせ持つものは2点、敲打痕を残さないものは3点であった。

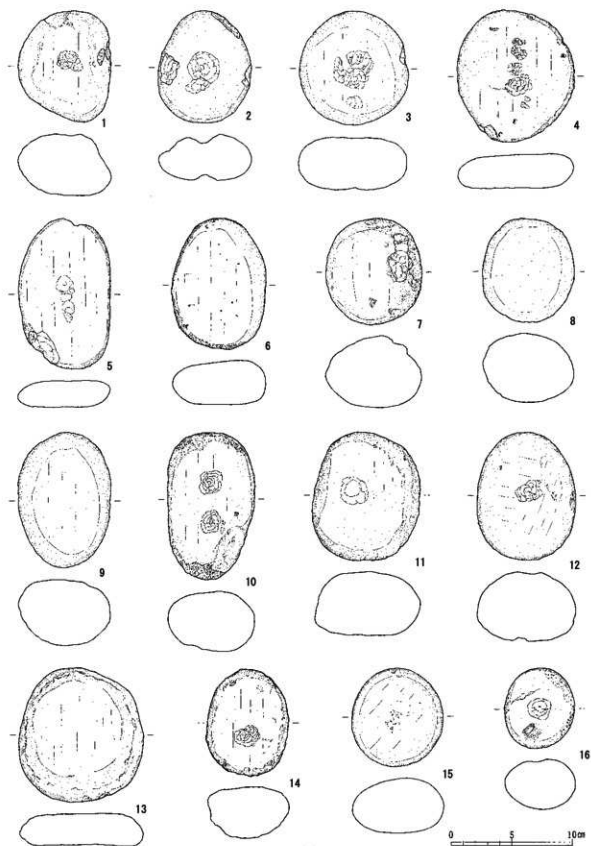
(3) I c類

総数で48点を数える。敲打痕については、観察可能なもの47点のうち、表面・裏面だけに敲打痕を残すものは15点、周縁部だけに敲打痕を残すものは5点、両者をあわせ持つものは9点、敲打痕を残さないものは18点であった。

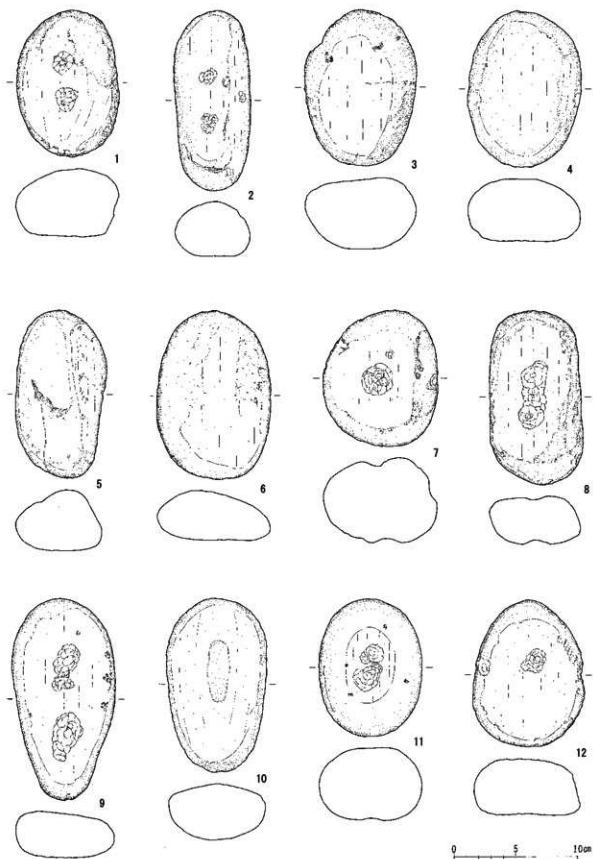
II類(第89図)

総数で37点を数える。器面に敲打痕のみを残すもので、いわゆる「敲石」だが、凹みも敲打痕の一つと見なすので、凹石も含まれることになる。形状は一定せず、様々な形が存在する。

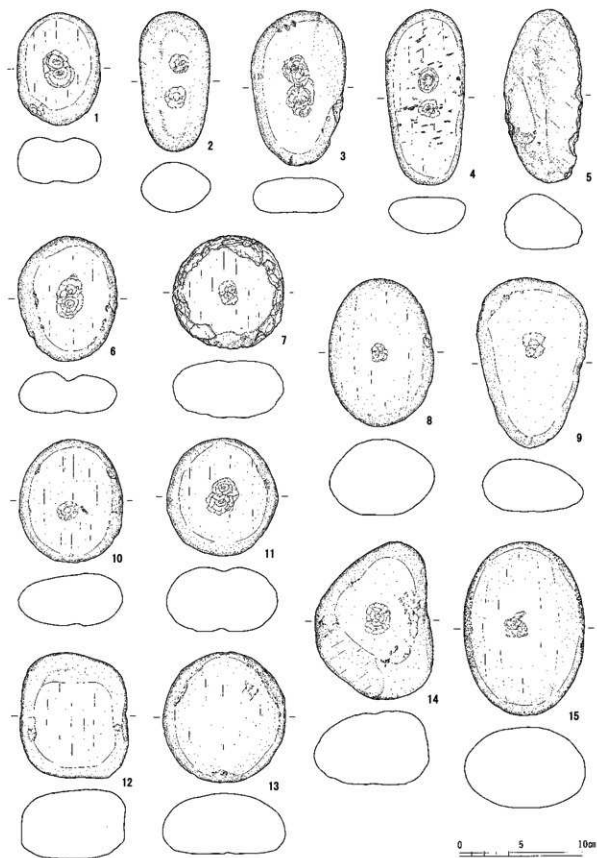
以上、本遺跡出土の磨石類は、いわゆる狭義の「磨石」が全体の約9割を占める結果となったが、I類の約57%に敲打痕が観察されるなど、磨石の半数以上について、敲打機能の重複が確認された。



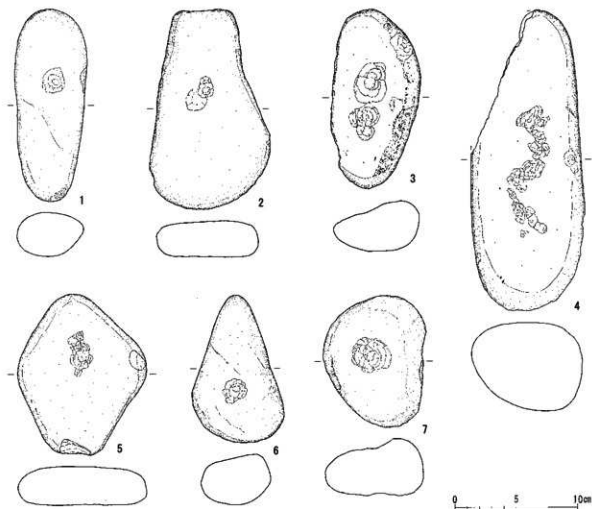
第86圖 磨石類実測圖(1) (縮尺1/3)



第87圖 磨石類実測圖(2)(縮尺1/3)



第88圖 磨石類実測圖(3) (縮尺1/3)



第89図 磨石類実測図(4)(縮尺1/3)

第5表 磨石類観察一覧表

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押図No.
1		1住炉	Ia	166.00	87.00	69.85	○	×	○	×	デイスait	1,195	完形		
2		1住炉	Ia	110.55	56.75	60.40	×	×	◎	×	砂岩	700	完形	被熱か	
3		1住	Ia	101.40	62.80	21.55	○	×	◎	×	砂岩	205	完形		
4		1住	Ic	140.15	108.85	54.30	○	×	○	○	流紋岩	1,060	完形		
5		1住	IIa	118.60	70.85	46.85	◎	×	×	×	砂岩	570	完形		
6		1住	Ia	131.40	107.25	58.90	×	○	○	×	砂岩	925	完形		
7		1住	Ic	92.80	78.40	50.35	◎	◎	◎	◎	砂岩	480	破損		第86図1
8		1住	Ic	(79.25)	(70.75)	46.00	○	—	○	○	砂岩	265	破損		
9		1住	Ia	(142.00)	(120.00)	58.60	◎	◎	○	×	砂岩	820	完形		
10		1住	Ic	110.00	108.85	59.95	×	×	○	○	安山岩?	940	完形		
11		2区5区	Ia	95.10	76.60	36.70	◎	◎	◎	◎	砂岩	365	完形		第86図2
12		2住1区炉	Ia	90.75	68.00	41.55	◎	◎	○	○	流紋岩	340	完形		第86図14
13		2住3区中部	Ic	109.75	89.70	55.00	○	○	○	○	砂岩	650	完形		第86図11
14		2住2区中部	Ia	110.75	97.50	28.90	◎	○	◎	×	安山岩?	420	完形		第86図4
15		2住4区上部	Ia	66.80	62.55	54.90	×	×	×	×	砂岩	300	完形		
16		2住5区上部	Ia	106.80	(85.00)	45.55	○	×	×	×	砂岩	530	完形		
17		2住5区床	Ia	88.40	79.70	60.00	×	◎	○	×	流紋岩	515	完形		第86図7
18		2住4区中部	Ia	114.30	81.00	52.00	◎	◎	◎	×	流紋岩	620	完形		
19		2住2区中部	Ia	110.20	78.50	39.60	×	○	×	○	石英斑岩	500	完形		第86図6
20		2住4区中部	Ia	89.20	79.20	33.00	×	×	◎	×	砂岩	320	完形		

第2節 石器・石製品

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押図No.
21		2住3区中部	Ia	68.10	57.50	41.60	○	◎	◎	×	デイスait	185	完形		第86図16
22		2住1区上部	Ia	155.00	103.00	83.00	×	×	○	×	砂岩	1,620	完形		
23		2住2区中部	Ia	133.70	102.00	37.60	◎	○	○	×	流紋岩	715	完形		第86図10
24		2住3区中部	Ic	124.00	73.00	50.00	◎	○	○	×	砂岩	640	完形		
25		2住1区上部	Ia	(90.03)	74.80	50.60	◎	◎	○	×	砂岩	400	破損		
26		2住	Ia	70.60	64.10	47.00	×	◎	○	×	砂岩	230	完形		
27		2住	IIa	127.60	127.20	61.00	○	×	×	×	流紋岩	1,060	完形		
28		2住	Ia	(124.00)	104.00	32.30	◎	◎	×	×	砂岩	520	破損		
29		2住2区上部	Ia	(87.40)	85.60	58.60	×	◎	×	×	砂岩	540	破損		
30		2住2区上部	Ia	116.20	100.50	67.30	◎	×	×	×	砂岩	970	完形		
31		2住5区上部	Ia	(84.60)	(86.30)	47.30	○	—	○	—	砂岩	340	破損		
32		2住3区中部	Ia	62.40	55.70	43.00	○	×	○	×	砂岩	205	完形		
33		2住2区上部	Ia	(78.70)	91.70	38.60	×	×	×	×	砂岩	390	破損		
34		2住4区上部	Ia	(54.60)	54.50	34.60	×	×	◎	×	安山岩?	135	破損		
35		2住2区上部	Ia	110.40	72.60	51.90	◎	×	×	×	安山岩	485	完形		
36		2住4区伊中	Ia	(62.20)	(60.40)	41.00	◎	×	×	×	流紋岩	160	破損		
37		2住2区上部	IIa	(75.00)	50.50	28.00	○	×	×	×	安山岩?	175	破損		
38		2住2区中部	IIa	(89.70)	65.90	60.00	○	×	×	×	安山岩	550	破損	被熱赤化	
39		2住2区上部	Ia	(124.00)	(72.10)	42.60	◎	—	◎	—	砂岩	450	破損		
40		2住	Ia	(95.00)	(44.00)	(32.90)	○	×	×	×	流紋岩	180	破損		
41		2住4区上部	Ia	(54.40)	(69.40)	28.00	×	○	◎	×	砂岩	150	破損		
42		2住1区下部	Ia	(70.70)	(57.00)	42.40	—	—	—	—	砂岩	170	破損		
43		2住3区中部	Ic	121.60	96.90	57.40	×	×	◎	◎	砂岩	1,060	完形		
44		2住4区中部	Ic	105.30	92.30	77.50	○	○	◎	◎	砂岩	920	完形		
45		2住4区上部	Ic	94.40	74.30	34.90	×	×	◎	◎	砂岩	375	完形		
46		2住1区上部	Ia	100.10	67.50	54.40	○	×	○	×	砂岩	500	完形		
47		2住4区中部	Ia	96.60	67.50	27.40	○	○	×	×	安山岩?	205	完形		
48		2住4区中部	Ia	126.10	75.70	23.80	◎	○	○	×	砂岩	350	完形		第86図5
49		2住3区上部	Ia	(96.10)	(72.20)	28.50	○	—	○	—	砂岩	320	破損		
50		4住上部	Ia	121.20	83.60	56.60	◎	◎	○	×	流紋岩	700	完形		第87図1
51		2住3区上部	Ia	149.90	107.80	40.80	×	×	×	×	安山岩?	840	完形		
52		2住2区上部	Ia	105.60	89.40	28.90	×	×	◎	×	砂岩	360	完形		
53		2住4区上部	Ic	143.50	74.50	40.60	◎	○	◎	◎	砂岩	725	完形		第87図8
54		2住5区上部	Ia	118.90	79.70	59.00	◎	×	×	×	砂岩	760	完形		
55		2住2区中部	Ia	83.90	83.10	29.20	×	◎	×	×	砂岩	280	完形		
56		2住4区上部	Ia	105.60	80.50	67.70	×	×	×	×	砂岩	730	完形		
57		2住4区上部	Ia	81.70	71.70	60.70	×	×	○	×	砂岩	450	完形		
58		2住4区上部	IIc	105.60	60.80	48.40	◎	◎	×	×	砂岩	360	完形		
59		2住2区中部	Ia	69.60	59.30	47.40	○	×	○	×	砂岩	220	完形		
60		2住4区上部	Ia	(106.30)	54.90	32.80	◎	◎	◎	—	砂岩	310	破損		
61		2住上部	Ia	101.80	58.00	49.40	—	—	○	—	砂岩	280	破損		
62		2住3区中部	IIa	93.00	80.30	39.80	○	×	×	×	砂岩	360	完形		
63		2住2区伊中	IIa	(90.80)	(79.80)	24.40	◎	—	—	—	流紋岩	200	破損		
64		2住3区中部	Ia	(60.60)	(87.80)	(35.60)	◎	◎	◎	—	砂岩	230	破損		
65		2住3区中部	Ia	105.80	71.80	34.10	○	×	○	×	砂岩	360	完形		
66		3住1区下部	Ia	80.10	77.40	22.60	×	×	◎	×	砂岩	200	完形		
67		3住1区	Ia	107.70	81.70	59.40	◎	×	×	×	砂岩	630	完形		第86図12
68		3住1区下部	Ia	66.90	63.30	43.40	×	×	×	×	流紋岩	265	完形		
69		3住1区床	Ia	110.00	79.70	70.40	×	×	○	×	?	845	完形		
70		3住4区下部	Ia	113.60	84.00	61.20	◎	×	×	×	石英斑岩	885	完形		第87図11
71		3住1区上部	Ia	143.40	80.40	46.80	×	◎	×	×	砂岩	705	完形		第87図10
72		3住1区下部	Ia	109.70	83.10	43.70	×	○	◎	×	流紋岩	535	完形		
73		3住1区	Ia	(80.20)	66.90	52.10	○	×	×	×	安山岩?	350	破損		
74		3住1区床	Ic	93.50	79.30	50.50	×	○	○	×	砂岩	370	完形		
75		3住1区	Ia	86.30	81.20	39.60	○	×	×	×	安山岩	360	完形		
76		3住1区	Ia	128.10	72.30	40.40	◎	◎	×	×	砂岩	490	完形		

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	A	B	C	D	石材	重量 (g)	状態	備考	押印No.
77		3住4区下部	Ia	116.80	84.70	30.90	×	×	×	×	砂岩	410	完形		
78		3住1区下部	Ia	80.10	75.80	66.10	×	×	×	×	砂岩	570	完形		
79		3住1区	Ia	73.30	67.20	63.10	×	×	◎	×	安山岩	440	完形		
80		3住3区上部	Ia	(82.80)	89.40	50.80	○	◎	×	×	砂岩	435	破損		
81		3住3区下部	Ia	90.80	74.20	69.30	×	×	×	×	砂岩	570	完形		
82		3住1区下部	Ic	125.10	86.50	34.80	×	○	◎	◎	砂岩	450	完形	側裏面被熱赤化	
83		3住3区上部	Ic	96.50	66.60	40.60	○	◎	○	○	砂岩	290	完形		
84		3住1区下部	Ia	155.00	136.30	64.50	○	×	◎	×	砂岩	1,700	完形		
85		3住1区下部	Ic	126.10	85.70	55.40	◎	×	○	○	流紋岩	760	完形		
86		3住1区	Ic	137.10	(74.80)	57.70	○	○	◎	◎	砂岩	820	完形		
87		3住1区	Ia	(109.00)	60.90	43.40	○	○	○	×	砂岩	385	破損		
88		3住1区上部	IIa	(95.90)	70.00	43.20	◎	×	×	×	砂岩	435	破損		
89		3住3区上部	Ia	68.40	54.50	44.90	×	×	×	×	流紋岩	180	完形		
90		3住2区	Ia	122.70	62.50	48.90	×	×	○	×	砂岩	410	完形	被熱赤	
91		3住1区下部	IIa	(112.70)	(45.20)	(38.30)	◎	-	×	-	安山岩?	235	破損		
92		3住1区床	IIa	(253.00)	93.40	77.90	◎	×	×	×	安山岩	2,320	破損		第89図4
93		4住3区下部	Ia	116.50	111.30	72.60	×	○	○	×	砂岩	1,220	完形		
94		4住3区上部	Ia	164.00	98.70	47.20	×	×	○	×	砂岩	940	完形		
95		4住2区下部	Ia	132.90	104.80	49.90	○	◎	○	○	流紋岩	915	完形		
96		4住2区下部	Ia	128.90	91.60	58.50	×	×	○	×	砂岩	850	完形		第87図3
97		4住1区下部	Ia	57.80	77.20	42.80	×	○	○	×	安山岩	330	完形		
98		4住P10	Ia	174.00	110.30	47.00	×	×	○	×	砂岩	1,190	完形		
99		4住2区上部	Ic	69.10	64.60	57.20	×	×	○	○	砂岩	335	完形		
100		4住2区下部	Ia	(130.40)	62.40	69.00	○	×	×	×	砂岩	700	完形		
101		4住2区上部	IIa	(80.90)	59.20	42.40	◎	-	×	-	砂岩	250	破損		
102		4住3区上部	Ia	(88.50)	106.60	52.70	○	×	◎	×	砂岩	670	破損		
103		4住2区壁溝	Ia	68.60	64.90	43.80	×	×	◎	×	流紋岩	240	完形		
104		4住3区上部	IIa	146.90	178.00	62.80	○	×	×	×	安山岩	1,540	完形		
105		4住2区	Ia	125.60	92.60	52.70	○	×	○	×	安山岩	740	完形		
106		4住3区上部	Ia	137.60	64.50	54.20	×	×	○	×	砂岩	595	完形		
107		4住P5	Ic	180.00	70.80	35.80	×	×	◎	○	安山岩	720	完形		
108		5住1区上部	Ia	81.50	66.10	42.60	×	×	◎	×	砂岩	310	完形		
109		5住P4	Ia	112.30	102.50	28.60	×	◎	×	×	流紋岩	520	完形		第86図13
110		5住2区上部	Ia	108.00	89.20	27.00	×	◎	×	×	砂岩	360	完形		
111		5住3区	Ic	(104.00)	100.00	53.00	○	×	○	○	安山岩?	745	完形		
112		5住2区上部	Ia	(67.10)	70.20	48.60	×	×	◎	×	砂岩	280	破損	被熱赤	
113		5住P6	Ia	65.60	59.20	49.50	×	×	○	×	安山岩	230	完形		
114		5住4区上部	Ic	98.70	82.30	61.50	○	○	◎	◎	砂岩	540	完形		
115		5住2区上部	Ia	96.00	90.70	43.60	◎	×	○	○	砂岩	540	完形		第86図3
116		5住4区上部	Ia	113.30	105.00	59.10	×	×	◎	×	凝灰岩	735	完形		
117		5住3区下部	Ic	159.00	108.50	62.50	×	◎	◎	◎	砂岩	1,415	完形		
118		5住P5	Ia	(72.10)	80.70	41.00	◎	-	○	-	デザインサイト	260	破損		
119		5住1区下部	Ia	(94.40)	84.90	49.60	×	◎	○	×	砂岩	450	完形	一部黒化、被熱赤	
120		5住1区上部	Ia	106.80	62.60	36.60	×	◎	×	×	砂岩	305	完形		
121		5住P6	Ia	109.00	84.50	38.00	◎	×	×	×	砂岩	460	完形		
122		5住2区上部	?	(91.80)	(77.90)	53.60	○	-	-	-	砂岩	415	破損		
123		5住4区上部	Ib	134.00	111.10	60.00	○	◎	×	○	砂岩	1,035	完形		
124		5住4区上部	Ic	(117.60)	85.20	51.30	×	×	○	○	砂岩	715	破損		
125		5住4区上部	Ia	88.80	68.10	48.40	×	×	○	×	安山岩	350	完形		
126		5住4区上部	Ia	(81.60)	(44.70)	51.70	-	-	-	-	凝灰岩	180	破損		
127		5住1区上部	IIa	88.00	74.10	62.60	○	×	×	×	安山岩	500	完形		
128		5住3区上部	Ia	111.10	78.50	56.10	×	×	○	×	砂岩	665	完形	被熱、黒・赤化	
129		6住P3	Ic	94.80	59.20	53.30	×	×	○	◎	砂岩	435	完形		
130		6住	Ia	151.00	113.60	75.00	○	×	×	×	砂岩	1,535	完形		
131		6住	Ib	74.60	65.00	47.40	◎	×	×	○	流紋岩	275	完形		
132		6住床	Ia	148.60	61.50	49.80	◎	○	◎	×	砂岩	640	完形		第87図2

第2節 石器・石製品

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押図No.
133		6住	Ia	(73.50)	91.50	23.00	—	—	⊙	—	砂岩	235	破損		
134		6住床	Ia	66.50	59.40	50.10	×	×	○	×	安山岩?	260	完形		
135		6住床	Ia	(81.30)	(56.10)	(43.30)	—	—	○	—	流紋岩	225	破損		
136		6住	Ia	93.20	87.70	65.20	×	×	⊙	×	砂岩	740	完形		
137		7住床	Ia	110.50	85.70	41.50	⊙	⊙	×	×	流紋岩	450	完形		
138		7住床	Ia	128.70	104.00	39.50	×	×	⊙	×	流紋岩	680	完形		
139		7住床	Ia	106.00	61.40	47.30	×	⊙	×	×	砂岩	400	完形		
140		7住床	Ia	108.90	86.70	28.50	×	×	⊙	×	砂岩	370	完形		
141		7住床	Ia	133.40	90.40	24.60	×	×	⊙	×	流紋岩	435	完形		
142		7住床	Ia	118.50	90.60	53.70	⊙	×	○	×	砂岩	700	完形	被熱	第87図12
143		7住床	Ia	138.50	92.90	43.10	×	×	⊙	×	砂岩	785	完形		第87図6
144		7住	Ia	89.70	79.80	54.50	×	○	⊙	×	砂岩	515	完形		
145		7住	Ia	113.00	66.10	32.70	×	×	⊙	×	砂岩	310	完形		
146		3住1区床	Ia	119.50	104.10	74.00	○	×	○	×	砂岩	1,085	完形		
147		7住	Ia	118.90	80.50	37.80	×	⊙	×	×	砂岩	520	完形		
148		7住	Ia	110.90	87.60	64.70	○	×	○	×	砂岩	730	完形		
149		7住	Ic	112.30	91.80	70.20	⊙	⊙	○	○	砂岩	980	完形		第87図7
150		7住床	Ia	91.20	71.50	34.00	×	⊙	×	×	砂岩	255	完形		
151		7住	Ia	107.30	82.00	34.70	×	×	⊙	×	砂岩	420	完形		
152		7住床	Ic	158.00	81.50	50.90	×	×	○	○	砂岩	760	完形		
153		7住床	Ic	134.40	98.30	58.20	×	○	⊙	×	砂岩	1,050	完形		
154		3住1区床	Ia	121.00	75.40	33.10	×	×	⊙	×	安山岩	310	完形		
155		7住	Ia	(83.10)	(81.10)	(47.90)	×	—	○	—	砂岩	405	破損		
156		7住床	Ia	129.00	77.90	25.80	×	×	⊙	×	安山岩?	360	完形	やや赤化	
157		3住1区床	Ia	73.10	73.10	29.40	⊙	×	⊙	—	砂岩	210	破損		
158		7住	Ia	62.00	47.20	41.60	⊙	×	○	×	砂岩	160	完形	被熱赤化	
159		7住床	Ia	175.00	107.40	42.30	×	⊙	×	×	流紋岩	1,020	完形		
160		7住床	Ia	155.00	111.30	48.10	×	⊙	×	×	流紋岩	1,040	完形		
161		7住床	Ia	180.70	60.00	49.40	⊙	—	○	—	砂岩	490	完形		
162		7住	Ic	(158.00)	(88.80)	(57.40)	—	—	○	○	砂岩	875	破損		
163		7住	Ia	119.10	52.90	18.00	×	×	⊙	×	砂岩	160	完形		
164	A17	土4 3	Ic	169.00	83.50	37.30	⊙	×	○	○	砂岩	625	完形		第87図9
165	A14, 15	土3 7	Ia	131.60	102.40	46.80	×	×	○	×	流紋岩	800	完形	被熱やや赤化	
166	A14, 15	土3 7	Ia	98.60	80.50	39.70	×	×	⊙	×	デイサイト	455	完形		
167	A18	土5 9	Ia	(82.30)	74.20	31.80	⊙	×	⊙	×	流紋岩	230	完形		
168	A17	土5 0	Ic	111.90	80.60	43.70	×	×	○	○	砂岩	580	完形		
169	A19	土6 6	Ia	176.00	137.50	61.00	×	×	○	×	砂岩	1,850	完形		
170	A19	土6 4	Ia	87.60	82.10	34.20	⊙	×	⊙	×	砂岩	340	完形		
171	A19	土6 4	Ia	237.00	132.00	82.00	×	×	⊙	×	砂岩	3,090	完形		
172	A19	土6 4	Ia	(58.20)	(56.70)	(39.70)	⊙	—	○	—	砂岩	170	破損		
173	A19	土6 4	Ia	209.00	147.00	100.00	×	×	○	×	砂岩	3,640	完形		
174	A13	土2 9	Ia	127.80	90.90	51.30	×	⊙	×	×	砂岩	810	完形		第87図4
175	A13	土2 9	Ia	88.80	77.50	41.80	×	×	⊙	×	砂岩	350	完形		
176	A13	土2 9	Ia	(68.60)	(99.20)	(76.20)	×	○	—	—	砂岩	570	破損		
177	A13	土2 9	Ia	(108.80)	72.70	33.70	×	×	⊙	×	砂岩	330	完形		
178	A13	土2 9	Ic	77.00	54.90	50.80	×	×	○	○	砂岩	300	完形		
179	A13	土2 9	Ia	129.90	110.00	44.70	×	×	⊙	×	デイサイト	830	完形		
180	A13	土2 9	Ia	117.60	98.70	50.10	×	×	○	×	安山岩	665	完形		
181	B18	土5 2	Ia	119.30	96.60	47.00	×	×	⊙	×	凝灰岩	640	完形		
182	B11	土2 2	Ia	101.60	87.40	(31.40)	○	⊙	○	×	流紋岩	350	完形		
183	B17	土4 4	Ic	79.50	69.10	57.10	×	×	○	○	安山岩	375	完形	やや赤化	
184	B17	土4 7	Ia	(96.50)	(101.80)	40.60	⊙	—	○	—	砂岩	495	破損		
185	B9	土1 5	Ia	116.50	91.30	49.40	⊙	×	×	×	安山岩?	670	完形		
186	B17	土4 4	Ic	98.00	63.00	59.00	×	×	○	○	砂岩	460	完形		
187	B7	土1 2	Ia	101.40	78.40	75.40	⊙	×	○	×	砂岩	740	完形		
188	B17	土4 8・4 9	Ia	74.10	57.00	59.00	×	×	○	×	砂岩	320	完形	二分割	

第5章 遺物

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押印No.
189	A18	P300	IIa	(121.50)	73.40	32.80	◎	×	×	×	安山岩?	395	破損		
190	A18	P300	Ia	(104.60)	83.90	65.40	×	×	◎	×	安山岩	755	破損	欠損部~裏面褐色	
191	A7	P44	Ia	108.60	81.70	61.30	×	×	×	◎	細粒岩	640	完形		
192	A9	P132	Ia	114.40	50.80	39.40	×	×	×	◎	流紋岩	295	完形		
193	A, B9	P109	Ia	82.30	75.30	45.80	×	×	◎	×	安山岩	405	完形		第86図15
194	A, B9	P109	Ic	(120.00)	(94.70)	53.40	◎	—	◎	◎	砂岩	675	完形		
195	A11	P200	Ic	(105.60)	80.20	29.10	◎	—	◎	◎	砂岩	305	完形		
196	A19	P310	Ic	91.00	66.70	55.00	◎	×	◎	◎	砂岩	470	完形		
197	A18	P300	IIa	(69.20)	94.40	38.50	◎	—	×	—	砂岩	310	破損		
198	A18	P300	IIa	(75.00)	(99.50)	19.70	◎	—	×	—	流紋岩	200	破損		
199	A17	P241	Ia	(64.00)	(59.00)	(39.10)	—	—	◎	—	砂岩	175	破損		
200	A19	P310	Ia	83.60	57.20	38.40	×	×	◎	×	砂岩	220	完形		
201	B7	P50	Ia	113.30	64.60	40.00	×	◎	×	◎	デイスait	380	完形		
202	B7	P54	Ia	71.70	63.00	52.20	×	×	◎	×	流紋岩	270	完形		
203	B11	土22	Ia	72.30	60.30	51.60	×	×	×	◎	砂岩	275	完形		
204	A7	P44	IIa	60.30	62.00	(26.60)	◎	×	×	×	デイスait	120	破損	被熱赤化	
205	B14	P233	Ia	90.60	61.50	45.00	◎	×	◎	×	安山岩?	365	完形		
206	B9	P125	Ia	(98.20)	62.80	25.60	◎	×	×	◎	砂岩	225	完形		
207	B7	P60	Ia	113.60	76.50	55.30	×	×	◎	×	砂岩	645	完形		第86図9
208	B9	P125	Ic	112.80	58.80	59.10	×	×	◎	◎	砂岩	600	完形		
209	B9	P141	Ia	86.80	76.00	58.20	×	×	◎	×	砂岩	520	完形		第86図8
210	A20	土68	Ia	77.50	57.60	28.50	×	×	◎	×	砂岩	145	完形		
211	B15	P257	IIa	74.40	44.00	34.00	◎	×	×	×	デイスait	130	完形	被熱赤化	
212	B8	P97	Ia	91.50	59.80	27.30	◎	×	◎	×	安山岩?	220	完形		
213	B15	P254	IIa	132.50	105.20	32.90	◎	×	×	×	砂岩	565	完形		第89図5
214	B14	P247	Ia	127.60	99.30	45.00	—	—	◎	—	流紋岩	610	破損		
215	B15	P259	Ia	69.50	48.30	30.50	×	×	◎	×	デイスait	120	完形		
216	B9	P144	Ia	(74.40)	(62.50)	(40.10)	—	—	◎	—	砂岩	240	破損		
217	B6	P22	Ib	138.50	71.90	51.00	×	×	×	◎	砂岩	695	完形		第87図5
218	B8	P90	Ia	96.40	75.00	40.90	×	×	◎	×	砂岩	365	完形		
219	B8	P85	Ib	128.70	64.10	30.00	◎	×	◎	×	砂岩	320	完形		
220	B9	P125	Ia	109.50	64.20	47.60	×	◎	×	◎	砂岩	450	完形		
221	B6	P29	Ic	110.60	83.70	61.20	×	◎	◎	◎	砂岩	770	完形	裏茶色に変色	
222	B14	P245	Ia	215.00	129.90	80.00	×	×	◎	×	片岩	3,080	完形		
223	B9	P124	Ia	64.20	48.00	38.80	×	×	◎	×	砂岩	140	完形		
224	B7	P57	Ia	(73.80)	73.40	50.00	◎	×	◎	×	砂岩	400	破損		
225	B8	P90	Ia	74.80	58.60	35.20	×	×	◎	×	砂岩	200	完形		
226	B7	P56	IIa	(82.80)	(77.10)	(51.00)	◎	—	—	—	安山岩?	410	破損		
227	B18	P296	Ia	(93.70)	(39.50)	(47.60)	—	—	◎	—	砂岩	195	破損		
228	B9	P144	Ia	(91.20)	(103.30)	32.80	—	—	◎	—	安山岩?	355	破損	先端被熱	
229	B14	P239	Ia	117.00	(102.70)	26.50	×	◎	×	◎	砂岩	365	破損		
230	B10	P172	Ic	60.60	49.30	20.30	×	×	◎	×	流紋岩	100	完形		
231	B11	P200	Ia	54.90	42.80	25.90	×	×	◎	×	砂岩	90	完形		
232	D6	P336	Ia	72.70	63.50	45.90	×	×	◎	×	流紋岩	265	完形		
233	D2	P320	Ic	130.90	122.90	46.80	×	×	◎	◎	砂岩	1,070	完形		
234	D8	P332	Ia	128.50	108.50	56.00	×	◎	◎	×	砂岩	1,055	完形		
235	A13	包含層	Ia	119.20	80.20	51.50	×	×	◎	×	砂岩	640	完形		
236	A13	包含層	Ia	(82.10)	77.00	34.80	◎	—	◎	—	安山岩?	310	破損		
237	A13	包含層	Ia	84.00	81.40	46.20	×	×	◎	×	安山岩	435	完形		
238	A16	北壁	Ia	111.30	61.50	37.00	×	×	◎	×	砂岩	325	完形		
239	A13	包含層	IIa	(94.60)	(40.20)	(57.20)	◎	×	×	◎	安山岩?	280	破損		
240	A12	集石	Ic	93.00	67.90	38.30	◎	×	◎	◎	砂岩	310	完形		第88図1
241	A12	集石	Ia	118.30	60.80	42.20	◎	×	◎	×	流紋岩	370	完形		
242	A12	包含層	Ia	102.20	84.60	43.40	◎	◎	×	◎	安山岩?	520	完形		第88図10
243	A13	北壁	Ia	98.40	80.30	22.10	×	×	◎	×	砂岩	220	完形		
244	A13	北壁	Ia	94.20	84.50	26.90	◎	×	◎	×	流紋岩	290	完形		

第2節 石器・石製品

No	出土区	出土遺構	分類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押図No	
245	A15	北壁	Ia	128.90	77.30	32.10	◎	×	◎	×	流紋岩	400	完形		第88図3	
246	A12	包含層	Ia	88.60	66.20	23.50	×	◎	×	◎	流紋岩	210	完形			
247	A13	北壁	Ia	98.00	74.00	35.70	◎	×	◎	×	砂岩	340	完形			
248	A12	集石	Ia	94.20	59.40	42.60	×	×	◎	×	流紋岩	340	完形			
249	A14	北壁	Ia	118.30	53.20	29.70	◎	×	◎	×	砂岩	290	完形			
250	A12	集石	Ia	128.00	90.10	51.40	×	×	◎	×	砂岩	790	完形			
251	A13	包含層	Ia	85.60	70.00	55.70	○	×	◎	×	砂岩	455	完形			
252	A14	集石	Ia	106.50	61.00	30.20	○	×	◎	×	砂岩	245	完形			
253	A13	包含層	Ia	102.30	61.80	29.50	×	×	◎	×	砂岩	255	完形			
254	A13	北壁	Ia	109.10	76.00	36.70	×	×	◎	×	砂岩	415	完形			
255	A20	包含層	Ia	89.40	81.70	37.00	×	×	◎	×	砂岩	350	完形			
256	A15	包含層	Ia	74.60	72.00	48.40	×	×	◎	×	砂岩	340	完形	二分割		
257	A13	包含層	IIa	145.70	(83.70)	42.00	◎	×	×	×	流紋岩	570	完形			
258	A12	包含層	Ia	104.00	79.60	32.90	◎	◎	×	×	安山岩?	405	完形		第88図6	
259	A14	北壁	IIa	98.50	94.10	56.60	◎	×	×	×	砂岩	730	完形			
260	A13	包含層	Ia	62.10	56.30	27.90	×	×	◎	×	流紋岩	250	完形	側面被熱、赤化		
261	A17	包含層	Ia	111.00	72.80	51.60	◎	×	◎	×	安山岩?	905	完形		第88図8	
262	A17	包含層	Ia	126.40	79.80	35.50	◎	×	◎	×	流紋岩	770	完形			
263	A13	包含層	Ia	85.70	78.50	40.50	◎	×	◎	×	砂岩	675	完形		第88図11	
264	A13	集石	Ic	121.90	78.00	48.80	◎	×	◎	×	砂岩	975	完形			
265	A12	包含層	Ia	88.30	74.50	30.00	◎	×	◎	×	砂岩	430	完形			
266	B2	包含層	IIc	159.00	58.90	37.60	○	○	×	×	砂岩	495	完形		第89図1	
267	A13	包含層	IIb	175.00	54.40	44.30	×	○	×	×	流紋岩	820	完形			
268	A15	包含層	Ia	47.80	40.30	23.10	×	×	◎	×	砂岩	135	完形			
269	A12	集石	Ic	126.80	98.10	50.80	×	○	◎	×	安山岩?	1,235	完形			
270	A17	包含層	Ia	122.00	60.00	24.40	○	×	◎	×	流紋岩	455	完形			
271	A14	集石	Ia	51.10	41.00	30.20	×	×	◎	×	安山岩?	175	完形			
272	A13	包含層	Ic	117.90	81.80	48.60	◎	×	◎	×	砂岩	1,020	完形		第88図14	
273	A13	包含層	Ic	91.90	76.00	49.50	×	×	◎	×	砂岩	830	完形			第88図12
274	A14	包含層	IIc	168.00	85.50	19.70	○	○	×	×	砂岩	740	完形		第89図2	
275	A14	集石	Ia	(116.90)	(65.00)	(16.80)	◎	×	◎	×	砂岩	210	破損			
276	A13	包含層	Ic	(88.00)	(28.70)	17.70	◎	×	◎	×	砂岩	165	破損			
277	A13	包含層	Ic	106.70	75.00	71.00	×	×	◎	×	砂岩	1,020	完形			
278	A13	包含層	Ia	(66.40)	67.30	31.70	×	×	◎	×	砂岩	340	破損			
279	A13	包含層	Ia	131.50	97.60	34.10	×	×	◎	×	砂岩	910	完形			
280	A14	集石	IIa	109.70	61.60	30.30	◎	×	×	×	砂岩	440	完形		第89図6	
281	A15	包含層	IIa	(71.50)	55.40	15.70	○	×	×	×	砂岩	245	破損			
282	A14	北壁	Ia	100.00	79.20	14.70	×	×	◎	×	砂岩	365	完形			
283	A13	包含層	Ia	97.00	59.50	8.00	×	×	◎	×	安山岩?	230	完形			
284	A17	包含層	Ia	(65.50)	(41.50)	(14.40)	○	—	○	—	砂岩	100	破損			
285	A10	包含層	IIb	167.00	55.60	37.10	×	○	×	×	砂岩	770	完形			
286	A13	包含層	Ia	(45.70)	(58.40)	44.40	—	○	—	○	砂岩	290	破損			
287	A12	包含層	Ia	(65.50)	(39.20)	41.70	—	—	◎	—	砂岩	285	破損			
288	A15	包含層	Ia	(65.00)	(38.70)	28.30	—	◎	○	—	砂岩	200	破損			
289	A13	包含層	Ia	44.80	38.30	28.70	×	×	◎	×	砂岩	140	完形			
290	A13	包含層	Ia	47.60	39.30	6.20	×	×	◎	×	砂岩	90	完形			
291	A13, 14	北壁	Ia	(80.00)	(63.20)	9.60	—	—	◎	—	砂岩	170	破損			
292	A12	包含層	Ia	90.40	51.00	24.10	×	×	◎	×	砂岩	280	完形			
293	A12	包含層	Ia	(31.30)	(59.80)	13.00	—	—	◎	—	砂岩	100	破損			
294	B14	集石	Ia	48.60	44.90	31.40	○	×	◎	×	安山岩	200	完形			
295	B14	集石	Ia	96.00	87.60	36.30	○	×	◎	×	砂岩	755	完形		第88図13	
296	A14	表土	Ia	133.20	51.30	20.10	◎	×	○	×	安山岩?	350	完形			第88図4
297	B19	包含層	Ia	83.60	61.30	37.40	◎	×	○	×	砂岩	450	完形			
298	B14	表土	Ia	54.70	49.60	28.40	×	×	◎	×	流紋岩	210	完形			
299	B3	包含層	Ib	89.90	78.80	34.30	×	×	○	×	砂岩	600	完形			
300	B14	包含層	Ia	74.90	64.20	42.10	×	×	○	×	安山岩	440	完形	全体まだらに赤化		

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押図No.
301	A9	包含層	Ia	54.40	36.20	22.80	○	×	×	×	砂岩	145	完形		
302	B5	包含層	Ia	82.20	78.10	35.00	○	◎	○	×	砂岩	550	完形		第88図7
303	B3	包含層	Ia	77.00	48.20	31.50	×	×	○	×	砂岩	310	完形		
304	B16	擾乱	Ia	105.80	82.50	26.80	○	×	○	×	砂岩	560	完形		
305	B5	包含層	Ia	60.90	51.90	21.60	×	×	◎	×	砂岩	210	完形		
306	B14	集石	Ia	111.60	57.10	48.40	×	×	×	○	グレイサイト	680	完形	被熟か	
307	B4	包含層	Ia	58.70	52.90	27.40	×	×	◎	×	流紋岩	230	完形		
308	B4	包含層	Ib	112.50	103.50	75.50	×	×	×	○	砂岩	1,100	完形		
309	B13	包含層	Ia	115.50	57.50	42.20	◎	○	◎	×	グレイサイト	330	完形		第88図2
310	B11	包含層	Ia	(62.70)	(63.60)	34.50	◎	○	○	○	砂岩	200	破損		
311	B15	包含層	IIa	(129.60)	54.90	45.70	○	×	×	×	砂岩	400			
312	B6	包含層	Ia	(65.60)	(80.30)	61.40	◎	○	○	○	砂岩	370	破損		
313	B15	包含層	Ia	95.30	84.70	43.90	×	×	◎	×	砂岩	440	完形		
314	B10	包含層	Ia	105.20	92.30	59.10	×	×	◎	×	砂岩	720	完形		
315	B6	包含層	Ia	(109.80)	(89.20)	62.40	×	×	×	×	砂岩	700	完形		
316	B8	包含層	Ia	115.50	93.40	51.60	×	◎	×	◎	流紋岩	780	完形		
317	B19	包含層	Ia	(68.70)	65.20	27.40	○	○	○	○	安山岩	130	破損		
318	A14	包含層	IIa	(140.80)	(29.00)	35.90	◎	×	×	×	安山岩	210	完形		
319	B13	包含層	Ia	(63.30)	73.60	54.70	×	×	×	×	砂岩	275	破損	表面風化、脆い	
320	B15	表土	Ia	143.60	61.80	49.80	×	◎	◎	×	砂岩	555	完形		第88図5
321	B14	包含層	Ia	(63.00)	(83.20)	41.90	×	×	○	×	砂岩	240	破損		
322	B6	包含層	IIa	(70.00)	(99.60)	(31.90)	○	○	○	○	流紋岩	255	破損		
323	B2	包含層	Ia	74.60	64.00	30.40	×	×	◎	×	砂岩	195	完形		
324	B6	包含層	Ia	141.10	67.90	37.30	○	×	○	×	安山岩	390	完形		
325	B13	集石	IIa	(85.90)	(68.60)	23.90	○	×	×	×	砂岩	140	破損		
326	B6	包含層	Ia	(62.00)	(81.90)	50.50	○	○	○	○	砂岩	305	破損		
327	B12	包含層	Ia	143.70	96.20	67.00	○	×	◎	×	安山岩	1,380	完形		第88図15
328	B11	包含層	Ia	77.40	63.80	53.80	×	×	×	×	砂岩	340	完形		
329	B13	包含層	Ia	95.40	67.20	38.40	○	×	○	×	砂岩	330	完形		
330	B13	包含層	Ia	96.20	56.90	26.50	◎	◎	○	×	砂岩	200	完形		
331	B13	包含層	Ia	78.50	55.80	28.90	◎	×	○	×	安山岩	155	完形		
332	B13	集石	Ic	110.60	66.80	46.30	○	×	○	○	砂岩	440	完形		
333	B12	包含層	IIc	148.30	72.70	39.00	◎	◎	×	×	砂岩	555	完形		第89図3
334	B12	包含層	IIa	108.40	81.00	50.00	◎	×	×	×	流紋岩	570	完形		第89図7
335	B13	集石	Ia	150.30	87.20	45.50	◎	×	○	×	砂岩	725	完形	二分割	
336	B12	表土	Ia	141.40	91.00	44.60	○	◎	○	×	砂岩	710	完形		第88図9
337	B13	包含層	Ia	106.70	49.70	32.00	◎	×	○	×	流紋岩	240	完形		
338	B12	集石	Ia	78.60	71.80	41.40	◎	×	○	×	安山岩?	310	完形		
339	B12	包含層	Ia	92.60	71.80	48.60	◎	×	×	×	安山岩	420	完形		
340	A12	包含層	Ia	114.20	68.50	24.50	×	◎	◎	×	流紋岩	260	完形		
341	B22	包含層	Ia	170.00	86.80	42.20	×	×	○	×	流紋岩	840	完形		
342	A12	包含層	Ia	69.00	64.70	34.10	○	◎	○	×	石英斑岩	220	完形		
343	B13	包含層	IIa	125.90	58.50	53.80	◎	×	×	×	安山岩?	580	完形		
344	A12	包含層	Ic	82.40	66.50	67.50	×	×	○	×	砂岩	500	完形		
345	B12	包含層	Ia	87.90	72.50	28.30	○	×	○	◎	安山岩	280	完形		
346	B22	包含層	Ia	223.00	119.80	81.00	×	×	○	×	砂岩	2,530	完形		
347	B13	包含層	Ia	(120.60)	(110.60)	58.00	×	×	○	×	砂岩	845	破損		
348	B19-20	7住	Ia	(119.90)	97.50	54.40	○	◎	○	○	砂岩	850	破損		
349		1住	Ic	(147.30)	(68.90)	62.00	◎	×	○	○	砂岩	640	破損		

IV 石皿類（第90～91図、石皿類観察一覧表）

石皿類は総数で22点出土した。内訳は遺構出土が20点、包含層出土が2点である。素材はそのほとんどが扁平な川原石を用いているものと思える。この類の石器は、一般に石皿・台石などと細別されるが、磨石類と同様に、機能・用途が重複することが多いため、上記の石器全てを一括して扱っている。

石皿類はその使用痕から分類した。観察した使用痕とその詳細は以下のようになる。

A 表面・裏面の磨痕の有無

観察可能なもの22点のうち、表裏両面に磨痕のあるもの(◎)は4点、片面だけに磨痕のあるもの(○)は16点、磨痕の無いもの(×)は2点であった。磨痕のあるものの割合は全体の約91%であるが、両面使用の割合は非常に低い。

B 機能面の形状

観察可能なもの22点のうち、機能面が摩耗により皿状に凹むもの(◎)は9点、機能面が平坦なもの(○)は12点、機能面が敲打により凹むもの(×)は1点であった。機能面の形状は平坦なものの方がやや多い程度である。

C 表面・裏面の敲打痕の有無

観察可能なもの19点のうち、表裏両面に敲打痕を残すもの(◎)は無く、片面のみに敲打痕を残すもの(○)は9点、敲打痕を残さないもの(×)は10点であった。機能面に敲打痕を残すものは全体の約47%とほぼ半数である。なお、本資料で顕著な敲打痕を残すものはほとんど無く、おしなべて微々たるものが多い。

D 磨痕と敲打痕の重複

観察可能なもの19点のうち、一機能面に磨痕と敲打痕が重複して残るもの(◎)は7点、磨痕を残す機能面と敲打痕を残す機能面が異なるもの(○)は1点、磨痕と敲打痕を同時に有さないもの(×)は11点であった。半数近くが磨痕と敲打痕を同一面に有するものの、前述したように顕著な敲打痕を残すものがほとんど無いため、積極的には評価し難い。

以上の使用痕観察に基づく分類は次のようになる（括弧内は総数）。

I 類 機能面が摩耗するもの

I a 類 機能面が比較的皿状に凹むもの（9点）

I b 類 機能面が比較的平坦なもの（12点）

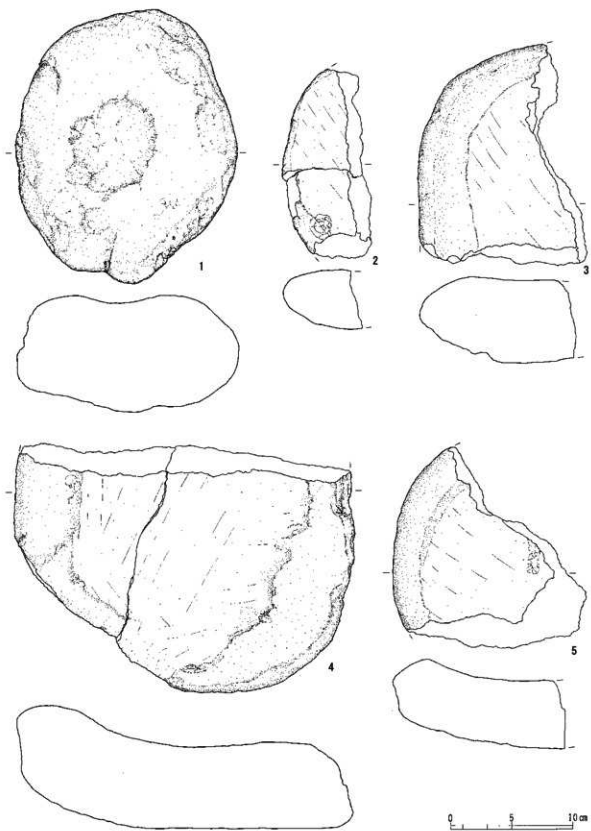
II 類 機能面に敲打痕のみを残すもの（1点）

石皿類は22点全てについて分類が可能であった。以下、各類について記述する。

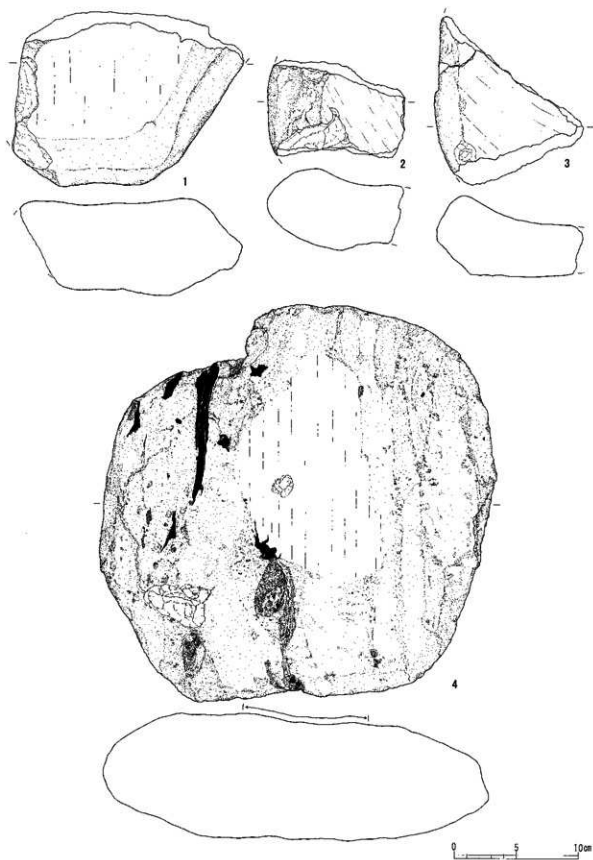
I 類（第90図2～5、第91図）

機能面に磨痕を残すもので、いわゆる「石皿」を指す。形態が皿状に凹むもの（a類）と平坦なもの（b類）に大きく分かれ、前者は「石皿」の典型的な部類である。一方、後者も石皿ではあるが、砥石や台石などとは厳密に区別し難い場合も考えられる。なお、本資料中、I類で両面に磨痕を残すものは無い。

第90図2～5、第91図1～3はI a類の典型で、全て破損している。第91図4はI b類で、本資料中最大の石皿であるが、摩耗しているのは平坦面のごく一部に過ぎない。両面に磨痕を残すのは全てこの類であり、機能面もみな平坦である。



第90圖 石皿類実測図(1)(縮尺1/3)



第91圖 石皿類実測図(2)(縮尺1/3)

II類 (第90図1)

機能面に敲打痕のみを残すもので、いわゆる「台石」の類であるが、その形状ゆえに凹石とされることもある。この類に分類されるのは、第90図1に図示した一点のみである。機能面のほぼ中央に径7cmあまりの凹みが形成され、その内部も敲打のせい、摩耗したように潰れている。

第6表 石皿類観察一覧表 (最大長、最大幅、最大厚はmm)

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長	最大幅	最大厚	A	B	C	D	石材	重量(g)	状態	備考	押図No.
1		1住	II	21.8	18.0	9.9	×	×	○	×	安山岩	5,340	完形		第90図1
2		1住	I a	(12.4)	(12.7)	(6.8)	○	◎	◎	◎	流紋岩	1,310	破損		
3		1住	I b	(17.9)	(11.5)	(6.4)	○	○	—	—	流紋岩	1,610	破損		
4		2住3区上部	I b	(30.5)	17.5	15.2	○	○	×	×	流紋岩	12,340	破損		
5		2住4区上部	I b	28.6	20.3	5.5	◎	○	×	×	凝灰質砂岩	3,980	完形		
6		2住炉	I a	(18.2)	(19.3)	(10.8)	×	◎	◎	◎	安山岩	4,320	破損		
7		3住1区床	I b	31.9	31.3	9.9	○	○	○	◎	砂岩	13,310	完形		第91図4
8		4住2区上部	I b	36.1	32.7	6.8	○	○	×	×	流紋岩	10,570	完形		
9		4住P6	I b	34.3	21.3	6.5	○	○	×	×	流紋岩	6,170	完形		
10		5住1区	I b	36.3	21.3	7.0	○	○	×	×	石英凝岩	7,090	完形		
11		5住4区下部	I b	35.7	27.5	7.7	◎	○	×	◎	流紋岩	10,440	完形		
12		5住2区下部	I a	(20.0)	28.7	10.7	○	◎	×	×	流紋岩	6,300	破損	二つに分割	第90図4
13		5住2区	I a	(16.3)	(16.0)	(6.8)	◎	×	×	×	流紋岩	1,640	破損		第90図5
14		6住	I b	24.0	16.3	11.8	◎	○	×	×	砂岩	5,470	完形	側面にも使用痕	
15		7住床	I b	30.4	11.4	6.5	◎	○	×	×	砂岩	2,890	完形		
16		7住床	I b	20.8	13.5	8.7	○	○	×	×	砂岩	3,020	完形	紙石、磨り跡あり	
17		7住	I a	14.6	11.9	3.8	○	◎	○	◎	流紋岩	840	完形		
18		7住炉	I a	(7.9)	(11.2)	(6.7)	○	◎	—	—	砂岩	780	破損		第91図2
19 A8		P 7 8	I a	(13.1)	(12.4)	(6.8)	○	◎	◎	◎	流紋岩	910	破損	二つに分割	第91図3
20 A8		P 7 8	I a	(15.3)	(7.4)	(6.8)	○	◎	◎	◎	流紋岩	700	破損	No.19と同一個体か	第90図2
21 B15		包含層	I a	(18.1)	(14.7)	(7.1)	○	◎	—	—	安山岩	2,190	破損		第90図3
22 B14		集石	I b	(13.8)	(18.7)	(8.0)	○	○	×	×	砂岩	2,730	破損		第91図1

V 石錘 (第92図、石錘観察一覧表)

石錘は総数で25点出土した。内訳は遺構出土が16点、包含層出土(表採含む)が9点である。

石錘は紐掛の作出方法およびその部位に着目して分類した。各類の詳細は次のようになる(括弧内は総数)。

I類 研磨により紐掛を作出するもの

- a 長軸に部分的な紐掛を持つもの(18点)
- b 短軸に部分的な紐掛を持つもの

II類 剥離により紐掛を作出するもの

- a 長軸に紐掛を持つもの(7点)
- b 短軸に紐掛を持つもの

III類 剥離と研磨を併用して紐掛を作出するもの

石錘は25点全てについて分類が可能であった。以下、各類について記述する。

I類 (第92図1～18)

切目石錘と呼ばれるものである。18点全てI a類に属し、小型かつ長い形状のものが多い。内訳は完形品12点、破損品6点であった。完形品最大のものは17で98.2g、最小のものは2で24.0gである。

2は複数の切目が刻まれ、石錘の上端から下端の切目近くまで達しているが、周囲を巡るには至って

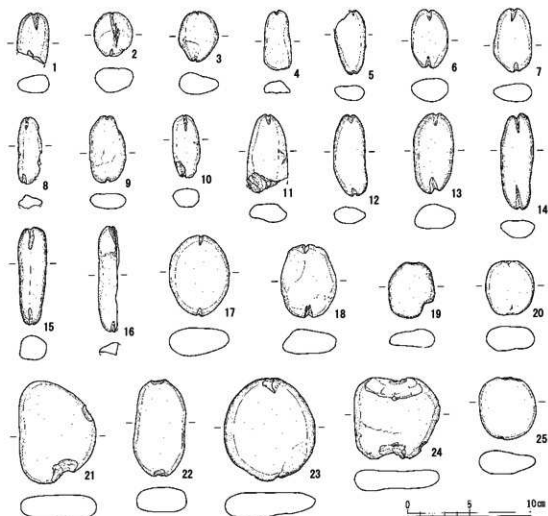
いない。なお、研磨により作出した紐掛の溝を円石の周囲に巡らせたものを、特に有溝石鍾と呼ぶが、本資料中には確認されなかった。4は切目が上部のみに作出されており、下部には無い。

II類 (第92図19~25)

礫石鍾あるいは打欠石鍾と呼ばれるもので、総数は7点である。7点全てIIa類に属し、I類とは対照的に大型かつ扁平な形状のものが多い。7点全て完形品で、最大のものは1で160.9g、最小のものは23で33.9gである。

19は上部の打欠のみ作出され、それも潰れている。右下の袂入部のように見える部分は自然形状で、そのまま紐掛として利用したと思われる。20は打欠が上下とも潰れて、やや不明瞭である。21は隅丸三角形とでも言うべき形をしており、そのせいか、紐掛が長軸でも短軸でもなく、二短辺にそれぞれ作出されている。この二つの紐掛のみでは実用性に疑問が残り、使用方法に一考を要する。おそらくは紐掛の無い長辺も利用しつつ、紐を掛けていたと思われるが、長辺に紐掛による摩擦などの顕著な使用痕は特に観察されなかった。23の上部の打欠はごく僅かで、下部の紐掛とおぼしき袂入は、19と同様に自然形状と思われる。25の紐掛は上下ともほとんど潰れており、剥離面も明瞭ではない。

III類は、言わば切目と打欠の複合形態を取るものだが、本資料中には確認されなかった。



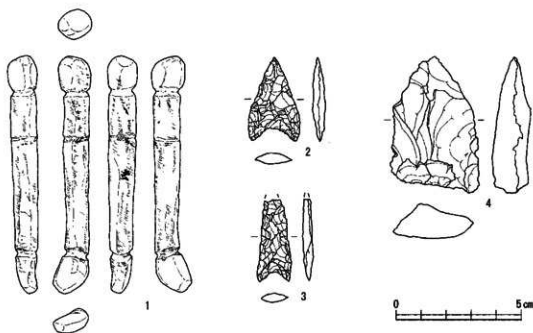
第92図 石鍾実測図 (縮尺1/3)

第7表 石錘観察一覧表

No.	出土区	出土遺構	分類	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	石材	重量 (g)	状態	備考	押印No.
1		1住	IIa	85.20	74.60	24.90	デイサイト	160.9	完形		第92図23
2		2住5区中部	Ia	52.25	25.25	14.55	片岩	24.0	完形		第92図5
3		3住1区上部	Ia	50.95	22.35	15.50	片岩	26.3	完形		第92図10
4		4住2区上部	IIa	44.10	40.20	24.85	安山岩	47.8	完形	縦横潰れ	第92図20
5		4住2区上部	Ia	40.40	32.65	17.80	片岩	27.3	完形		第92図3
6		5住1区上部	Ia	52.00	31.85	15.35	片岩	35.0	完形		第92図7
7		6住F	Ia	46.65	29.70	19.15	砂岩	30.0	完形		第92図6
8		7住	Ia	53.45	29.05	13.30	片岩	30.2	完形		第92図9
9		7住	Ia	66.25	28.00	15.10	砂岩	36.8	完形		第92図12
10		7住	Ia	54.45	19.45	12.10	片岩	13.8	破損		第92図8
11		7住	Ia	65.25	32.75	21.50	頁岩	66.8	完形		第92図13
12	A6	配石1	Ia	65.70	49.55	23.00	頁岩	98.2	完形		第92図17
13	A9	土16	Ia	78.15	26.35	14.65	片岩	44.1	完形		第92図14
14	B9	P128	Ia	36.25	31.70	20.30	砂岩	24.0	完形		第92図2
15	A9	P132	Ia	(64.50)	33.20	16.35	片岩	43.1	破損		第92図11
16	A14	P243	Ia	48.40	22.35	12.75	片岩	15.2	破損		第92図4
17	B4	包含層	IIa	65.75	69.85	21.80	砂岩	113.9	完形		第92図24
18	B5	包含層	Ia	79.50	23.05	19.70	安山岩	47.5	完形		第92図15
19	B9	包含層	IIa	79.00	42.25	22.35	流紋岩	104.9	完形		第92図22
20	B9	包含層	Ia	60.25	45.20	24.60	片岩	74.3	完形		第92図18
21	B14	包含層	IIa	54.95	48.60	19.70	砂岩	63.7	完形		第92図25
22	B15	包含層	Ia	87.25	(16.50)	11.10	片岩	22.4	破損		第92図16
23	A16	包含層	IIa	46.60	38.00	15.60	安山岩	33.9	完形		第92図19
24	B21	包含層	Ia	(40.25)	25.80	16.40	頁岩	21.8	破損		第92図1
25	B14	表土	IIa	83.35	62.35	17.70	砂岩	141.8	完形		第92図21

VI 石錘 (第93図2~4、石錘観察一覧表)

石錘は総数で5点出土した。うち3点は未製品と思える。内訳は遺構内出土が2点、包含層出土(表採含む)が3点である。



第93図 石錘・石製品実測図(縮尺2/3)

2は製品としては唯一の完形品である。基部が挿入し、短い脚を形成する無茎鏃で、全体はほぼ二等辺三角形を呈するが、側辺が脚部付近からやや内湾している。調整は表裏とも非常に丁寧で、脚部や基部の挿入の曲線も美しく仕上げられ、断面はレンズ状を呈する。3も基部が挿入する無茎鏃で、先端部を欠損している。側辺は直線的で、全体は二等辺三角形を呈していたと思える。調整は表裏とも比較的丁寧で、断面はレンズ状を呈する。4は石槍か尖頭器の未製品とも思え、基部は直線的で、全体はほぼホームベース形を呈する。表面の調整は非常に粗く、裏面に調整はほとんど施されていない。

第8表 石鏃観察一覧表

No.	出土区	出土遺構	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	石材	重量 (g)	状態	備考	押図No.
1		4・5住3区	33.65	20.60	5.20	チャート	2.6	完形		第93図2
2	B12	包含層	23.85	14.20	4.00	チャート	1.1	完形	未製品	
3	B12	包含層	35.75	21.10	5.85	チャート	2.6	完形	未製品	
4		表探	(30,60)	13.45	4.00	チャート	1.8	破損	先端欠	第93図3
5	B12	P223	53.60	35.05	15.00	頁岩	25.6	破損		第93図4

Ⅶ 石棒

A・B14～15区の集石および3号住居跡で各1点ずつ、計2点出土したが、残念ながらいずれも調査中に盗難に遭い、紛失した。ここでは3号住居跡出土の石棒について若干の記憶を書き留めておきたい。

3号住居跡出土の石棒は頭部を破損したものと思え、長さ20cm弱、直径7～8cm程の円柱形をしており、下端部は無頭で、頂部は平坦に整形されていた。本来は長大な石棒の一部であったと推測される。

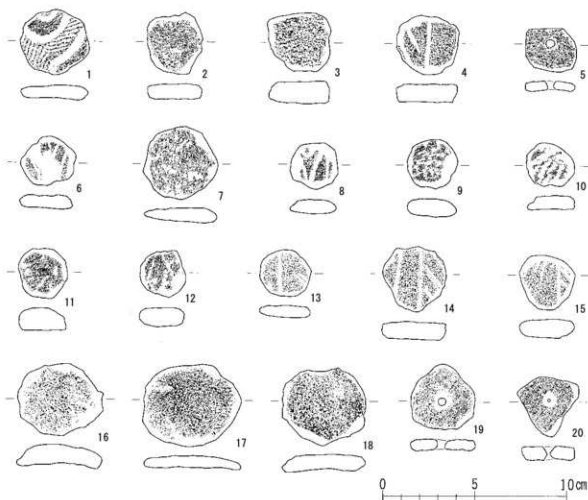
Ⅷ 石製品 (第93図1)

3号住居跡より、用途不明の石製品が1点出土している。最大長94.00mm、上端部幅13.30mm、下端部幅14.25mm、重さ17.0gを測る。石材は細粒砂岩で、石質は硬い。上・下端部とも明瞭なくびれを作出し、一見すると両頭石棒のミニチュア風ではあるが、下端部が曲っており、上端部の形状も同じ方向にやや偏っている。上端部くびれの下方に見える不明瞭な線刻も、あるいはくびれを作出しようとした痕跡かも知れない。また、整形に伴うと思われる顕著な線条痕が表面の至る所に観察出来る。

第3節 土製品 (図版第二十七(2))

土製円盤 (第94図1~20)

土器片を円板状に打ち欠き、側縁を磨き整えたものである。20点が出土した。中央に円孔を穿ったもの(5・19・20)と円孔をもたないもの(1~4・6~18)がある。土器片は、縄文時代中期~後期のものが使用されている。出土遺構は、1~5が2号住居跡、6~8が3号住居跡、9~12が4号住居跡、13~15が5号住居跡、16~18が7号住居跡、19が柱列ビット1、20が土坑86である。



第94図 土製品実測図 (縮尺1/2)

第9表 土製品観察一覧表

押図№	出土区	押図№	出土区
第94図1	2住5区中部	第94図11	4住1区下部
2	2住2区上部	12	4住3区上・下部
3	2住2区上部	13	5住1区上部
4	2住1トレンチ	14	5住1区上部
5	2住5トレンチ	15	5住3区上部
6	3住2区上部	16	7住4区下部
7	3住	17	7住3区下部
8	3住3区下部	18	7住
9	4住	19	A10 柱列ビット1
10	4住2区上部	20	B9 土坑86